

て力とは精神的、物質的の何れにも應用せらる。精神的なる時は to endure (堪へる) に類似し物質的なる時は to have money enough に類似す。

(d) Do. — 此の場合には live, fare の意にして How do you do? He is doing very well の do に同じ。

(e) Lay up. — To lay は積たへるなり up は上の方に上るなり。故に貯蓄するの意に用ふること多し。此の場合に於ては日常の習慣は積もり積つて將來の不幸の山を造るの意なり。此の句には又病床に臥すの意あり。☐も普通に使用するものなれば記憶すべし。

類例：—

He laid up a great sum while he was connected with the business.

彼は其の業をしてゐる時に大金を貯めた。

He was laid up weeks, with fever.

彼は熱のために數週間床に就いた。

(3)

We were now fifteen souls; ||

the thermometer being 75 degrees below the freezing point,

and

our only accommodation (being) a tent (which was)

barely able to contain eight persons: ☐

more than half our party were obliged to keep from

freezing by walking outside

while | the others slept.

( 180 )

〔譯〕 我等は此の時十五人なりき、寒暖計は氷點下七十五度にして唯一の設備は辛じて八人を容るゝ天幕なりしかば一行の半數以上は他の者が眠むれる間幕外を歩みて凍死を避けざる可らざりき。

〔分解法〕

(a) 此の問題の主眼は our only accommodation と a tent と連続して解釋に困難を與ふるに在り。余の分解法を用ふれば誤まらんとするも能はざるべし。☐原則として二個の名詞は並立するものに非ず。若し並立する時は一方が形容詞なるか或は兩者同格なり、故に此の場合に於ては暫く兩者を引き離しその文法的關係は次に來る語句の性質に依りて判定せざる可らず。

(b) A tent. — 次に able なる形容詞あるを以て例の如く (which was) を補充すれば (which was).....eight persons までは tent の形容句なるを以て accommodation と tent とを聯絡する何かの語なかるべからず、乃ち翻つて文頭を望めば thermometer は (being) を有する不完句なるを以て兩者の中間に (being) を補充すれば兩不完句は整然として對立し最後の一句に對して理由を示すことを知るべし。

〔註解〕

(a) Souls. — Mind, heart を man に代用する如く souls を人に代用することは最も普通なり。

類例：—

Not a soul was to be seen in the street.

行人の隻影なし。

The unwise measure kindled the most gentle mind to rage.

その愚行はこの最も此柔順なる人を怒らしめき。

( 181 )



(b) **Being.**—斯の如き分詞句は原因理由を示すこと多し故に「故に」或は「したれば」と譯することありと記憶せよ。

類例:—

The sun **being** hot, we went in the shade. (=The sun was hot, and we went in the shade=**as** the sun was hot, we went in the shade.)

陽熱かりしかば余等は日陰を行けり。

We all went, he alone remaining. (=We all went, **while** he alone remained.)

彼一人残りて余等は皆行けり。

(c) **Barely.**—此の語は元來 naked (裸) の意なり。轉じて poor (乏しき) の意となれり。形容詞副詞共に其の用法に異なる所なし。

類例:—

We had a **bare** escape.

我等は辛じて逃げた。

You have **barely** time to reach the station.

君、ステーションに行くには間に合はないかも知れない。

(4)

The President,

(何?)  
in giving to his most powerful (*rival*)  
and  
(*in giving to his*) most distinguished rival  
the greatest <sup>(賓)</sup> place  
which a president ever has <sup>(何?)</sup> in his power  
to bestow.

gave an excellent proof

of the nobleness of his own spirit.

[譯] 大統領は、最も有力且卓越せる競争者に、大統領として與ふることを得る最大の位置を與へたり。是れ其の精神の清高を實に能く證明するものとす。

[分解法]

類形連続して讀者を眩惑せしめずんば止まざる此の難問題も分解法を用ふれば快刀斷亂麻の感なき能はず。先づ the greatest place は離るべからざる一句なることは論を要せず故に rival より分離すべし。which の先行詞は place にして bestow を賓語となす。it は to bestow を代表する Anticipative Subject なり。bestow の次は comma あるを以て gave 以下を分離し。再び文頭より文末に眼を放てば in giving.....to bestow は前後 comma にて區切られたるを以て其の全部を區劃すれば The President は下なる gave に對する主語なることを一目瞭然たらしむ、又形式相似たるを以て解釋に困難を感じしむる the most distinguished rival と the greatest place とは相互に文法的關係を有することなく前者は to の賓語にして後者は giving (他動詞なるを以て下に賓語の來るを明示す) の賓語たることも容易に知り得べし。

[註解]

(a) **In giving.**—此の句と下の gave とを連結して是を直譯すれば「何々を與ふることにて何々を與へた」とすべし。此の場合 in は一物が他物の中に存在するといふ本來の性質を考ふれば思半に過ぎん。換言すれば「何々を與へたのは即ち何々を與へることになるの」義なり。是を Identity (一致) を示す in といふ。故に文章の形式を下の如く變換したると大差なし。



The President gave.....to bestow,  
which was an excellent proof.....

下に掲げたる類例中には此の問題の如く Gerund を賓語とせざるものあれども類似の點あるを以て對照研究せしめんとてなり。

類例：一

You did wrong **in asking** a favour of such a mean fellow.

あんな根性の賤しい奴に頼んだのは君の誤だ。

He (Benjamin West) felt as if there might be wrong **in stealing** the baby's face and **putting** it upon a sheet of paper.— Hawthorne.

彼は赤子の顔を盗んで、其れを紙に寫すことは悪い事でもあるように思つたのである。

Japan has lost one of her greatest heroes **in** the death of General Nogi.

日本が乃木將軍を失つたのは即ち日本の大豪傑の一人を失つたといふ事だ。

I have found a rare hypocrite **in** the well-known educationist.

私は此の知名の教育家は珍らしい偽善者であるといふ事を發見した。

(b) **A president.**—「誰にても大統領である者が」の意なり。不定冠詞の用法に注意せよ、斯る場合には a は any の力ありと思へ。

(c) **In his power.**—最も普通なる句なり。其の値は略 can に同じ、which a president can bestow と思へば大差なからん。

類例：一

I am glad to do you **all in my power.**

私の出来るだけの事はして上げたい。

I found it **beyond my power to help** him.

私は彼を救ふことは自分の力に及ばないと思つた。

(5)

To judge, **rightly**, of the present,  
we must oppose it° to the past;||

for

all judgement is comparative,

and

of the future

nothing can be known.

〔譯〕 現在を正當に判斷せんには、之を過去と對照せざるべからず。蓋し凡ての判斷は比較的にして、且未來に關しては何事も知ることは能はざればなり。

〔分解法〕

(a) Rightly の如き副詞は大體の意味を取るには寧ろ邪魔物なるを以て假りに無き物として除けば To judge と of と連繋するを知るべし。it は最近の名詞 the present を代表するを以て兩語の肩に小圈點を付して目印とす。

(b) Of the future. の次には nothing can be known の成句あるを以て此の成句を別行に移せば of the future の一片句は何物にか附屬せざるべからざるを覚えしむ。願れば To judge of the present に同一形式を認むれども此の連繋は餘りに遠き感あるのみならず past の次に semicolon ありて for 以下は以上と明なる區劃あるを示すを如何せん。且つ for (如何となれば) の語より推すに下句は上句の説明なるや明なり。是を以て To judge of the future とすべからざることを知らば of the future は nothing can be known に附屬する副詞句はして既出の the present, the past と對



照の必要上句頭に倒置したるものなりと断定せざるべからず。此の問題の難關は future と nothing との異種連續 にあり、若し輕率に讀過すれば future を nothing の形容詞の如く考ふこともあらん、分解法を用ひざれば兩者の分離を一目して見ること能はざるを以て誤解を生じ易し。出題者は此の弱點に乗ぜんとするなり。

(6)

Games should never be the business of life,  
but  
in moderation  
enjoyment is not idleness.

〔譯〕 遊戯を以て生活の業務の如くするは不可なり。然れども適度に之を行へば娛樂は怠惰と謂ふ可らず。

〔註解〕 (a) Moderation と enjoyment とは連續したれども相互に文法的關係を有せざる名詞にして moderation を enjoyment の形容詞とすること能はず。如何となれば moderation には前置詞 (in) あるを以て其の賓語とせざるべからず、假りに enjoyment の形容詞とせば enjoyment を in の賓語とせざるべからず一方に於て賓語たると同時に次なる動詞 (is) の主語たることは文法の原則が之を許さざるなり。故に兩語を分離すれば in moderation は enjoyment is not idleness に対する Adverbial Clause にして when it is taken in moderation の約なり。

(b) Idleness. は徒らに時を費すことなり。又形容詞 idle は useless のに用ふることを記憶すべし。

That was but an idle talk.

其れは畢竟無駄話であつた。

(7)

I. (When we are out of sorts) things get on our nerves,  
the most trifling annoyances assume the proportions  
of a catastrophe. It is a sure sign (that we need rest  
and fresh air.)

II. When we are out of sorts  
things get on our nerves,  
the most trifling annoyances  
assume the proportions of a catastrophe.

It is a sure sign  
that | we need rest  
and  
(that | we need) fresh air.

〔譯〕 健康が勝れないと萬事が苦勞になる。極めて瑣々たる煩ひも(大きな)禍ほどに感ずるやうになる。さう成つたら休養と新鮮な空氣を要すると云ふ確な兆候だ。

〔分解法〕

(a) I. は問題を別紙に書き換ふるを容さざる時執るべき方法の一を示したるなり、Gothic 體にて印刷せる部分は受験者が便宜色鉛筆を以て字下に横線を施すべきものにして各成句の主語なり、是れ解釋には先づ主語と制限動詞とに着眼することを要すればなり。さて things... nerves の一句と the most trifling annoyances... a catastrophe の一句とは全然文法上の關係を同じく有するものにして nerves の次に and を省略したるものなることは things と the most trifling annoyances とは長短の相異こそあれ一は get



の、他は assume の主語たる點に於て、又 our nerves と the proportions of a catastrophe とは一は get on (他動詞と見ることを得)他は assume の賓語たる點に於て全然同じきを以て知るべし故に此等を平行對立せしむ。

(b) It は前文を受けたるものにして that 以下の句を受けたるものに非ざることは常識に訴へても明ならん。It は後に that の來る時には that 以下の句に關すること多きを以て注意すべし。rest と fresh air とは need に對して同種連續とす。

【註解】

(a) **Out of sorts.**—Sort は元來種類の意なるが轉じて順序、秩序の意を生ぜり。即ち out of sorts は out of order にして身體の調子の狂ふことなり。疾病といふ程に非らざる不快なり。邦語に御不例の句あるを想へば彼我同一思想の存する場合あるを領會すべし。

類例：—

I feel a little **out of sorts** this morning.

僕は今朝少し氣分が勝れない。

He soon gets **out of temper**.

あの人は直に怒る。

(b) **Get on.**—此の句は恰も to seize on 或は encroach on の如く制限若くは壓迫の意を示すことあり。邦語に機に乗ず虚に乗ず等の乗ずと稍々似通ひたる意ありと知るべし。nerves は神經、體力、氣力、勇氣等と譯す。形容詞 nervous は弱き神經、即ち所謂神經質の義に用ふ。是を以て to get on nerves は體力、氣力を壓迫して其の力を滅殺せしむることなり。其の結果としては容易に倦怠を生じ神氣の興奮を生ず。或人は此句を譯して癢に障るとしたるが必ずしも其の意味に限らず。the trifling annoyances 以下の句は能く其の然らざるを説明したり。

(c) **Assume.**—此の語の最も普通なる譯は取る、呈す、見せ掛く、

引き請く等なり。名詞形は assumption にして多く假説と譯す概して勝手に取るの意を表はす。故に自己の權利に非ざるものを我が物とするの意に用ひらるることあり。此の問題に於ても多少其の意を含むものとす。

類例：—

The affair is **assuming** a serious aspect.

其の事件は愈々容易ならず。

I **assume** that the doctrine is pernicious to public peace.

余は敢て言ふ其の主義は公安に害ありと。

(d) **Proportions.**—身長の大なる人は手足も亦大なるが如きを割合をいふ。即ち fitness of parts to one another の意なり。複數にしたるは各部分を表はさんが爲めにして猶ほ boundaries, limits, compounds, grounds, dimensions 等が複數なるが如し。而して茲には magnitude, importance, extent の意を示すものとす。

類例：—

When he speaks of a small fish, it **takes the magnitude** of a whale,

あの男に言はせると小魚も鯨のやうになる。

The disturbance is now **assuming the size** of a revolution.

その騷擾は擴大して今や革命となりつゝあり。

( 8 )

He (Daniel Defoe) was nearly sixty

before he had published his first novel

Robinson Crusoe,

the book°



by which | he is universally known,  
and  
on which | with the seven other novels  
which followed it°  
the foundation of his literary fame rests.

〔譯〕 彼(ダニエル・ディフォー)は六十歳に垂んとして始めて第一の小説(ロビンソン・クルーソー)を出版す。此の書に依りて彼は普く(其の名を)知られ、又此の書と次の七種は専ら彼が文名を博する礎となりぬ。

〔分解法〕

By which と on which とは形式同一なる以を對立せしむれば兩者が the book に連繫すること明なるべし而して which followed it の which は前置詞なるを以て前二者と同一視すること能はず。故に最近の名詞 other novels に連繫するものとせざる可らず。又 followed は他動詞にして it が其の賓語たるは明なるを以て the foundation は followed に連繫せざる可なり。況んや rests なる動詞を有するをや、故に with.....it を挿入句として除ければ the foundation.....rests は on which に連繫すべきを知るべし。試に挿入句の位置を轉換すれば by which, on which にて引き出だされたる二句が同一形式なることを認むべし、此の問題の着眼點は異種連續たる Robinson Crusoe と the book との關係を知るに困難あるに存す。

the book  
by which | he is universally known,  
on which | the foundation of..... fame rests.

〔註解〕

○ Rest.— To depend, rely 等が on, upon を要求する如く又 on, upon を取りて或る物の根柢が其れに存することを示す。

類例:—

Rest your head on my shoulder.  
君の頭を僕の肩に上せろ。  
His popularity rests rather on his blood than his talent.  
彼が人望のあるのは其の才幹より寧ろ血統である。  
He firmly stood on his principle.  
氏は自己の主義を固執せり。

( 9 )

Everyone

who chooses to lead a noble life  
may lead a noble life,

〔譯〕 心だにあらば何人にも高尚なる生活を爲すことを得べし。

〔分解法〕

(a) 本文は混文 (Complex Sentence) にして主要部は Everyone may lead a noble life, 附屬部は who chooses to lead a noble life なり。本文を各部に分解するには先づ who chooses を Everyone より分離すべし、第 4 頁参照。

(b) Chooses は本動詞にして may は助動詞なるを以て此兩者は連續すべき性質を有せず、且 may は lead と共に亦一個の動詞を形成す、而して choose は他動詞にして賓語を取る、然るに may lead は主語を取る制限動詞にして chooses の賓語たるを得ず。此の一點よりしても此兩語の分離すべきものなるや明なり。

(c) May lead は chooses と同じく動詞なるを以て對立せしむれば自然 chooses の次に lead a noble life 丈の空間を生ずるを以て to lead a



noble life を補へば、其れが chooses の賓語たること明なり。何故に lead a noble life とせず to lead a noble life と to を加へたるやと問はん。凡そ動詞が他の動詞の賓語となる時は概して二種の形を有す。其一は不定詞にして他は名動詞なり。故に茲には不定詞として補充せり勿論名動詞 leading とするも大差なし。

〔註解〕

(a) To choose. — 選擇す、好む、欲す。

類例：—

Take whichever you choose.

どちらでもお好みの方をお取りなさい。

If you choose to go, I will not mind to be your guide.

行きたければ私が案内者となつてもよい。

(b) To lead a life. — 生活を送る、暮す。

類例：—

He leads a dog's life.

彼は憐れな生活をしてゐる。

The young man is leading a life of dissipation.

あの青年は放蕩をしてゐる。

(10)

Time is one of Heaven's richest gifts ;

and (if)

(time is) once lost

(time) is irrevocable.

〔譯〕 時は天の授くる寶賜の一なり、一度之を失へば再び得ること能はず。

〔分解法〕

(a) Gifts の次は semicolon にて大なる區切なれば縦線を以て區劃す。

(b) Lost は動詞にして過去に非すんば過去分詞なりと心に留め置きて徐々文頭に顧みれば Time is と其處に動詞あり、故に其直下に對立せしむれば直ちに主語+動詞 (time is) の省略を知るべし、假りに lost を過去とせんか time lost は時は失へりと譯さざる可らず、失へり? 何を? と問ひ、其の賓語を求むるに之れ無し、故に過去分詞として is に連続せしむれば受働詞を構成するを以て賓語の必要なし、是に依りて time is lost の連結は誤なしと斷定することを得べし、又茲に最も注意すべきは once なり、此の語は語勢上 if を生ず漢文に於ても是に該當する語は接續詞なくして if の意を生ずることを知れるなるべし。

試みに漢譯せん。

時者天之寶賜、一失不能再得。

〔註解〕

Irrevocable. — 斯の如き多量の語を暗記し且つ其の精神を知らんに語源を研究するに如かず、然れども一般學生は其の餘裕なければ少くとも原書<sup>は</sup>の字典を用ひて字を求むる度毎に其の語源を一瞥する習慣を養ふべし、爾くすること一二年を積まば驚くべき多數の語を記憶するに至らむ、一例を擧ぐれば此の語は revoke を起源とし revoke は re+voke に分解す、re は back の意にして voke は佛語の vocare (= to call) に由來す、即ち to call back, の意なり、譯して呼び返へす、挽回す、取り返へす、言ひ返へすとなす、然れども讀者よ、餘り多くの譯語を記憶せんとして頭腦を疲勞せしむることを已めよ re と voke の二つを記憶せば譯語の如きは臨機に自由に案出せらるべし、今 voke に由來する語を少しく参考に供せん。

vocal (音聲の); vocation (職業); vocative (呼格); convoke (召集す); invoke (禱に祈求す)。



(11)

But he

who would succeed

must pay the the price.

Into work

which he feels to be a part of his existence

he must pour his whole heart and soul.

〔譯〕 成功せんと欲する者は(其成功に對する)價を拂はざるべからず。自己の生活その物の一部分なりと感ずる仕事には心身の力を傾注せざるべからず。

〔分解法〕

(a) Who would succeed は he に對し、which he feels.....existence は work に對する Adjective Clause なるを以て各々之を除けば he は must pay the price に連続し、Into work は he must pour.....soul に對する Adverbial Phrase たることは一目瞭然たり、此の場合に於ては would succeed と must pay とは即ち異種連続とす。

(b) Into work は強勢のため倒置せられ、且、修飾語長きを以て he must pour.....soul に繋ることを容易に知らしめざるなり、此の場合に於ては his existence と he とは異種連続なり。

〔註解〕

(a) Would は欲するの意なり。the price の定冠詞は成功に對する其の意を示す、定冠詞は指示の意なくしては用ひざること斯の如し。

(b) Work (仕事)は人間生活の全體に非ず其の一部分なり、part には下の如き特別の用法あることを記憶せよ。

類例:—

I am a part of all I have seen and heard —Hamerton.

余は自己の見聞せるものゝ一部分なり (即ち其の影響感化を幾分受けたり)。

Indeed our education is part of ourselves; we have all at any rate one pupil whom we must teach and educate.—Use of Life.

實際吾等の教育は吾等自身の一部である、吾等には兎に角一人の學生——自己といふ學生——が有つて其れを是非とも教育しなければならぬ。

What we teach ourselves becomes much more a part of our being than what we learn from others.—Use of Life.

吾等か自己に教ふるものは他人より習ふものよりは吾等の生活の一部となることが遙に多い。

(12)

Many of those

who have had,

as we say,

all that this would can give

have yet told us (that)

they owed much of their purest happiness

to books.

〔譯〕 俗に何不自由なしと言はるゝ生活をしたる人も眞の幸福は多く書籍の賜物なりきと言ふもの多し。



〔分解法〕

(a) Who have had と as we say とは共に成句にして各々 comma を以て打ち切りたれば之を分離すべし、然らば all that this would can give は as we say を隔て、who have had に連繋するを容易に知るべし。

(b) Can give と have told とは同品詞の連続なり、而かも此兩者は連結せらるべき性質を有せざることを知らざる可らず、即ち give は他動詞にして次に賓語を要求す、然るに have は told と連結する助動詞なるを以て give の賓語とすべからず、故に兎に角兩者を分離せしめて have yet told us を別行に置かざる可らず。

(c) Told は二重賓語を取る他動詞なり、(是を容易に知る方法は先づ疑問を起すべし、我等に語るは何? 乃ち told は us の次に尙一の賓語の來るべきを知らん、故に次に來るものは told の賓語にして us と連続すべき性質なることを豫め心に留め置くべし。

(d) 以上の分解法に依りて have told 以下 can give に至るまでは第一行 Many of those に直接連繋すべきものなるを正確に知るを得たり。

〔註解〕

(a) As we say は「世間の人々が往々言ふことなるが」の意にして as は「如く」と直譯するを普通とすれど、若し了解に困難ならば as は which と略ぼ同じ力を有するものにして who have had.....give の全成句を指示するものと思ふて可なり、we は people の意なり。

(b) All that を簡単にすれば what なり、故に all that に遭遇しては what と知り、what を見ては結局 all that と大差なきものと覺るの應用力を養ふべし、學生の失敗は此の應用の才なきに主因す。

(c) To owe は owing to といふ前置詞と同じく次に必ず to を要求す、一定の前置詞を伴ふ一定の動詞、名詞は解釋に最も必要なれば文法書に依りて十分練習記憶すべし、又次の文に依りて to owe to の用法を知りたらば同時に owing to の類形をも知るの必要あり、學生は一々他人の注意に恃まざりて獨力にて演釋、歸納の方法に熟するを要す。

(13)

Supposing the sea to have a mean depth of one thousand feet,

it has been calculated

that the amount of common salt (that)

it contains

is equal to five times the mass of the Alps.

〔譯〕 假に海洋の深さを平均一千呎とすれば其の包含する普通の鹽分は之を計算すればアルプス山の質量の五倍に等しといふ。

〔分解法〕

此の問題の主眼は contains と is とが連続したる點にあり、分解法を知らざるものは或は眩惑せん、一度此の法を知らば斯る問題は平々凡々たるのみ、(助動詞+本動詞)に非ざる限り二個の動詞の連続したる時は引き離し暫く第一の動詞を無きものとして考ふれば第二の動詞が如何なる主語に連繋すべきものなるやは一目瞭然たり。

〔註解〕

(a) Mean.—此の問題の第二の困難は mean の意味に存す、普通此の語は「卑しき」と直譯す、「卑しき深さ」にては意味をなさず、今日の如く歴史や地理を原書にて讀むことなき學生には此の語に「平均」の意あることを知るもの極めて少し、普通の學生の知らざる單語に就て試験をなす、何ぞ無理ならずや、海軍當局者の如きには極めて平凡なる此の語は普通の教科書に現はるゝこと稀なるなり、試験官たるもの宜しく考慮すべし。却説 mean に「平均」の意の生ずる理由は meanwhile, meantime の如き場合に middle の意あるを以て知るべし、又此の語は幾何學には頻出するものにし



例へば mean distance の如きは一層 average の意に接近したるを覺えん。

(b) **The mass.**—是も亦 mean の如く學生の眼に觸るゝこと少なき語なれども「塊」といふ普通の譯語より判斷する時は mean の如くには困難ならず、此に類するは body なり、例へば a body of water or people の如し。

(14)

It is well known

that | time (*which is*)

once past | never returns,

and that | the moment

which is lost | is lost for ever.

Time | therefore | ought,

| above all other kinds of property,

to be free from invasion ; ||

and yet

there is no man

who does not claim the power of wasting

that time

which is the right of others.

別法 (第一文)

It is well known

that | time

| which is once past

never returns,

and that | the moment

| which is lost

is lost for ever.

[譯] 光陰一たび去りては復歸らず、寸時も是を失へば永久に恢復すべからずとは汎く人の知る所。故に總ての財産中最も侵掠すべからざるは時間なり、然れども他人の權利に屬する時間を消費するを以て當然自己の權利なりと思惟せざるもの一人もなし。

[分解法]

(a) Time と the moment, past と is lost は形式全く同一なり、故に the moment に which is のある如く time にも which is の有るべきを想像して之を補へば形式に於ても意味に於ても間然する處なき平行法を認むべし、此の問題の主眼は此の點と is lost が二個連続したる點なり、助動詞と本動詞は離るべからずと雖も此の如く本動詞の連續する時は兩者必ず分離す。

(b) Above.....property は前後 comma にて區切りたれば括弧したるものと見做せば ought が to be.....に連續すべきを直に知るべし。

(c) No man.....does not. —否定語が雙方に現はれたる時は minus と minus にて plus に變ず、即ち every man claims the.....と價值を同うす、



斯の如くにして先づ大體の意味を取りて十分に了解したる後適當の邦語に譯出すべし。

〔註解〕

(a) **above.**—此の場合は **more than** に等し、**time** も吾人の一財産と見做したれば **all other kinds** と言ひたり。

(b) **Free from.**—侵掠より自由とは侵掠を受けぬやうにするの意なり、類例に依りて **free from** の他の用法と **invasion** の類句を學ぶべし。

類例：—

I am all **free from** cares.

私は全く心配が無い。

I want to keep my character **free from** all blemishes.

私は自分の人格に汚點を付けないやうにしたい。

You are quite **free** to do so.

お勝手にさうなさい。

Let me be **far from** intruding upon your precious time,

お貴重な時間のお障がをし度くありません。

(c) **That time.**—名詞を最も強烈に指示する時は **that**—**which** にて其の名詞を恰も挟み打ちにすること往々なり、解釋の秘訣は此等の着眼點を知るにあり、從來の何々解釋法等は全く之を閉却したり。

(15)

The Russian general felt

that | it would be impossible for him

to hold the city much longer,

and

that | to remain there was only useless waste  
of life.

( 200 )

〔譯〕 露軍の大將は思らく、是以上市を支持せんは自己の力に及ばざる所、又市内に踏み止まらば唯だ徒に人命を損するのみならん。

〔分解法〕

此の問題は極めて平凡なり、唯主眼とする所は受験者が **to remain there** を **was** の主語とするか **to remain | there was.....** とするかを試みんとするなり、**there was** と連続するものとせば存在の記法なるを以て「生命の無益なる損失ありき」と譯さざる可らず、而して **remain** を **was** に對する副詞として「残るために」と直譯したりとせよ、全く何を意味するか不明ならん、幸に文字平易なれば常識に訴へても大なる誤解を爲すものは比較的少數ならんも精確に解釋し得るものに至りては又少數ならん、文法の智識の眞に働くは斯る場合にあり。

(16)

One of the first objects of an inquirer

who wishes to form a correct notion

of the state of a town at a given time

must be to ascertain

① how many persons

that town then consisted.

〔譯〕 或る時代に於ける一都市の正確なる概念を得んと欲する研究者の主要目的の一は當時その都市の人口幾何なりしかを確むることたらざる可らず。

〔分解法〕

此の問題の如く前置詞を多く含むものは語句相互の關係を知るに困難な

( 201 )



り、而かも分解法に熟すれば是程平凡なるものは非ざるなり、先づ(前置詞+賓語)にて成立する句を一括しつゝ underline を施して適宜行を改むる方針に従ひ of the state of a town, at a given time を一連の二句として must be の主語が前半に存在すべきを豫期しつゝ是を別行に分離し ascertain に到れば次に又 of を有する句あるを以て此の動詞と of との関係明なるまでは暫く分離せしむべし、次に persons と that town は異種連続にして相互間には文法的関係なきを以て分離せしむれば consisted の要求する前置詞 of が how の前に在るを知る事容易なり。

(17)

In the life of a healthy youth  
there must be opportunities for physical daring  
and  
(there must be opportunities for physical) endurance,  
especially in a country like ours  
where | there is no compulsory military service,  
and  
(especially) in an age  
when | there is nothing (that is)  
compulsory to call out the reserves of  
physical power in the lives of young men  
in your circumstances.

〔譯〕 健康なる青年の生活には必ずや身體を以て勇氣と忍耐とを試むべき機會を與へざる可らず。殊に我が國

( 202 )

の如き強制的徴兵制度の存せざる處や、諸士の如き境遇にある青年の生活中貯積したる體力の使用を強制するものなき現代に於ては然りとす。

〔分解法〕

(a) Daring と endurance は同一形式なるを以て對立せしむれば endurance が physical にも連繫すべきを明に示すべし、是則ち同種連続なり。

(b) In a country, in an age 及び where | there is..... と when | there is..... とに形式の一致を認めつゝ nothing compulsory に到れば、こは(名詞+形容詞)なるを以て後者を分離して (that is) を補ふべし、又 especially が in a country に関する如く in an age にも關すべきは説明を俟たずして明ならん。而して where there は異種連続に屬す。

〔註解〕

(a) Physical daring, — 直譯すれば「物質的敢爲」なり。daring spirit に對していふ。刀を以て我が肉を切るが如き、火中に身を投ずるが如き其の一例なり。

(b) Reserves. — 廣く貯へたる物の意味なり。故に準備の意を生じ豫備金、豫備軍の意に用ふる事多し。

類例：—

I have still something in reserve.

まで少しは取つてあります。

Speak without reserve.

遠慮なしに言つて下さい。

( 203 )



Every man has within himself a gold-mine  
whose riches are limited only by his own industry.

It is true, (*that*)  
it sometimes happens  
that | industry does not avail,  
if | a man lacks that something  
which,  
for want of a better name,  
we call luck.

〔譯〕 人は皆その体内に金鑛を藏す。それが實は唯だ自己の勤怠に依りて増減す。然りと雖も吾人が幸運（一層適切なる名稱なければ暫く爾くいふ）と稱する或る物を有せずんば勤勉も時に甲斐なきことあるは事實なり。

## 〔分解法〕

(a) 此の問題は第一句の by his own industry と第二句の that something の異種連続に困難あり。第二文の初なる It は下に不定法の來らざる時は that を有する成句の來ること最も普通なるを以て (*that*) を補ふべし。

(b) That something which. — That と which とは something を挟んで強烈に something を指示す。此の例の如く that, which の接近したる時は見易けれども速く離隔したる時は誤解を招き易きを以て注意すべし、而して something は mysterious thing の意なり。場合に依りて an un-

known thing, a thing that has no fixed or established name の意に用ふることは或る程度まで邦語となれる此の語に對して容易に推察し得べし。

These two men were as brothers; ||  
and  
(*these two men*) had been as brothers  
for now twenty years,  
though | no two men could be more different,  
save in the two common virtues  
which bound them to each other; ||  
and  
that was,  
that | they both were honest  
and kind-hearted men.

〔譯〕 此等二人は兄弟の如くなりき。而して今に到る二十年間兄弟の交をしたりき。然れども二人の如く其の(性格の)異なるはあらず。唯だ兩者に共通の徳性ありて二人を契ぎぬ、即ち彼等は共に正直にして深切なりき。

## 〔分解法〕

此の問題は最後の句に同形異品詞たる that の重出したると、或る語句とに多少の困難を感ぜしむ。原文の儘通讀したらんには語間の關係を知るに容易ならざらん。



〔註解〕

(a) **Not men ..... more.**—大凡世の中に二人の人にして此等兩者より相異の點多きものはあらじとの意なり。no two men と連続したるものは注意を要すべき點あり、類例に依りて察せよ。

類例：—

There are **no two men** who are the same in all respects.

凡ての點に於て同じといふ人間は二人とない。

(b) **That was, that.**—第一の that は save in the two common virtues の一句に含まれたる意味を代表する指示代名詞にして第二の that はコトと譯すべき接続詞なり。that は類似の語を伴ふことあり。今二三の例を掲げて参考に供せん。

類例：—

**That is why** I do not like him.

さう言ふ理由から私は彼の男が嫌なのだ。

**That's it.**

それだ。—それに違ひない。

(20)

A well-known professor,

speaking of a certain mineral,

tells us,

that a man may spend his whole life  
in the study of it,

without arriving at the knowledge

of all its° qualities.

( 206 )

The truth of it is,

that | there is not a single science,

. or

(that | there is not) any branch of it,

that might not furnish a man

with business for life,

though | it were much longer

than

it is.

〔譯〕 或る鑛物に關して知名の一教授語つて曰く、其の鑛物の研究に一生を捧ぐるも其の性質を知悉すると能はざらんと。此の説の眞意は、科學或は纔に其の一部門たりとも、人の一生が今より遙に長しとするも尙ほ畢生の研究(資料)を供給せざるもの一として無からんとなり。

〔分解法〕

此の問題の如く類形成句(先づ第一文に於て that a man.....without.....  
第二文に於て that there.....that might not.....it were.....it is)の續出するものは初學を眩惑せしむ、是を救ふものは分解法の他に求むべからず、先づ第一節中 in the study of it の it は最近の名詞 life を代表するものと假定して其の正否を驗せよ。然らば「人の一生を研究する爲めに人の一生を費す」とは實に不思議ならずや。「鑛物研究に一生を費す云々」ならば合理的なるに鑛物に就て語ると言ひながら方向転換して「人生研究」とは奇怪ならずや。是に於て it は life を代表せざること明なれば尙遑りて mineral を代表するものとせざる可らず。第二節 though it were.....than it is. の

( 207 )



it は最近の名詞 (life) の代表として最も合理的ならん。斯の如く同形の文字續出する時は唯だ問題を一讀したるのみにては殆んど何人も混亂せざるを得ず。

〔註解〕

(a) **A man may.....without.**—直譯すれば「.....すること無くして.....することあらん」なり。是を逆にすれば「.....することあらんも.....すること無し」なり。即ち「一生を費しても其の性質を残らず知ることが出来ぬ」の意に歸着す。

類例：—

If you are careless, you will see it **without noticing** anything strange about it.

君が不注意なら其れを見ても異つた點を何も認めないだらう。

You cannot see it **without** noticing something strange about it.

君ば其れを見れば異つた點を何か認めないわけにはいかない。

(b) **Knowledge.**—Knowledge は to know の名詞形なるを以て意味も亦共通なり、「智識に到着する」とは「其れを知る」ことなり。

類例：—

To my **knowledge**, he is an honest man.

私の知つてゐる處では彼は正直者です。

Somehow the secret came to my **knowledge**.

どうしてですか。其の秘密を私は知るようになった。

I thought it would never **reach** his ears.

其れは決して彼の耳に入ることは無からうと私は思つた。

Clarendon observes of Falkland

that | he was so severe an adorer of truth,

that

he could as easily have given himself leave to steal

as

(he could easily have given himself leave)

to dissemble.

〔譯〕 クラレンドン、フラークランドを評して「氏は眞理を崇拜するの念極めて篤きが故に伴は盗みすると同じく到底氏の忍びざる所ならん」と曰へり。

〔分解法〕

So—that, as—as の如き相關語及び to steal, to dissemble の如き同種の形式を對立せしむれば省略は一目にして明なり。本題に於ては that を有する二個の成句と to steal, to dissemble の二句を異種連続とす、斯の如く類似の形式連続したる時は其等は皆他の語句に對して同様な文法的關係を有すべしと速量することあり。

〔註解〕

(a) **To observe, say, remark.** 等は皆言ふの一語にて記憶すべし(勿論三者とも微細の相違はあれど受験者は餘りに細き點に留意するに及ばず)。of は關しての意を示す故に譯文には評すとせり。

類例：—

We have been **speaking** of you.

僕等は君の噂をして居た。



(b) An adorer of truth. は真理を崇拜する者の意。名詞+of+名詞及び所有格の名詞+名詞は翻譯上下の點に注意すべし。

(1) 第一の名詞が第二の名詞に對して他動詞+目的の關係を有する場合。

The execution of the criminal (The criminal's execution) has been postponed.

其の罪人を死刑にすることは延期になつた。

(2) 第二の名詞が第一の名詞に對して主語+自動詞の關係を有する場合。

The march of the triumphant troops (=The triumphant troops' march) was splendid.

凱旋軍隊の行進は立派であつた。

(c) As — as は同等の比較を示す相關語なり。此の文に就て言へば伴りと盗みとは同じ様に容易く成し得たらんと云ふなり。但し動詞は Subjunctive Mood なるを以て之を否定す。即ち伴はることを爲し得るならば盗むことも爲し得。而も盗みは爲し得ざれば伴りも爲し得ずとなり。could have given himself leave は自分に許可を與へ得たらんと直譯す、leave は動詞として用ふるも名詞として用ふるも形に變化なき故學生は動詞と連量す之を檢査するに to give は Double Object を取る動詞なることを記憶すべし。或は give を用ゐて隨意の文を書いて見よ。例へば I gave him のみにては何を與へしか不明なるを以て I gave him a book と言はゞ完全なる文章を得べし、是と同様に leave は名詞なりと斷定することを得るなり。學生は譯語にのみ心を奪はれて法の根本原則を應用する練習を缺くもの十中の八九を占む。

(22)

I cannot make a great man of you ; ||

I found you (to be) a ploughman,

and | I fear (that)

I must leave you (to be) a ploughman.

( 210 )

〔譯〕 余は汝を豪傑と爲す能はず、余の始めて汝を知りたる時汝は農夫なりき。今余の去るに臨みて汝が依然として農夫たるを見るのは是非なきに至らん。

〔分解法〕

本文は語勢の爲め補語 (a ploughman) を倒置したるを以て普通の順序に改めて省略を補へば上圖の如し、此の問題は同一の語 (ploughman) を含む類似形式の成句が二種連続して殆んど同じ事柄を繰返へすに止まるが如き感と與ふれどもその内容を精察すれば全然、反對の觀念を含む、宜しく find と leave の對比を玩味すべし。

〔註解〕

To find ; to leave は對比して一種の妙趣を與ふ。是に類せるは to go と to return となり。

類例：—

I found him poor, and left him rich.

余始めて彼を知りし時彼は貧しかりしが去りし時は富めり。

I went an enemy and returned a friend.

行きし時は敵なりしが歸りし時は友人なりき。

(23)

Not | what do you know,

or

(not) who are you,

but what can you do,

is the interrogation of the century.

〔譯〕 現世紀の汝に問ふ所は、汝何を知るか、汝は誰なるか、には非ずして、汝は何を爲し得るかなり。

〔意譯〕 現代の要求は汝の智識、汝の名に非ずして汝の能力なり。

( 211 )



〔分解法〕

平易にして殆んど分解法を用ふるにも及ばざらん。唯だ not の如き否定語には次に but の來ることを記憶して what, who, what の疑問詞を以て始まる同一形式の成句を對立せしむれば可なり、而して此等疑問詞を以て始まる三句は終なる is に對して同種連續をなす。

〔註解〕

(a) **What do you know.**——此の疑問文は？を省けり。第一の譯は直譯なり。假りに一人が第一の譯をなし又一人が第二の如き譯をなしたりとせよ。第一は未だ十分に其の意を示さざるを以て第一を 50 點とすれば第二は 100 點とせざるべからず。

(b) **Who are you.**——What are you? と Who are you? との相違に就ては文法書の説かざるものなし。然れども斯る文中に之を見る時は文法に於て見たる時よりも其の意を明瞭に捕捉する能はざらん。who は血統や姓名を問ふものなれども斯る場合に、what の意をも含みたるものと考ふべし。如何となれば姓名には職業、門地等の想聯あればなり。大隈重信と言へば前總理大臣なるを想起し、木村鷹太郎と言へば大學教授にして文學博士たるを想はしむればなり。世間は名に依りて人を採用せず實力に依りて人を用ふるとの意なり。

(c) **Interrogation.**——上に what, who, what, の疑問詞あるを以て爾か言ふなり。是を疑問と譯するを以て疑ふことなりと思ふものか「世紀の疑ふ所なり」など譯するものあり、注意すべし。

類例：一

**The question is whether it is conducive to the advancement of learning,**

其れは學問發達に資するか否や、疑問なり。

**Everybody questions the merits of the invention.**

人は皆此の發明の眞價に就て疑ふ所あり。

(24)

In many cases

what we call evil is good (which is)

misapplied,

or

carried to excess,

A wheel, or even a cog, (which is)

out of place throws the whole machinery

out of gear,

and if we place ourselves out of harmony

with the constitution of the universe

we must expect to suffer accordingly.

〔譯〕 多くの場合、所謂害は利の誤用若くは濫用なり。一枚の車輪、否一刻の輪齒も一度逸すれば全機を壊裂せしめん、人若し宇宙の大法に違反すれば奚ぞ應報を免るべき。

〔分解法〕

(a) **What we call.....**此の一句最も難解ならん、is と misapplied とは相接したるを以て受働動詞の動詞と誤認し易し。is misapplied を一個の動詞とすれば good は其れを制限する副詞とせざる可らず。然れども good は形容詞に非んば名詞にして決して副詞として用ふることなき事實を知らざる可らず、況んや evil 對 good なるをや、故に misapplied 及 carried to excess を別行に移せば原則に依り (which is) の省略を發見すべし。



(b) even a cog.——Comma にて區切られたれば括弧と見做して除きて見よ。A wheel は直に out of place に連続するを知るべし。而して茲に讀者の多くを必ず迷はすべき一點あり。即ち out of place が throws に對する副詞の如き位置を占めたるを以て「場所の外に機械の全體を投ぐ」と直譯するに至る、然る時は cut of gear を何とすべき。全く此の片句の處分に困却すべし、故に原則に依り此の句は (which is) を次に省略したる wheel に對すと形容詞成句なりと認定せざる可らず

〔註解〕

(a) What we call.——此の句は最も普通なれば忘れざる様に注意すべし。直譯すれば「吾等が何々と稱する物」にして what we call を所謂と譯すべし。

類例：一

He is what you call an old fox.

彼は君の所謂古狐だ。

(b) Out of place.——Out of は脱すにして place は proper or good place の意なり。是れ恰もと rank と云ひて good or high rank の意に用ふるが如し。

類例：一

She put me out of countenance.

彼の女に恥を搔かせられた。

It is quite out of my power to do so.

それは到底私の力には及びません。

That is out of the question.

それは問題にならない。

I am out of employment (or work)

私は職業に離れてゐる。

Things are out of (proper or good) order.

世は紊亂せり。

He is a man of (good) parts.

彼は英才だ。

He soon gets out of (proper) temper.

あれは直ぐに怒る。

He is a man of rank and means.

あの人は位地も高し財産も有る人だ。

(c) The constitution of the universe.——宇宙の組織即ち the laws of the universe (宇宙の規則)なり。自然の法則と調和せざれば必ず害あることは吾人の經驗する所なり。一例を擧ぐれば睡眠を催したる時強ひて覺醒せしむれば疲勞を來し。それを連続せしむれば神經衰弱症を惹起するなり。

(d) Accordingly.——此の語には二種の著しき用法あり。一は前文を受けて「それ故に」と譯し他は「それに従ひて、其れに準じて」と譯す。而して後の場合には必ず文末に來るものとす。

(25)

Work, moreover,

with, (Nature)

and

(work) not against Nature.

Do not row against the stream

if | you can help it (=rowing against the stream);

but



if | you must, (*row against the stream,*)

you must, (*row against the stream,*)

Do not then shrink from it (=rowing against the stream);

but

Nature will generally work for us

if | we will only let her (*work for us*)

〔譯〕 尙且、汝の行動は自然と一致すべく反對すべからず。能ふべくんば流に遡りて漕ぐこと勿れ、唯止むを得ざれば爲さざる可からず、其の時に當りて辟易する莫れ、吾等にして妨礙を興へざる限り自然は概して人間の利益を圖るものなり。

〔分解法〕

(a) Must.—是は助動詞にして次には必ず本動詞を要求するものなれば help it の場合と同じく (*row against the stream*) を補ふ、若し分解法を知らずして「若し汝がねばならぬならば、汝はねばならぬ」と直譯すれば恐らく自分ながら何を讀みつゝあるや明かならず、傍に之を聴くものあらば狂人の癡言と思はん。

(b) Let her.—To let は助動詞として「しむ」と譯する時と他動詞として「容す」と譯する時とあり、此の場合には後者にも意味は通ずれども助動詞と見做して (*work for us*) を補へば其の意を解するに一層容易ならん。

(a) With Nature.—冒頭先ず概括的の議論を述べ、下の數句は皆其の説明敷衍に過ぎず屢々注意したる如く是れ議論の要訣なり、學生は文章は皆異なる思想を述ぶるものと確信するものあり、誤る勿れ、而して

with の意味不明ならば先づ against より考へよ、「自然に反對」の一句に對しては「自然と合致」の句は思想對照上要求せらるべきを豫期して with Nature に臨めば直に合點すべし、難問題に臨まば斯の如く平明なる句より始めて文中に其の對照を求むべし、是亦一の秘法として余が常に學生に教ふる所なり。

(b) Help.—此の語は助くの外 prevent 或は keep from の意に用ふ、假りに禁ずと直譯せよ、意味自づから通ぜん、次に起る疑問は「余の定則に基き it は最近の名詞なる the stream を代表せずや」ならん、「流を禁ず」とは無意味なり、行爲は禁ずることを得れど流れは禁ずること能はざること明ならん、此の如き推理は學生が最も不得手なるを以て常々練習するを要す、平素書籍を讀むに當り發表の形式が些にても邦語と異なる場合、或は省略の存するを感じたる時に從來の不完全なる譯法に満足せず飽くまで追求研鑽すべし。又此の語を not と連用したる時は「何々せざ」と譯するが常なるより一大誤解を生ずることあり、今一學生が作りたる和文英譯の一例を執つて説明せん。

和文問題

東洋發達の爲め日本は西人の投資を歓迎するも之をして勢力範圍を設立する口實たらしむるは忍ぶ能はざる所なり。

同英譯

The Japanese welcome foreign investment for the development of Orient, but we cannot help to make it the pretense of establishing the sphere of influence.

今は和文英譯法の問題に非ざるを以て help に關する部分のみに就て論ぜん、此の譯文の儘にては「吾人は其れらを口實とせざらんとするも能はず」即ち「日本人が強いて口實にせんとす」の意なり、to help は忍ぶと譯すことなし。下の英譯は末だ十分の推敲を経ざれども參考たらん歟。



Japan has no objections to foreign investments in the East, if they are really intended for its development; but she cannot endure any attempts to make them the pretext for establishing Occidental influence there.

類例:—

Do not laugh, if you can help it.

辛抱が出来るならば笑つてはいけないよ。

I could not help saying so.

爲方がないからさう言ひました。

A horn poet can no more help being a poet than an eagle can help soaring. [32 一高]

詩人として生れて来たものは詩人たらざるを得ないのは鷲が天に飛翔せざるを得ないのと同じだ。

(c) If you must. — 既に分解法に於て詳説したれど尙ほ一言すべき事あり、斯の如く同語を繰り返したるものは學生の最も困難とする所なれば試験官も亦之に乗ぜんとす、助動詞のみならば次には本動詞の来るべきものなりとの原則を忘るべからず、學生は平易なる文法の規則を忘るゝ故に失敗を招くなり、下には唯類似の形式を示す。

類例:—

Let bygones be bygones.

過去のことは過去のことであらしめよ — 過ぎたることを追ふべからず — 過去のことは心に留めるな — 諦める。

What I have done I have done.

自分の爲した事は自分の爲した事だ、— 自分でした事は自分が爲したのではないと偽りはしない。

What has been said has been said.

言つたことは言つたのだ、— 言つたことは取り返へしがつかない — 或は、言つたことには偽りは無い、二言はない。

If you must die, die nobly.

死ななければならなければ立派に死ね。

If you can, you can; if you cannot, you cannot.

自分に出来ると思へば出来るもので、出来たいと思へば出来ないものだ。

(d) Let. — 分解法に於て既に説明したれば唯だ類例を擧ぐるに止めん。

類例:—

He will not let me in.

彼が私を入れてくれません。

He shook his head, which meant that he would not let me.

彼は頭を振つた、それは私に許さぬと言ふ意味だ。

26)

Conversation is an art in itself,

and

it is by no means those

who have most to tell

who are the best talkers; ||

though | it is certainly going too far

to say | with Lord Chesterfield

that | there are very few Captains of Foot

who are not much better company

than

ever were

Descartes or Sir I. Newton

(good company.)



〔譯〕 談話は本来一種の技術なり、而して善く談する者決して多く談ぜず、然れどもチェスターフィールド公の如く「(今日)の歩兵大尉にしてデカルト若くはニュートンより遙に優秀なる談客に非ざるものは少し」といふは確に誇張の言なり。

〔分解法〕

(a) Who have most to tell 及び who are the best talkers は何れも成句なるを以て獨立せしめ假りに第一句を除けば第二句は those に連繋するを知るべし。

(b) Though it is.....本来 though の如き従位接續詞の引き出す成句は其の前に semicolon の如き長き休止を示す句點の來ること稀なり、此の文は talkers にて殆んど文意盡きなんとして徐々に且つ註釋的に though 以下を接續したるものなり。

(c) With Lord Chesterfield は稍々長き副詞句なり、意味を取るに左程緊要ならざれば後廻しとなし暫く除くべし、然らば that there are very few.....の成句が say なる他動詞の賓語たるべきを一目でし知るべし。

〔註解〕

(a) **In itself.** —In は或る物の中に或る物が存在するを示す前置詞なり、轉じて此の場合の如く或る物の本然の性質状態を示すに至れり、即ち談話は本来 art なりとの意とす、 五六一頁、註解 (b) 參照

(b) **By no means.** —Not by any means とも言ひて「決して」と譯すべし、然れども never と混ざる勿れ、never は時間に関し by no means は程度或は方法に関す、即ち not in any degree なり、學生には此の區別を知らざるもの多し、注意を要す、故に「私は決して虚言を申しません」を譯するには never を用ひざる可らず、何となれば此の場合の「決して」は「如何なる時にても」の意なればなり、之に反して「彼は決して善い人でない」を譯するに、by no means を用ひざる可らず。

(c) **Most.** —此の場合は名詞にして have の賓語なり、副詞と思ふべからず、have と不定法との連結は往々誤解を招く、注意すべし。

類例：一

I have not **much** to say.

私は餘り言ふことは有りません。

Have you **nothing** to tell?

君は何も話すことはないのですか。

(d) **Who.** —分解法 (a) に述べたる如く it と相對して those に連繋す、強勢法を構成する關係代名詞なり、普通の文法書は it .....that を教ふれども it.....which 及び it.....who に至りては全く等閑に附するもの多し、文法の著者否編輯者の杜撰、不親切呆るゝばかり也、今強勢を與へんとする語に underline して其の用法を示さん。

類例：一

普通の形式

**They** did so yesterday.

**The cat** caught the hen.

**He** is the best man who is the kindest to all. (= He who is the kindest to all is the best man.

強勢法

**It** is they **that** did so yesterday.

**It** is they **who** did so yesterday.

**It** is the cat **that** caught the hen.

**It** is the cat **which** caught the hen.

**It** is he **that** is the best man who is the kindest to all.

**It** is he **who** is the best man who is the kindest to all.

(d) **It is.....going too far.** —It は to say を代表す、going は猶



saying の如く too far は猶 too much の如し、邦語に「極端に走る」と言ふを参考すべし、下に掲げたる類句は極めて大切なれば十分記憶すべし。

類例：—

The youth goes all lengths in wickedness

其の青年は悪いといふ悪い事をする——lengths は道程なり、「如何なる遠き所までも行く」の意より轉じて「爲さざる事なし」の意となれり。

The enthusiastic speaker went the whole length in denouncing those officials as bribe-takers.

その熱心なる演舌者はそれ等の官吏を収賄者なりと極力論難せり。

The position is good, as far as money goes (or is concerned)

収入だけの點から言へば、その位置は善い位置だ。

He was a clever boy, as boys went.

普通の小兒の標準から言へば彼は賢い小兒であつた。

It is not too much to say that he is an ass.

彼は馬鹿だと言つても過言ではない。

It is saying little that he is an ass.

彼は馬鹿だと言つては未だ足りない、——馬鹿以上だ。

(e) To say with. —直譯すれば「共に言ふ」なり、故に場合に依りては「意見を同ふす」の意となる、此の文にては「公言へり、余も亦公と同じく云々と言はば」の意なり。

類例：—

Let me say with Kingsley that the great use of a school is to teach you the art of learning.

キングスレイの言へりし如く、學校の大なる用途は學ぶの道を教ふるにありと余は言はん。

(f) Captains of foot. —何故に歩兵大尉と言ふか軍人は概して巧辯ならざるを以てなり。

(g) Company. —「交際仲間」の意に用ふること多き語なり、茲には「話し相手」なり、又「お客」の意なることもあり。were は正確には was とせざる可らず、それは Descartes と Newton とが or にて接續せられたればなり。

類例：—

He keeps bad company.

彼は悪友と交る。

We have company this evening.

今晚家へお客が来る。

(27)

The most important thing to learn in life,  
is how to live.

There is nothing (*which*)

men are so anxious to keep

as

(*men are anxious to keep*) life,

and

(*there is*) nothing (*which*)

they take so little pains to keep well

(*as*)

(*they take little pains to keep life*) well.



### 倒置分解法

The most important thing to learn in life,  
is how to live

*Men are anxious to keep life,*

and

there is nothing (*which*)

men are so anxious to keep

*They take little pains to keep it (well)*

and

*there is nothing (which)*

they take so little pains to keep well.

### 交換分解法

**Nothing..... so..... as = 最上級**

Men are most anxious to keep life,

and

they take the least pains to keep it well.

【譯】 人生に於て學ぶべき最要件は如何にして生活すべきかなり。人の保たんことを希ふもの生に如くものなし而して能く之を保たんと努むること最も少きも亦生なり。

#### 【分解法】

(a) Nothing と men とは共に名詞なるを以て連続すべき性質のものにあらず、即ち各別に他の語に關係すべきものなるを以て暫く別行に記すべ

し、而して他動詞 keep の賓語なきを以て略されたる關係代名詞 (*which*) が其れに該當するものとせざる可らず、此の文は一見平易なる如くなれど愈々邦語に譯出せんとす大體のるに當りて困難を感ず、nothing, so, as の如き相關的の語多きを以て自然意味を把握すること難し、試験問題としては好適なりと信ず、余の分解法は斯る錯雜を一掃して言々句々の文法的關係を殆んど機關的に知らしむる便法なり、此の法に依れば誤らんとするも能はざるなり。

(b) As life, —As は so の對語なるを以て直下に置き *men are anxious to keep* を補充して life を其の次に置かば兩句の對照最も明なり、又 and の次なる nothing の如きは最も讀者を誤に誘ふべき位置にあり、既に *There is nothing* 中に同語あるを以て其の下に之を置きて *there is* と *which* を補ひ men を代表すべき they を men の下に置きて順次書き下ろせば凡ての形式は全然一致するを見ん。

(c) 倒置法は so.....as を以て成り立つ文章に有効なり。原文の順序にては意味を取ること難き場合には其の順序を轉倒すれば大に理解力を助くることあり。然れども此の例に於けるが如く先づ正式の分解法を試みたる後にあらざれば却て誤解に陥ることなきにしもあらず。注意すべし。

(d) 交換分解法は文法の原則に従ひて適宜に之を行ふ。速に大體の意味を捕捉することは受験者に最も必要なることは屢々例を示して説明したり。今最も普通なる類似の交換の法を下に示さん。

Nothing + so.....as = 最上級

Nothing + more.....than = 最上級

Nothing will serve you so well as honesty.

Honesty will serve you best.

Nothing will serve you better than honesty.

Honesty will serve you best.



比較級+any=最上級

He is cleverer than any other student in the class.

= He is the cleverest student in the whole class.

〔註解〕

(a) **Anxious.**—學生間には anxious は憂慮の意より外使用することなしと信するものあり。此の文に於ける如く切に望むの意あるを忘るべからず。

類例：—

I am very **anxious** to know it.

私は其れを知ることが切望します。

(b) **Pains.**—Troubles の意なる時は常に複数なり pain は suffering にして labour の意にあらず。是と同時に on pain of を記憶すべし。

類例：—

I will spare no **pains** for your sake.

私は汝の爲めなら勞を吝みません。

Do it again **on pain of** death.

もう一度して見る、殺してしまふぞ。

(28)

Do | as you would be done by

is the surest method

that | I know of pleasing.

Observe carefully

what pleases you in others,

and

( 226 )

probably the same things in you

will please others.

〔譯〕 (他人から)かうして貰ひたいと自分の思ふやうに(他人に對して)行へ(といふ主義)は(人を)喜ばせるといふ事に就て私の知つて居る一番間違のない方法である。自分の氣に入つ事を他人に認めた時は其れを善く観察しろ。そして其れと同じ事が自分にも在つたら、(其れは)恐らく人を喜ばせるだらう。

〔分解法〕

(a) Do の次なるは接続詞なるを以て以下を分離せしむべき筈なれども第一句が簡單なるを以て連続せしめたり。而して is は制限動詞にして主語を要求するを以て前置詞 by と連続せしむることを許さず。さて次に起る疑問は of の賓語は that なるか pleasing なるかを決定する點にあり。是と同時に know は他動詞なるを以て又賓語を要求す。然るに know の次には賓語となるべき名詞なきを以て逆に之を求むれば that を得るなり that は斯の如く一方 know の賓語なるを以て同時に of の賓語たること能はず。故に of の賓語は pleasing (Gerund) なりと決定せざる可らず。

(b) Observe carefully.....in others は一見極めて困難なれども carefully は左程重要ならざる分子として之を除き、what please you は離るべからざる一成分なるを以て是を一語と見れば Observe  in others なる簡單なる形式を得べし。是に於て此の形式に屬する他の文章を想起すべし。下に其の二三を掲げん。

1. I saw question in his eyes.

2. I found a dear friend in him.

3. Japan had a living specimen of patriotism in General Nogi.

( 227 )



4. I have observed something strange in his manner.  
 5. There is nothing of a gentleman in him.

【註解】

此の問題は The Golden Rule の應用に過ぎず第一句 Do as you would be done by を解釋することを得れば其の餘も亦解釋することを得るなり。又は各學校の試験問題として多少その形を變じて現はれたること幾回なるを知らず。而かも是に失敗する者多しと聞く、嗚呼世には七月の鐘式學生の多きことよ。是は先づ新約聖書 Matthew 7: 12 にあり。

All things therefore whatsoever ye would that men should do unto you, even so do ye also unto them; for this is the law and the prophets.

二十世紀新約聖書の文は下の如し。

Always, then, treat others as you would like them to treat you; that indeed is both the Law and the Prophets,

尙詳細の説明に就ては三九〇頁、註解(c)を見よ。参考として大正五年度に於ける東京高等師範學校の試験問題を下に掲ぐべし。

類例:一

We should not only do to other as we should wish them to do to us, but think of others kindly as we should wish them to think of us. If we make no allowances for them, how can we expect them to do so for us?

他人から、かうして貰ひたいと自分の願ふやうに我等は他人に對して爲すべきのみならず。他人から(親切に)考へて貰ひたいと自分の願ふやうに又他人に對して親切に考ふべきである。若し我等が他人を寛恕しなければ、どうして他人が我等に對して同じやうにして呉れるだらうと望まれようか。

Time and earth,

(if it is expressed) in the words of Keble,

are the preparations for Heaven and Eternity; ||

and such as we make our moments here,

such | will God make our ages in the world  
to come.

【譯】 キーブルの言を借れば、時と此の世は「天國と永劫に到る準備なり。而して我等が現世に於て我等の瞬間を利用する方法如何に據りて神は來世に於ける我等の時代を準備す。

「分解法」

(a) In the words of Keble は副詞句なれども兩 comma 間に在りて前後斷ち切られたれば其の制限を受くるものなきを以て挿入句なりと断定すべし。又 (if it is expressed) を補充したる理由としては words を一考すべし。既に言葉と言へば發表は之に伴ふべき事ならん。又 in の性質より考ふるも expressed を補充するの誤りなきを知り得べし。類例は註解の部に見よ。

(b) 本文は殆んど分解法を用るふ必要な程に自然に同一形式の並立を見る。唯僅に語勢の爲め will を倒置せる點に異狀あるのみ。而して此の問題の難關は make の補語たる such が重出して恰も各別に他語に對して文法的關係あるが如く見ゆるにあり、正確に言へば such は同種連續法とすべけれども其の有様に特殊なる點あるを以て異種連續法中に入れたるなり、諒之。



類例：一

〔註解〕

(a) **In the words of.**---此の場合の in は範圍の意より轉じて材料を示すものなり。

We spoke in whisper.

我等は小聲で話した。

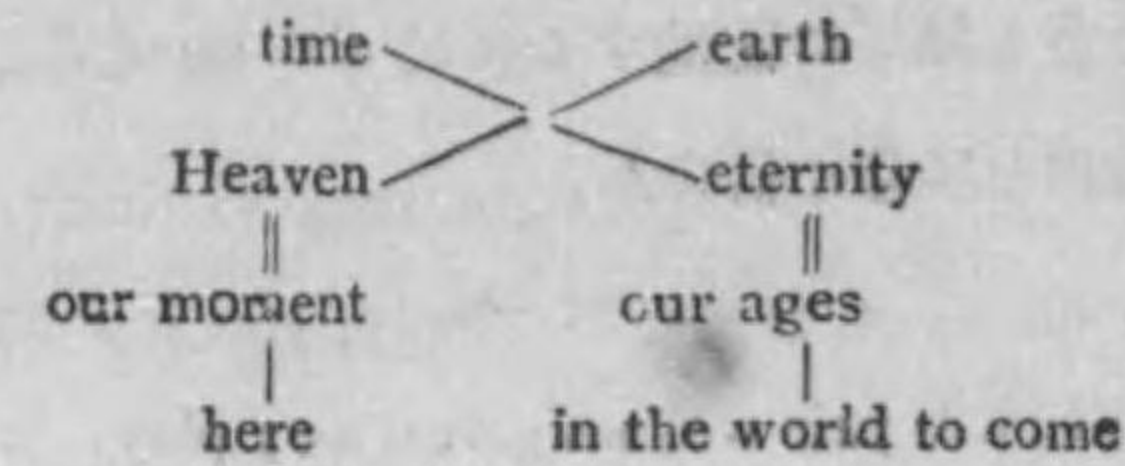
In child language "baba" means dirty.

小兒用語ではババは汚ないといふことだ。

(b) **Such.**---此の場合の such は何れも make の補語なり。make は use (使用す)といふ意に非ず。不完全他動詞にして補語を取るべきものなれども茲には其れを明記せざるなり。明記せざる故に意味を捕捉するに困難なり。いざ斯る場合に執るべき最良の方法を教ふべし。假りに moments, ages の次に useful, useless, happy, unhappy 等の補語を入れて見よ。釋然として氷解せん。第二の such は語勢を強むる爲めに繰り返へしたるまでなり。will の倒置を見ても其れを知るべきなり。今初學者の爲めに所謂直譯なるものを試みん。「我等が現世に於て我等の瞬間をなすが如き左様なるものと神は來世に於て我等の時代をなす」。第二の such を除きて such as に代ふるに what を以てし此の全成句を書き換ふれば下の如し。

God will make our ages in the world to come what we make our moments here.

同時に moments と ages との對照を味ふべし。現世に於ける人間生活の短き間を瞬間と言ひ天國に於ける永き生活を時代と言ひたり。尙注意すべきは文頭に time and earth と言ひ次に Heaven and eternity と對比せり。Semicolon 以下は前半の例證たり。是に依りて此の句點に關する一用法を覺るべし。且つ此の場合の對比は交叉法なり。



(30)

Every man has (a good right) to think as he does,

as

you have (as a good right) to think as you do ; ||

in truth | he cannot help it.

〔譯〕 何人も自己の考ふる如く考ふる權利あるは猶ほ汝が考ふる如く考ふる權利あるが如し。是は實際誰にても止むを得ざるなり。

〔分解法〕

實に奇抜なる問題なり。正解したる者は少數なりしならん。而も其れは偶然なりしならむ。多少分解法に馴れたる者と雖も不注意なる者は as he does の as を as good の相關語と思惟すべし。然れども尙熟考すれば Every man has.....to think に類似する形式は as he does に非ずして you have to think なることに心付かざる可らず。而して as he does の類形は as you do なることに着眼せざる可らず、斯の如き類形成句の連続は殊に注意すべし。

〔註解〕

(a) **As good..... as.**---殆んど as much as と等しくして good は善良



の意に非ず。此の句を最も簡単に記憶するには the same.....as と同様なりとするにあり、今数例を参考に供せん。

類例：—

The quarrel of the foolish pair was as good as a play.

其の馬鹿者夫婦の喧嘩はまるで芝居だつたよ。

He is as good as a madman.

彼はつまり狂人だ。

(b) As he does.—To do が總ての動詞の代用を爲すことは讀者の凡に知る所ならん。此場合に於ては as he thinks と言ふに同じ。as you do も同理なり。此の文章は「思想の自由」を論じたるものにして「何人も自己の考ふる如くに考ふる権利あれば他人の干渉を許さず」の意を説く。

(c) Help.—此の場合にては「助く」にあらずして「禁ず」の意なり。it は「考ふること」を指す。cannot と連用したる時は常に此の意味なり。

(31)

It is generally the idle

who complain (*that*)

they cannot find time to do that which

(= what) they fancy

they wish (*to do*)

In truth,

people can generally find time

for what they choose to do; |

it is not really the time

but

(*it is*) the will

that is wanting; |

and

the advantage of leisure° is mainly

that | we may have

the power of choosing our own work; |

(*the advantage of leisure is*) not certainly

that | it° confers any privilege of idleness.

〔譯〕 したいと思ふ事をする時がないと歎く者は多く怠惰の人である。實際人はしようと思ふ事をする時間の概は有るものである。無いものは實際時間ではない意志である。そうして閑暇の利は主として仕事を選択する力を得ることで惰の特権を與ふること無いは確である。

〔分解法〕

(a) Complain は他動詞にして賓語を要求す。然るに次なるは主格の代名詞 they なるを以て they 以下を分離せしむ。次に they fancy 及び they wish の二成句を分離せしめ wish の次に當然來るべき不定詞(此の場合にては *to do*)を補ふ、斯の如く分解して後再び始より全文を通讀すれば義の complain の賓語は接續詞 (*that*) を有すべき they.....wish の全句なることを知るべし。而して they fancy は中間に挿入せるものと思ふべし。who complain, they cannot find....., they fancy, they wish の類形成句を異綴種連続とす。

(b) Not certainly の certainly は句頭の mainly と共に副詞たる點に於



て等しければ對立せしめ又兩個の that を對立のせしむれば自然省略されたる部分は (the advantage of liesure is) なることを知るべし。此の問題の難關は確に此の點に存す。分解法に依らずして單に通讀したらんには此等の關係を速に且つ明確に知ること易からざるなり。that を句頭に有する二成句は is に對して同種連續なり。

(32)

Work,

according to my feeling.

is as necessary

as

eating and sleeping.

(are necessary)

Even those

who do nothing

which | a reasonable man could call labour

imagine themselves to be doing something,

and

there is no one

who would willingly be thought

quite an idler in the world.

〔譯〕 余の感ずる所にては仕事の必要なるは飲食睡眠の必要なるが如し。常人が労働と稱することを得べき事は何も爲ざる者と雖も何かを爲しつゝありと想像す。

( 234 )

而して世の人々より全くの懦夫と思はるゝを喜ばん者は一人もなし。

〔分解法〕

此の問題の着眼點は第二節に於て call, imagine が動詞としても用ひらるる labour の前後にありて如何なる語に連繫すべきかを知るに困難なるに在り。call は他動詞なるを以て次に來る labour を賓語とせざる可らず。然らば imagine は labour より分離すべき者たるは明なり。而して who do nothing 以下 labour までは those の修飾語なるを以て imagine は此等に連繫せずして those に連繫すべきこと又明なり。斯の如く文法の原則に據りて分解せば問題の着眼點を知ると同時に難關を切り破ること實に朝飯前の仕事たるのみ。余の觀察に依れば高等學校の問題は流石に難に傾かず易に失せず能く其中庸を得たり。余の分解法に熟して之に當れば百發百中の成功を得ること決して難からずと信ず。敢て言ふ。高等學校の入學試験を困難と叫ぶ者は餘程の低能兒なり、學校教育を捨てゝ寧ろ丁稚小僧たれ。

〔註解〕

In the world. — 此の句は an idler に連繫するものにして There is no one に連繫せず。故に「世界に一人もなし」と譯すべからず。「廣き世界に一人の愚者」と言はん如き力あるものと知るべし。若し no one に連繫するものならば There is no one in the world とあるものぞ。

(33)

The more carefully | nature has been studied,

the more widely | has order been found to prevail,

while | what seemed disorder

has proved to be nothing but complexity.

( 235 )



〔譯〕 注意して自然を研究するに従ひ増々廣く秩序の遍在するを知りたり。而して(曾て)不秩序と見えたる物は唯だ錯綜に過ぎざることを發見せり。

〔分解法〕

此の問題は極めて平凡なり。唯だ seemed と has proved が接近したれば disorder をば後者の主語と誤認することなきかを見んとするなり。分解法に依れば此の種の問題ほど簡易なるものばなし。即ち seemed は不完全自動詞なるを以て disorder を其の補語とせざる可らず。故に has proved 以下を分離すれば其の主語は what なること自然明瞭なるべし。因に The more carefully, the more widely, while を次に來る主語と區別する爲め縦線にて區劃したるに注意せよ。

(34)

Be not angry  
that | you cannot make others (be)  
as you wish them to be,  
since | you cannot make yourself (be)  
what you wish to be

〔譯〕 我が身すら願ふがまゝに爲すことは叶はざるものにしあれば他人を我が思ふ如くにえさせずと腹立つるな。

〔分解法〕

是も亦一種の平行法なり。第一句の make others as ..... は第二句の yourself what ..... と同一形式に屬す。然れども as you wish them to be は (be) の副詞なるに反し what you wish to be は (be) の補語なり、而して此の兩句は下の場合と全然同一形式に屬す。

I made him (be) my servant.

I made him (be) happy.

〔註解〕

To be. — Be の如き不完全動詞は補語を要求するものなれば假り obedient, good, kind, 等を次に補ひて見よ、意味明瞭ならん。是に似たるは I made him what he is なり。

類例:—

I wish him to be a kinder man. (=I wish that he were a kinder man.)

I wanted him to go out. (=I told him that he should go out.)

(35)

Beware of him  
who flatters you,  
and  
(who) praises you to your face,  
or  
(who praises you) to one  
who  
he thinks,  
will tell you of it.

〔譯〕 おべつかを使つたり、面と對つても世辭を言つたり、又は君のことを讚めて居たと言ひさうな人に君のことを讚めたりする人は險呑だ。



【分解法】

(a) Praises you は flatters you と同一形式なるを以て對立せしむれば其れが who に連繫すべきを知らん。而して to your face は flatters you にも連繫すべきかを一考せざる可らず flatters you の次に comma ありて praises.....face の一句と區切りたるのみならず若し to your face を兩者に連繫せしめんには flatters and praises you にて足るべく何ぞ之を flatters you と praises you と別々に引き離すの要あらん。

(b) To one は to your face と同一形式に屬するを以て對立せしむれば to one は亦 praises you に連繫するを知らん。又異種連續をつくる who he thinks, will.....は原文の儘を通讀したらんには何となく錯雜の感ありて臨句の關係を知るに難きも分解法に依りて he thinks の一成句を分離すれば自然 who と will tell you of it の連繫すべきを知るべし。更に he thinks の he は to one の one を代表するか或は文頭なる Beware of him の him を代表するかを決定せざるべからず。特別の事情あるに非ざれば同一形式のものは同一物とせざる可らず故に最後の he は最初の him と同一人物なりとせざる可らず、一度此の代表法を無視すれば文章は亂雜讀むに堪へざるに至るべし。

【註解】

To your face.——直接に、面のあたり、向き付けてと譯する最も普通なる句なり。

類例：—

I withstood him to his face, for he was to blame.

彼が悪いのですから、私は向き付けて抵抗しました。

I told him to his face that he was a hypocrite.

私は彼に向き付けて偽善者だと言つてやりました。

關係語の離隔

關係語   
  
 關係語

(1)

When you are in Society

study those

who have the best (manners)

and

(who have the) pleasantest manners.

Manner,

says the old proverb with much truth,

if

(says the old proverb) with some exaggeration,

maketh Man,

and

a pleasing figure is a perpetual letter

of recommendation.

〔譯〕 交際場裡にありては最も優美にして最も愉快なる作法の人に注意せよ。「作法は人を造る」といふ古諺は



多少の誇張こそあれ多くの真理を含む。「美容は 不斷の推薦状なり」。

〔分解法〕

(a) The best.—形容詞は the を冠して名詞として用ふることあれども、其の本性としては次に名詞を要求することを忘るべからず。若し次に名詞なければ名詞として用ひたるものと思ふべし。尙且 pleasantest と同一形式なるを以て (manners) を補充すれば是が則ちその連繋すべき名詞なるを知らん。

(b) With some exaggeration は with some truth と全く同一形式にして意味に於ても相対的なり。故に之を對立せしむれば (says the old proverb) の省略を知るべし、若し分解法に依らずして「或る誇張を以てならば」の如き舊式譯法に依らば全く意味を解釋すること能はざるに至らん。而して says.....exaggeration は comma にて打ち切られれば括弧内に在るものと想像せよ。maketh の主語は Manner なること一目瞭然たり、says 以下 exaggeration を挿入法とす、挿入句長ければ長き程相關する語を見出すに困難なり、試験官は此の虚に乗ぜんとするなり、所謂解釋法や公式を何程讀みても失敗するもの多きは如何、分解法を知らざる故なり。

〔註解〕

(a) With much truth.—主語は the old proverb なり。「多く真理を以て言ふ」は「其の言ふ所大に真理なり」の意なり。

類例：—

You cannot say so with justice.

さう言つては正當でない。

You cannot justly say so.

さう言つては正當でない。

Can't you be justly indignant?

怒ても正當ぢやないか。

You are, rightly indignant.

君が憤るのは當り前だ。

It is rightly said that he is a rogue in disguise of a gentleman.

彼は紳士を装ふ悪漢だとは至言である。

It is truly said that Japan has no intention to fight with America

日本は亞米利加と戦ふ意なしとは眞實なり。

(b) Pleasing figure.—「人を喜ばしむる容姿」は恰も推薦状の如く人の信用を受くるの資なりとの意なり。さて perpetual は永久に或る事の連続する意にはあらず、絶えずの意にして殆ど continual に等し。本文の如く挿入句や comma 多きものは解釋上最も困難なれば努めて練習するを要す又推薦状の如き common term は受験者の決して忘る可らざるものなり。又普通の讀本中には出づる事少き而かも日常吾人の見聞する事物の名稱も努めて記憶すべし。例へば戦争に関する術語や經濟、政治に関する通用語の如き是なり。A pleasing figure is a perpetual letter of recommendation は Bacon の言なり。

( 2 )

The spirit not less than the body,

requires rest : ||

and

the spirit,

like the body,

when (it is) refreshed with rest

and

when (it is) refreshed with sleep,

comes to the prosecution of its allotted

task.



〔譯〕 精神は肉體と同じく休養を要す。而して精神は、肉體の如く、休息と睡眠とに依りて爽なる時は其の課程の遂行に向ふ。

〔分解法〕

Like the body 及び when.....sleep は共に副詞なれば暫く之を無きものとすれば the spirit は下の comes に連続せざる可らず。semicolon 以下は第一句の説明にして平行法を用ひたり。

〔註解〕

(a) **Not less than.**—是及同種の形式は既に何々解釋法、何々公式と稱する書にて知悉するならん。not は マイナス less も マイナス 故にプラスに變ずと記憶せよ。the spirit=the body 即ち the spirit like the body の意に變ず。

(b) **When refreshed.**—When, while 等の次には主語+助動詞或は本動詞さへ省略すること普通なり。是も亦例の解釋法に譲らん、本書の目的は從來の方法のみにては英文を解釋するに遺憾なるを以て全く別種的方法を授けんとするに在ればなり。

(c) **The prosecution of.**—名詞+of+名詞は往々他動詞+賓語の關係を示すことあるは二〇九頁註解(b)に詳説したり。今 prosecution を動詞に使用したる例を掲げん。又此の語に因みて persecute, execute 等にも遂行の意あるを記憶すべし。

類例：—

He has gone abroad to prosecute his studies.

彼は勉學の爲め洋行しました。

He prosecuted me for the neglect of my duties

彼は職務怠慢の罪で私を訴へた。

(3)

Brain-work in moderation  
is unquestionably healthy,  
but  
brain-work in excess  
is the very reverse.

All

who work their brains too much—

(be they) mathematicians,

(be they) philosophers,

(be they) lawyers,

(be they) authors,

or

(be they) men of business—

do so at the expense of physical health.

〔譯〕 頭腦の仕事は適度に行へば勿論健康に宜しけれど、度を失すれば全く其れに反す。其の數學家たると哲學者、法律家、著者、若くは實業家たるとを問はず腦を使用すること多きに過ぐる者は斯くして身體の健康を犠牲にす。

〔分解法〕

此の問題は寧ろ平凡なり。第二節の兩 dash 間なる動詞 be は古き發表法なり。今世的に之を改むれば let them be mathematicians, etc, にして其の意



は whether they be mathematicians, etc. なり。do so は數個列擧したる名詞の後にありて主語を見出すに困難を感じしむる點に着眼したるなり。分解法に依れば who work.....to much は All の形容詞なれば All が最下の do に連続すべきを一目して知らしむ。

〔註解〕

(a) **Reverse.**—猶ほ opposite といふが如し、是は記憶し難き語なれど最も必要なるを以て努めて忘る可らず。Re (=back)+verse (=to turn) にして verse は時には vert に變ず。revert, convert, controvert, controversy, 等は受験者の知らざる可らざる單語なり。斯の如く接頭、接尾の字及び語幹に注意する時は類推法に依り實に驚くべき程多數の單語を正確且便利に記憶することを得るなり。余は此の法に依りて急速に語彙を富ましめたり。五千六千の單語を暗記するは朝飯前の仕事なり。

類例:—

He is the **reverse** of honest.

彼は正直の反對だ。

What do you notice on the **reverse** (side) of the coin?

其の貨幣の裏面に何か眼に留る物がありますか。

Before he fought a battle, Bonaparte thought little about what he should do in case of success, but a great deal about what he should do in case of a **reverse** of fortune.—〔大正四、海、機、〕

ナポレオンは戦争を開始する前に、勝つた時にはどうしようかといふ事は餘り考へないで逆運(敗北)の場合にはどうしようかといふ事に熟慮を凝した。

(b) **At the expense of.**—此の句に就ては他の場合に屢々詳説したるを以て省く、physical health は moral health に相對的にして身體の健康なり。又屢々注意したる如く physical を知りたらば同時に physically に

注意すべし。又進んでは physics, physique をも研究すべし。類例を示すことは容易なれども今回は故意に省けり。今日の學生は勞力を吝みて唯だ他人の助力にのみ依頼せんとす。宜なるかな三回も四回も“落ちる”ことよ。穴賢。

( 4 )

It is often charged against Americans

that | they are given to bragging.

May not men

who have done marvels

be permitted a certain amount of self-glorification?

〔譯〕 亞米利加人は兎角に大言を吐くと言つて非難する者が往々ある。偉業を成したる者には多少の自慢は許してもよからうではないか。

〔分解法〕

(a) It.....that が強制法を構成することあるは決して忘る可らざる規則なり加之分解法規則第九(4頁参照)に依り各成句に分割すれば they.....bragging が眞の主語なることを容易に發見せん。

(b) Have done と be permitted とが接近する爲め輕卒なる學生は done にて區切り marvels を以て be permitted の主語となす。done は他動詞にして必ず次に賓語の來るべきを知らば marvels と done とは分離すべからざるは明瞭ならん。分解法規則第四(10頁参照)。而して who.....marvels は一成句なるを以て之を men より分離すれば be permitted は men に連繫することを知るべし。又假りに marvels を be permitted の主語とせよ。May.....done と以下全體の關係は全く斷ち切られて無意味となるのみならず be permitted を Subjunctive Present Tense の動詞とせざるべからず。



是れ此の文章に於ては不可能事なり。又 May not.....は疑問形なるを以て譯するに困難を感じる者もあらん。然る時は普通の文章に書き換へて Men may not be permitted とせよ。容易に意味を捕捉することを得ん。此の轉換法も亦解釋の一手段となす。

〔註解〕

(a) **To charge.**—此の語は羅典の *carricare* (=to carry) より佛語の *charger* に轉じて英語と成りたるものにして *to load* (積む) を以て本義となす。故に凡ての變化に通して**負載**の意を有す。類例に依りて最も普通用ひらるゝ此の語の範圍を知るべし。

類例：—

The expert **charged** a bottle with electricity.

技士が瓶に電氣を込めた。

**Charge** your gun with powder and ball.

汝の銃に火薬と彈丸を装填せよ。

The government is going to **charge** the people with heavy duties.

政府は人民に重税を課せんとす。

How much did they **charge** you for that dirty hat of yours?

君のその汚ない帽子にいくら取られた。

The merchant **overcharges** his customers.

あの商人は懸値をする。

The poor man was **charged** with theft.

氣の毒にあの人は竊盜の嫌疑を受けた。

I am **charged** with ambition.

私は野心があるといふ非難を受けてゐる。

We **charged** the enemy's battery in hopes of silencing it.

我軍は敵の砲臺を沈黙せしめんとして突撃せり。

Who is **in charge** of the room?

此の室は誰の掛りですか。

The naughty boy was put **in charge** of a rigid tutor.

その腕白小僧は八ヶ間敷い先生に委託された。

(b) **To be given to.**—此の句は to give oneself up (over) to (身を捧ぐ、献身す、耽溺す)より轉じたるものにして耽るの意に用ふるを普通とす。

類例：—

He is wholly **given up to** vice.

彼は全く墮落した。

He has **given** his life to the researches

氏は其の研究に一身を委ねた。

(c) **Bragging.**—自慢して大言壯語すること。動詞としては of 又は about を要求す。

類例：—

He always **brags** of his connection with nobles.

彼は常に貴族に關係があると言つて誇る。

He is a rare **braggart**.

あれは珍しい法螺吹だ。

(d) **Self-glorification.**—自慢、自讃なり。此の名詞を知りたらば動詞としての働きにも亦留意せざる可らず。學生は所要の單語を字書に求むるに當りて其の語の他の變化に注意するもの尠し。恰も他人の請負仕事を爲すが如く必要のものを見出せば他を顧みるに及ばずと言はんが如き態度にては成功せざるが當然なり。余の示す類例の多様なるは全く此の缺陷を補はんとの婆心に出づ、之を厭ふものは即刻學問を中止して商店の徒弟にても成るがよからう、怒つてはいけないよ。



類例:—

Let us **glorify** those generals and soldiers who won us eternal fame in the siege of Port Arthur. (他動詞)

旅順の包圍にて日本の爲めに不朽の名譽を得たる將卒を讚美せよ。

Do not **glory in** a seeming success. (自動詞)

外觀の成功を歡ぶ勿れ。

**Glory** be to God!

神を讚美せよ。

(5)

It is possible to proceed with

what is properly called technical education

only after certain subjects

{ which must be regarded as fundamental

and

{ (*which must be regarded as*)

absolutely essential

have been thoroughly mastered.

【譯】 専門教育と適當に稱せらるべきものに進むま  
には、根本的なり。絶對的必要なり、と見做さざる可ら  
ざる一定の科目を十分に學習したる後ならでは能はじ。

【分解法】

此の問題の着眼點は最後の一行にあり。what 以下は with の賓語なるを  
以て連続せしむるを正當とすれど餘りに長ければ分離せしめたり、次に起

( 248 )

べき疑問は after を前置詞として subjects を其の賓語とすべきか、或は  
after を接續詞として subjects は次に動詞を取りて成句を形づくるべき主語  
とすべきかなり。前置詞として之を直譯すれば「一定の科目の後に専門教  
育と稱せらるべきもの」とは何を意味するか、更に要領を得ざるなり。故に  
其の誤なること明なるを以て後者を採用すべし。which は例の如く subjects  
より分離せざるべからず。而して fundamental と essential とは共に形容  
詞にして形式等しきを以て對立せしむれば前者が regarded に連繋する如  
く後者も又 regarded に連繋せざる可らざるを以て自然 have been master-  
ed は上部より分離すべきものたるを知るべし。遡つて which を有する成  
句に括弧を與ふれば have been.....は subjects に連繋して其の制限動詞た  
るを機械的に知ることを得べし。若し which must.....absolutely essential  
を comma にて區切らば解釋に些の困難も感ぜざる平明なる構文となるべ  
し。斯の如く關係語の錯綜したるものは分解法に依らざれば正解すること  
不可能なり。

(6)

The exaggerated estimation

in which | the climate of Japan is held

by many of those

who have had no experience of it

often prepares a bitter disappointment

for visitors,

who find a climate far better

than

( 249 )



that of England  
and  
(who find a climate) subject to greater  
extremes of temperature,  
(than)  
(that of England)

〔譯〕 經驗なき多くの人士が日本の氣候を過賞するは來遊の客に失望を與ふる原因たること往々なり。來りて見れば(何ぞ圖らん)英國の氣候より遙に濕潤にして且寒暑の差一層大なり。

〔分解法〕

(a) 此の問題は estimation の修飾語長くして prepares との連繋を知るに困難なり。さて that of England の that は climate の代用なること明なり。故に兩者を對立せしむれば此の句が find に連繋すべきを知らん。

(b) Subject to.....此の問題の困難は主をして此の語に存す。subject は文法用語として「主語」と譯する外問題、臣民、從僕と譯するは學生の知る所なれども、形容詞として「服従する」「免れぬ」の意に用ふることを知らざる者多し。記憶すべし形容詞の場合には前置詞を伴ふことを。さて形容詞たること明になりたれば better と對立せしめ、greater に應ずべき than を其の直下に置き同時に此の部の日本の氣候と英國の氣候との比較なることを考へて適當なる補充を行へば遺憾なく解釋することを得べし。

〔註解〕

(a) The exaggerated estimation. —是を正解せんには to hold in estimation の連結を知らざるべからず。

(b) Prepare. —直譯すれば「準備す」なり。此の語は way と連用すること多し。類例に依りて其の應用を覺るべし。

類例：—

Learning to read prepares the way to all knowledge.

讀書は總ての知識に到る路を準備す——總ての知識の階梯なり。

(c) Extremes of temperature. —氣候の極端とは寒暑の如き極端に相反する氣候を謂ふ。因に temperature と weather, weather と climate とを混同する者多し。temperature は溫度なり。weather は晴、雨の如き天候なり氣象なり。climate は一定の temperature や moisture に関する土地の狀態にして即ち氣候なり。故に日本の climate は溫暖なりと言ふなり。又動物の體温は temperature といふ。

(7)

Nothing is more diverting  
than  
(it is diverting) to hear  
the dwellers in each great American town  
criticise  
the dwellers in others.  
All those societies,  
each (being) almost in its infancy as yet,  
are jealous one of another.

〔譯〕 亞米利加の各大なる都市の人士が他の都市の人



士を批評するを聞くより面白き事はあらず。未だ殆ど幼稚時代なる此等社會は互に嫉妬するなり。

〔分解法〕

(a) Hear は前に類似の形式なきを以て第一成句の尾なる diverting の右方に出し、其の賓語 dwellers は修飾語長き故別行に分置すれば自然 (*it is diverting*) の省略を知るべし。但し第一行 Nothing に對し (*it*) を補充する所以は不定詞の豫想主語として普通用ひらるゝ故なり。勿論 to hear を nothing に對立せしめて次に (*is diverting*) を補ふが正式なれども初學者は一見直にその然るを知ることを能はざるを以て故意にしかしつるなり。

(b) The dwellers は to hear の賓語なること明かなるが criticise の關係語即ち主語は何なるやと疑ふもの多かん。此の場合の criticise は不定詞にして主語を取ること能はず。且つ to see; to hear; to observe 等と適用する時は to を略することを記憶すべし。若し in each great American town の修飾語だになければ關係極めて明瞭なれども之れあるが爲め容易に之を知る能はず。

(c) Each.....yet の如く最初に名詞ありては其れに對する動詞なきものは分詞句なること往々あり。斯る時は (*being*) を補へよ。若し其れにて意味不明ならば as+名詞+is (was) 或は when+名詞+is (was) と略ぼ類似の意味なりと思ふべし。

〔註解〕

(a) **Diverting.**—此の語は convert, pervert 等に見るが如く to turn aside の意より娯樂的の意を生ぜり。

類例:—

You must now and then to **divert** your attention from your studies.

君は折々勉強をやめて氣散じをしなければいけない。

Reading was his only diversion from care.

氏は心配を消すために讀書を唯一の娛樂とした。

(b) **To hear.**—下に類似の形式二三を擧げん。

類例:—

I have never **heard** him **tell** a lie.

私は彼が嘘を言ふのを聞いたことがない。

I **saw** the thief **steal** out of the room.

私は賊が室から竊つと出て行くのを見た。

I never **observed** him **go** out without his son.

私は彼が息子を伴れずに外出したのを見たことがない。

(c) **One another.**—此の句は本來中間に前置詞を有するものなるが多く句頭に其れを有する爲め却て誤解することあり。而してこの句は二人及び以上の場合に用ひらる。each other も同様なれども分離する時は the other となるの相違あり。

類例:—

They talk ill **of one another**.

彼等は互に惡口を言ひ合ふ。

They talked merrily, **one with another**.

彼は樂しげに談笑した、—互に。

**One** ought to help **another** in distress.

困窮の時は互に助け合ふべきものだ。

There were two of them, **each** helping **the other**.

彼等は二人なりしが互に助け合ひたり。



(8)

Many of us,  
 through ignorance,  
 (*through*) thoughtlessness,  
 or  
 (*through*) want of judgment,  
 wound those  
 whom we love best,  
 and  
 (*whom we*) most wish to help.

【譯】我等には、(自己の)無智、無思慮、無判断の爲め、我等が最も愛し且つ助けんと希ふ人の感情を害する者多し。

【分解法】

(a) Thoughtlessness 以下 judgement までは長短の相違こそあれ皆同一形式に屬し各々 comma にて打ち切られたれば之を一所に對立せしむれば三個とも *through* に連繫すべきを知らん。

(b) We love best. —是は most wish to help と同一形式に屬するを以て對立せしむれば (*whom we*) の省略は容易に知ることを得べし、斯の如く數多の comma にて打ち切られたる名詞或は動詞の續出する時は語間の關係を失ひ易きものなれども分解法に依れば些の不明をも生ずる憂なし。

【註解】

(a) **Through.** —この前置詞は茲に於ける知く原因を示す外に媒介、完了を示すこと最も普通なり。

( 254 )

I have got the news **through** my servant.

私は此の報知を下男から聞きました。

Are you **through** with your work?

君、仕事は済んだかね。

(b) **Whom** 以下は *those* の形容詞にして *love* 及び *help* の賓語は *whom* なり。

(9)

A. One of the saddest sights | is that of a young man  
 who, without ever having asked himself | if he possessed  
sufficient strength of nerve to endure the strain  
of an intellectual career, | has been graduated heavily  
in debt, and has sacrificed what little health and con-  
stitution | he had for a college course.

B. One of the saddest sights  
is that of a young man  
 who,

without ever asking himself  
 if | he possessed sufficient strength of  
nerve | to endure the strain of an intel-  
lectual career,

has been graduated heavily in debt,

and

( 255 )



has sacrificed what little health  
and  
(has sacrificed what little) constitution  
he had for a college course.

C. without ever asking himself

if he possessed  
sufficient strength of nerve  
to endure

the strain of an intellectual career.

〔譯〕 (世の中に)最も悲しき事の一は、智的生活の勞苦に堪ゆることを得る體力を有するや否やを自己に問ふことなく、重き責務を負ふて大學を卒業し(素より)良からぬ健康と身體とを其の修業の爲めに犠牲にする青年の有様なり。

〔分解法〕

(a) A は既に巻首に詳説したる如く試験場に於て別紙に問題を書き替へて分解法を行ふこと能ざる場合の手段を示す。without.....career までは comma にて區切られたれば除きて見よ、who は has been graduated に連繋すべきを一目して知るを得べし、印刷に費用を要するを以て朱線黒線等を用ふること能はざれども諸君は色鉛筆を以て見易き様區分せられよ。

(b) B は A の詳細なる分解法なり。今回は連続して離るべからざる句には横線を施したり。唯だ單語として見るよりも斯の如くすれば混同の憂なく語句と語句と連繋を一層明瞭に知るを得るが故なり。

(c) C は複雑なるを以て前に取り除きたる部分を特に書き換へたるな

り。試験場に臨みては A の如き分解法を試み次に複雑なる部分のみを斯の如く別紙に分解せよ。横線は關係語たるの目印なり。

〔註解〕

(a) **That.** — 同一名詞の重複を避くる爲め that や so を用ふことは最も普通なり。即ち此の場合の that は sight の代用なり。而して sight は光景、有り様と譯すれど又場合に依りては動詞の如く見ると譯することを記憶すべし。又 that を見ると譯するに當りて記憶すべきは of にて連続せられたる二個の語句は他動詞+賓語の關係を有することある一事なり。此の成句を簡單に paraphrase すれば It is very sad to see a young man. なり。

(b) **If.** — 間接體の疑問文に if, whether はを用ふること普通なり。此の時は Question Mark (?) の代用なりと心得て可なり。斯る點に注意するが解釋の秘訣なり。但し疑問代名詞、疑問副詞を有する場合には if, whether を用ひず。

類例:—

He asked me, "Do you like it?" = He asked me if I liked it.

He asked me, "Will you go?" = He asked me whether I would go.

He asked me, "What have you?" = He asked me what I had.

(What は疑問代名詞なり。)

He asked me, "Why have you done so?"

= He asked me why I had done so.

(Why は疑問副詞なり)

(c) **Sufficient.** — 是は次に不定詞を要求す。其れ無きは省略なり。enough も同様とす。

類例:—

I have not enough money (or, money enough) to buy it,

其れを買ふ丈の金がない。



He has not sufficient courage to attempt that.

彼は其れを計畫するだけの勇氣を有たぬ。

(d) **Strength of nerve.**—換言すれば strong nerve なり。nerve は本来神經なるが轉じて體力となる。又或場合には勇氣なり。strength なる抽象語が strong なる形容詞に變化する點に注意すべし。是れ亦譯法の一秘訣。

(e) **Career.**—經歷、履歷、生涯、生活にして life と同意に用ふること多し。

(f) **Graduated.**—此の語は大學にのみ用ふる語なるが日本にては、中學にも用ひらる、恰も student は大學生の意なるに我等は一般に學生、生徒の意に用ふるが如し。

(g) **What little.**—此の場合の what は形容詞的關係代名詞にして all the.....that に等しき力あり。what little health は all the little health なり。而して little は否定的にして a little と異なるは既に知る所ならん。

類例：—

I had lost what little patience I had left.

殆んど残つて居ない忍耐力までも皆無くなつてしまつた。

What little money I had I spent on my books.

私の持つてゐた金は少かであつたが其れも皆書籍に使つた。

What curious books I have, they are indeed but few, shall be at your disposal. [37 專檢]

珍らしき書籍は誠に少なけれども私の所有する丈は皆御使用御勝手に御座候。

(h) **For a college course.**—「大學の課程の爲めに」は直譯なり、course は元來路の意にして轉じて、進行、課程、となることは説明を俟たずして明ならん。

You must take such a course as will bring the greatest good out of the least.

最小の利益より最大の利益を生ずるやうな 方法を作らなければならぬ。

In course of time you will gradually be accustomed to the evil.

時を経る内に其の弊害に馴れて来る。

In due course of time, his untiring diligence gained him both fame and wealth.

時機到來して、彼は其の撓ゆまざる勉勵の結果名譽と富とを得たり。

In the course of the present month, the affair will mend itself.

今月中には自然好都合になりませう。

(10)

Intructions have been sent

by the Peking Ministry of Finance

to the Chinese Minister in Tokyo

to select some of the most successful

Chinese students

now being educated in Japanese Colleges.

and

(to) forward their names to Peking

so that

employment may be found for them

as advisers

in the Minister of Finance



〔譯〕 北京財務部は日本駐劄支那公使に訓令して曰く、現在日本の大學に於て教育中なる最も成績よき支那學生を財務部顧問に採用すべければ數名を選抜して其の姓名を北京に送達すべしと。

〔分解法〕

是又新聞の切り抜きなり。文章その物に些の困難もなし。唯だ一見六ヶ敷さうなる長語を羅列したるに過ぎず。且つ此の文の特徴は一個の punctuation もなき一事なり。斯るものは語句相互の關係を不明ならしむる傾あるを以て之が解釋を試みん者は先づ各片句、成句を分離せしむべし。而して卷頭の注意に基き各句を一個の單語と見做して語句の關係を觀察すべし。

今之を略式分解法を以て示さん。

Instructions.....sent  
 by.....  
 to.....  
 to select.....Chinese students  
 |  
 being educated in.....  
 |  
 and  
 (to) forward their names .....  
 so that  
 employment may be found.....  
 as advisers.....  
 in.....

又點線に代ふるに譯語を用ふるも便利なり。或は日英混合にしても妨げなし、煩雜を厭はず其の一法を下に掲げん。

Instructions せられた sent

〔by 北京財務部  
 to 東京駐劄支那公使  
 to select 最も成績よき支那學生を  
 今日日本の大學に於て教育中の  
 and  
 (to) forward 其の名を to Peking  
 so that (爲  
 に)  
 職業が may be found 彼等の爲めに  
 顧問として  
 北京財務部に於て

〔註解〕

(a) **Successful.**——此の語の譯語は臨機に製造して可なり。今最も普通の場合に適應すべきものを示さん。又數度注意したる如く原語が形容詞なれば譯語も形容詞ならざる可らずとの迷信を打破すべし。

類例：—

He is one of the most **successful** business men of the day.  
 氏は今日の實業家中最も成功したるもの一人なり。  
 I have been **successful** in my attempt.  
 私の計畫は甘く行きました。  
 The troops were **successful** in subjugating the rebellion.  
 其の軍隊は首尾克く暴徒を鎮壓した。  
 It is doubtful whether their undertaking will prove **successful**.  
 彼等の企畫が好結果を生ずるかどうか疑はしい。

(b) **Forward.**——商業英語として最も普通なる此の語は一般學生には a stranger の感あらん。

類例：—

Kindly **forwarded** by Mr. Kondo.



近藤君に托す——信書を他人に托する時封筒の左、宛名の下に書く句なり。

Take this to the **forwarding agent** at the corner.

此れを角の運送店へ持つて行つておくれ。

we shall **forward** the goods by the next train.

次の列車で品物を送ります。

(c) **So that.....may.**——此の連結が目的を示すことを知らざる者は如何なる入學試験にても受くる資格なし。本書は斯の如き平凡なるものを取扱ふには餘り貴重なり。阿々。

(11)

One of the most important functions  
of physical science, (*that is*)  
considered as a discipline of the mind,  
is to enable us

by means of the sensible processes of Nature

to apprehend the insensible.

〔譯〕 自然科學の重要なる功用の一にして精神を訓練するものと考へらるゝものは吾人の知覺し得る自然界の法則に依りて知覺し得ざるものを吾人に理解せしむることなり。

〔分解法〕

(a) Considered は一見過去動詞の如くなるも其の前には comma ありて其れに對する主語なきを以て過去分詞なりと斷定せざる可らず。故に

(*that is*)を補充すべし。而して the mind の次にも comma あれば之れにて區切り is以下を分離せしむれば自然 is.....us は physical science に連繫すべきを知るべし。

(b) By means of.....Nature は皆前置詞+名詞にて成る片向なるを以て一括して to apprehen.....を分離せしむれば其れが enable us に連繫すべきを知るべし。

〔註解〕

**The insensible.**——一方に the sensible processes of Nature とあれば the insensible の次には processes of Nature の當然來るべきを知らざるべからず。processes は順序、方法と譯するを常とす。此の場合に於ては自然の營々化育する有様を謂ふ。之を譬ふれば人體の諸機關の如し、不息不休の器能を見ては其處に何かの精神的働きの存在を覺らざるべからず。

(12)

No one has any right to enjoy

the benefit of all his labour

without contributing,

if (*it is*) not (*contributing*) his fair share,

(to the common

at any rate

welfare)

(*without contributing*) something to the common

welfare,

for



some have not the same leisure or opportunities

as

others (*have*)

〔譯〕 何人と雖も社會公衆の福利に、假令一人として十分とは云へざるも（人は皆同じ閑暇と機會とを有するものに非ざるを以て）兎に角多少の貢獻を爲すに非ざれば自己の全勞働より生ずる利益を享樂するの權利なし。

〔分解法〕

(a) 斯の如き複雑なる文章は一讀先づ附屬部分を見定め悉皆之を除きて分解法を行ふべし。即ち for some have.....others は理由を説明する成句にして前後 comma にて切り離したれば、恰も括弧にて括みたるに同じ。故に之を除きて分解法を試むるに一見省略の存する所を知る。殊に share (配分) とは何の配分なるか單に一讀しては容易に其の意味を解する能はざるに分解法に依れば to the common welfare に繋ることを極めて明白に知るを得るなり。

(b) If not は大概是 if (*it is*) not と省略を補へば適當するものなり。且又 without と not とは共に否定語なるを以て對立せしむれば his fair share (形+名)は動詞 (contributing) とは異品詞なるを以て對立せしむる能はず。故に contributing より右方に之を置けば勞せずして contributing の賓語たるを知るべし。

〔註解〕

(a) Enjoy は享樂すの意なり。詳言すれば享け楽しむことなり。例へば茲に千圓の收入を有する人ありとせんか。其の金を以て種々の愉快を取ることが得べし。之を千圓の收入を enjoy すといふ。又一層高尚なる例を取れば壓制を受くる人民は自由を enjoy すること無しと言ふが如し。

類例：—

He enjoys an income of a thousand pound.

彼には年一千磅の收入あり。

He is a man of conservative type, and never enjoys new plays.

彼は舊式の人間で新しい演劇を好まない。

(b) 否定語+without は結局肯定に變ずれども此の場合は普通の形式と少しく異なるを以て直譯するがよし。今兩法を示さん。

類例：—

They cannot meet together without quarrelling.

彼等は一所になりさへすれば喧嘩する。

You are not admitted to enter the room without permission.

君は認可がなければ室に入れません。

(c) Fair share は直譯すれば正當なる割り當てなり。fair は偏頗のなきことにして甲に 10 を與ふれば乙にも亦 10 を與ふ。甲より 10 を取れば又乙よりも 10 を取るが如きを云ふ。故に又公明正大の意に用ふること多し。share は配當なり。社會の各員は皆自己の屬する社會の爲めに働かざるべからず。働かざるものは自分の當然割り當てられたる職責を果さざるものなり。尙ほ something と對照せば一層明ならん。

(d) Others に對する省略は分解圖に依つて明瞭なるべし。文字通に譯すれば「他人の有する閑暇や機會と同じ閑暇や機會を有せざるものもあれば」の意なり。



Take care,

however,

that | your pleasures are real

and

(*that your pleasures are*) not imaginary.

We do many things

because | they<sup>o</sup> are called pleasures,

which | we should hate

if | they<sup>o</sup> went by any other name.

Many people think (*that*)

they are enjoying themselves,

merely because | they are doing nothing (*which is*)  
useful

〔譯〕 快樂は實際的で想像的にならぬやうに心懸ける、吾等には、(世の人が)快樂といふので爲て居る事が多い。若し其れが快樂といふ名でなかつたならば其れを嫌ふのであらう。自分が何にも有益な事をしてゐなければ、其れが即ち愉快だと思ふ人が多いのだ。

〔分解法〕

(a) 第一文は簡短なるを以て real 及び imaginary は共に形容詞にして補足語たることは (*that your pleasures are*) の補充を俟たずして明なり。

(b) Useful は形容詞なれども次に名詞なし。故に分解法第八(9頁参照)に依り nothing を形容すること明なり。即ち (*which is*) を補ふ所以なり。

〔注解〕

(a) **Take care.**—however を除けば此の句が that 以下の句に連続することを容易に知るべし。又 to take care of は大切にす、大事にすの意にして斯の如く clause を取る take care は必懸くるの意なることを忘るべからず。

(b) **They are called.....**—They は二個とも複数なり而して最近の名詞 pleasures を代表するを以て目印として右肩に圈點を付すべし。此の一句、原文に於て受働調なれども譯文には「世の人が云々」と發働調となせり。譯文は原文に絶對的忠實なる能はざることを記憶すべし。又「世の人」とせるは是を發働調に變換すれば People call them pleasures となるを以てなり。

(c) **Which.**—關係代名詞は最近の名詞を代表するものとして pleasures を先行詞と假定せんに pleasures を hate するとは一般の人の場合に有るまじき事なり。故に because.....pleasures を挿入句の如く見て是を除けば which は things を代表するものとせざる可らず。hate は他働詞にして賓語を要す。次に其れ無きを以て左に廻つて which を其の賓語となす。

(d) **Went by.**—To go は斯る場合には通用の意なり。又場合に依りては to fare (暮す、生活す)の意なることあり。

類例：—

He is really a knave, but goes for a gentleman.

彼は實は悪漢であるが、紳士として通つてゐる。

He goes in a splendid style.

彼は贅澤な生活をしてゐる。

I am known by that name.

私はさういふ名で知られてゐます。

He is a wine-merchant by trade.

彼の商賣は酒屋だ。



(14)

We see the character of Nelson  
displayed in his actions.

He was ardent (*in the line of his duty*)

and

(*he was*) fearless in the line of duty

to an extraordinary extent.

No labour (*seemed to him too great*)

or

(*no*) sacrifice seemed to him too great

which promised to make him better

as a sailor

and

(*as*) an officer.

〔譯〕 ネルソンの性格は其の行爲に彰々たり。卿はその職務を執るに當りて酷だ熱心大膽なりき。卿が海兵たり將又士官たりし時苟も向上すべき望あるものは如何なる勞働犠牲も過重の負擔ならざりき。

〔分解法〕

此の問題は which の先行詞が離隔されたる點に困難あり。輕卒に讀むものは其の先行詞を great とするか、或は恰も great の次に comma ありて which は and it の力ある接續的用法に屬するものと誤認すべし。分解法は斯る誤謬を不知不識の裡に避けしむ。

( 268 )

〔註解〕

As a sailor. — A sailor, an officer と別々に言ひたるは彼の a sailor たりし時にも an officer たりし時にもの意を示さん爲なり。海兵たり且つ士官たりの意に非ず。斯の如く精讀するを to read between the lines と云ふ、紙背に徹すとは是を謂ふなり。

(15)

We have a half-belief.

that |

the person is possible

who can counterpoise all other persons.

〔譯〕 凡ての人に匹敵し得る人ありと吾人は半信ず。

〔分解法〕

(a) 分解法第四に依り凡ての成句を分離すれば that が第一句と第二句との中間に在りて兩者を接續する接續詞なることを明に知ることを得べし。

(b) Who は關係代名詞の外に疑問代名詞として用ひらる。劣等の學生は或は此の問題に於ても疑問代名詞と誤解するもの無きにしも非ず。假りに疑問を示すものとせよ然らば前句中に doubt, question, inquire の如き疑問の語存在せざる可らず。然るに is possible は肯定的、斷定的文字なるを以て其の然らざるを推定せざる可らず。多數の學生は唯だ英字に日本語を當て、推量的にこぢつけ讀みを爲すの練習に耽り文法的に論理的に、心理的に文を讀むことなきは一大恨事なり。さばれ文法に暗き教師は自己の無智を蔽はん爲め矢鱈に文法と叫びても文章は讀めずなどと氣焔を吐ものあり、呆れ返へりたる次第なり。

〔註解〕

(a) Half-belief. — 直譯すれば半信なり。裏面に半疑の存在すること

( 269 )



を忘るべからず、故に此の語は俗語にて「何だかそんな気がする」など言ふことが略ぼ類似の精神を示すことある句なり。

類例：—

I have but a **half mind** to go.

行かうか止さうか、決定しない。

He does everything in a **half-hearted manner**.

彼は何事をするにも本氣でない。

(b) **Possible**.—多くの字書には有り得べき、爲し得べきの譯の外なし。此の語が名詞の時は殊に斯る譯語にては和文として不適當なる場合多し。又自ら解釋をなすに當りても言葉冗漫なる爲め不明に陥ることあり。名詞の時は望み、見込みと譯せよ、(少くも問題に臨みて解釋する時に)。又副詞の場合は may, can の意を強むるに過ぎざること多し。故に may, can 伴ひたる時は此の語を眼中に置く勿れ、又 may, can なき時は may, can と思ひて譯して見よ自然に了解すること多からん。試験場に臨みて餘りに精確を期さば却つて失敗多きを慮りて捷徑を教ふるなり。

類例：—

Is a man **possible** who knows everything?

何んでも知つてゐる人が有られませうか。

I do not doubt the **possibility** of his passing the examination.

僕は彼が及第の出来ることを疑はない。

There is no **possibility** of such a thing.

そんな事はあり得べきことでない。

All the **possibilities** in life proved but a dream to the unhappy youth.

その不幸なる少年には人生の凡ての希望も南柯の夢であつた。

He may **possibly** be here this evening.

多分今晚來るでせう。

I did all that I **possibly** could.

自分の出来る限りやつた。

He has **possibly** forgotten it now.

彼はもう其れを忘れたかもしれぬ。

(16)

The poor again

we have always with us,

and

**it is greatly** owing to the numerous charitable agencies,

*(it is greatly owing to)* the greater sympathy between rich and poor,

though |

*(it is)* **partly** also *(owing)* to our Poor Law,

*(it is partly owing to our)* Free Trade,

also

and

*(it is partly owing to)* the less unsatisfactory physical

also

conditions,

**that**

there is no such feeling in favour of Socialism and Anarchy as exists in some other countries.



【譯】 又我等には貧民の絶ゆることなし。而かも或る外國に於ける如き社會主義や無政府を喜ぶ感情の存せざるは主として無数の慈善事業や貧富兩階級間の比較的大なる同情のためと幾分我國の貧民法令、自由貿易、及び比較的満足なる健康状態のためとに由るものなり。

〔分解法〕

(a) 先づ it is 以下を最も簡単に書き換ふれば下の如し。

it is greatly.....to the numerous... ..agencies, A  
the greater .....poor, B  
.....partly.....to.....Poor Law, C  
Free Trade, D  
and  
the less .....conditions, E  
that  
there is.....

尙ほ是を簡単にせば下の如し。

it is A, B, C, D, and E that there is.....乃ち知る agencies, poor 等を以て終る各片句は單語を列記したる場合に同じく comma を以て打ち切り最後の一句には and を前置したるを、而して it と that とは例の Emphatic construction を形づくる一要素なるを。斯の如き複雑なる文章に遭遇して解釋を誤るものは此の根本形式を看取する能はざるものに多し。學生の手にある文法書の如きは紙數に制限あるを以て examples や exercises に長文を引用すると能はざる爲め長文に文法を應用練習するの機なし故に簡單なる文章の場合には容易に理解し得る事も長文にありては甚だ困難に感ぜらるゝこと多きが如し。尙ほ念の爲め it と that とが強勢法を形づくる數例を掲げん。而して本文は下に示したる第二の強勢法に屬するものなり。

第一法：—

普通の形式

I gave him a book, a watch, and a hat.

強勢法の形式

It is a book, a watch, and a hat that I gave him.

第二法：—

普通の形式

He failed in his undertaking owing to the want of sufficient fund, precaution, and advice.

強勢法の形式

It is owing to the want of sufficient fund, precaution, and advice that he failed in his undertaking.

(b) To the numerous.....と to our Poor Law. は同一形式、the greater sympathy と the less unsatisfactory.....とは同一形式なるを以て凡て直下に對立せしむれば自然此等の句の連繫すべき所を知るべし。その他 partly と greatly の如き相對分子にも注意すべし。

〔註解〕

(a) **The poor**——(定冠詞+形容詞)は複數名詞と同じ價值を有す。have は他動詞にして賓語を要す、強勢のため文頭に提起したる the poor は即ちそれなり。

(b) **The greater, the less** は英國と some other countries とを比較したるなり。

(c) **In favour of**——Favour は恩惠なり。恩惠を垂るの意より何々を贊助して、何々の利益にの意に轉ず。

類例：—

I am in favour of fighting against Germany.



私は獨逸と戦争をする方に賛成します。

The judge decided **in favour of** the accused.

裁判官は被告の利益に決定した。—裁判官の決定で被告は勝訴となつた。

(17)

It is astonishing

how much | people judge by dress.

Of those (*whom*)

**you come across,**

many go **mainly** by appearances

in any case,

and

many more have **in your case**

nothing but appearances to go by.

〔譯〕 人は衣服に依りて(人物を)判断すること多きは驚くべし。汝が接する人の多くは何人に對しても主として外見を以て判断す。而して汝の如き者に對しては(之を観るに)唯だ外見を以て準繩とする者更に多し。

〔分解法〕

(a) 分解法第四に依り先づ you come across, の一成句を | Of those より分離すれば前置詞 across の賓語 (*whom*) の省略と共に Of は many 連繋すべきことを知らん。注意すべし。of は斯の如く文頭に来て下の單語と連繋すること多き前置詞なることを。

(b) Many go.....in your case は又一成句を構成するを以て分離し mainly の如き重要ならざる副詞を除けば go と by appearances との連結も明かならん。

(c) Many.....by 又一成句を構成す。而して in your case の副詞句を除けば have と nothing but..... の連結は明瞭なり。

〔註解〕

(a) It. — It には不人稱的用法なるものあるに因り少しく意味の不明なる it に逢へば學生は不定的用法なりと考へ、それにて十分解し得たりと思ふもの尠からず、此の場合の it は how.....dress を代表するものにして不人稱的用法に屬するものに非ず。詳しくは余の英文法に就て知られよ。

(b) of. — 既に分解法にて知りたらん如く many of those whom you come across go..... とすれば普通の順序なり。學生は此の種の倒置法に逢ひて迷ふもの多し。

類例:—

of thirteen Travellers who had traversed the region, not one escaped the jaws of the tiger.

其の地域を横斷せる十三人の旅人中一人も虎の害を遁がれしものなかりき。

Of all the jewels I have, the largest and beautifulest is this from India.

(私の持つて居る寶石中一番大きな又一番美しいのは印度産の此れです。)

(c) To come across. — 此の句は二者十字形を成して來るの意にして自然遭遇の意に用ひらる。最も普通なれば記憶すべし。

類例:—

While passing the wood, I came across a spot where mushrooms grew in abundance.



其の森を通過する時余は藪の饒く所に來れり。

(d) **To go by.**——此の場合の go は act (行ふ)の意にして熟して準據すの意に變じ又轉じて本文の如く判断の意を生ず。又 go には to live (暮す)意あることを記憶すべし。

類例:—

We have no rules **to go by.**

我等には準據すべき規則なし。

I will make you **go** in state.

私はお前を立派に暮らさしてやる。

(e) **Case.**——此の語は場合とのみ譯しては文意不明に陥ることなきに非ず。然る時は事情に依りて場所、事柄、事情、人物など自由に譯すべし。故に any case は in the case of any man の如く in your case は in the case of such a common man as you の意なり。詳言すれば汝の如きは凡庸人と見做され唯衣服に依りて判断さるゝなりとなり。

(18)

What an example is this

to the young men of the day,

of the possibilities of an earnest life.

〔譯〕 眞面目なる生活に依りて何にても成就し得べきを今日の青年に示すに何ぞ夫れ好適例なる。

〔分解法〕

(a) (前置詞+名詞)は修飾語を形成するものなるを以て to the young men of to-day の一句を除けば an example は the possibilities と連続するを見ん。to take care of; to make most of; to set an example of の如く of に

(276)

て終る phrase 多きことに留意して一讀直に連続すべき語を知ることにより勉むべし。

(b) To-day の次に comma あるは of the possibilities.....の句が young men 若くは to-day に連繋せざるを示すものなり。Punctuation の効用大なるを知るべし。

〔註解〕

(a) **What an example** は What a (good) example の意なり。斯の如き感歎文に於ては前後の文勢に依りて名詞の前に good, bad の如き意を生ずるを記憶すべし。

類例:—

**What a shot** he is!

彼は實に名銃手ですな。

**What a day** it was!

嗚呼何たる日なりしぞや。

(b) **Possibilities** 此の語は簡単に譯すること至難なり。譯文の示す如く成句に敷衍すべし。場合に依りては望みと譯するを以て便利とす。

(19)

Truly royal men°

and

(truly royal) women°

look out of cold

(attic windows)

and

(look out of) miserable attic widows,

from factories

(277)



and  
 (from) poor houses,  
 upon people (who are)  
 much their inferiors,  
 though  
 (they are) dressed in broad-cloths  
 and  
 (they are dressed in) satins,  
 whose dishonesty  
 and  
 (whose) craft have overcome them<sup>o</sup>  
 in the battle of life.

略式分解 (其の一)

Truly royal men and women<sup>o</sup>

look out of cold and miserable attic windows,

from factories and poor houses,

upon people (who are)

much their inferiors,

though (they are)

dressed in broad-cloths and satins,

whose dishonesty and craft have overcome

them<sup>o</sup> in the battle of life.

略式分解 (其の二)

Truly royal men and women

look out of.....windows,  
 from.....poor houses,

upon people

much.....,  
 dressed.....,

whose dishonesty and craft.....

〔譯〕 眞に貴い男女が寒い憫れな屋根部屋の窓や工場  
 や養育院から外を覗くと立派な幅廣羅紗やサテンを身に  
 着けてははゐるが、不正直と狡計とで人生の戦に勝つた  
 自分等より遙かに劣等な人間の往來するのが見える。

〔分解法〕

(a) 正式分解の他に略式分解二種を示せり。正式の分解法を十分會得し  
 たるものは略式に依るべし。out of と from とは性質相似たる前置詞なる  
 を以て對立せしむれば look は out of.....windows と from.....houses と  
 の二個の副詞句を隔て、upon に連繋するを明にす。

(b) People と inferiors. は異種連続なり、斯る時は中間に comma あれ  
 ば同格と見るべく comma 無ければ關係代名詞と動詞とを省略したる形容  
 詞句と見るべし。即ち分解法に示したる如く (who are) を補充す。

(c) Though, while の次には主語と動詞或は助動詞を略すること普通な  
 り。又此の場合の dressed 如く過去分詞の來る時は Passive Voice なりと  
 知るべし。



(d) Whose は補充したる (*who*) と同じく関係代名詞にして *people* を先行詞とすることは一見して明ならん。

〔註解〕

(a) **Royal.**—Loyal (忠義なる) と混同する勿れ。royal は princely と等しく「高貴なる」の意なり。勿論精神の高尙にして貴きを謂ふなり。此の語に就て一種の秘訣あり。類例に依りて覺るべし。

類例：—

Modesty is a princely virtue.

謙遜は美德なり。

He got a kindly reward.

彼は立派な賞を受けた。

(b) **Attic.**—屋根の直ぐ下なる室なり。多くは物置として用ふ、立てば頭が天井裏につかへる程低きものにして貧民は往々此處に起臥するなり。

(c) **Broad-cloths.**—幅の廣き羅紗、その幅は普通六十吋ありといふ。上等の服の意にして茲には男子用なり。satin は婦人服を指す。

(d) **Them.**—Truly royal men and women を指す故に右肩に圈點を付して記憶に便すべし。

(20)

To choose none but studies (*that are*)  
agreeable and attractive from the start  
is what (=that which)  
young people are more and more  
disposed to insist on.

( 280 )

〔譯〕 始より快適にして且つ興味ある學科のみを選択することは漸く青年間に拔き難き傾向たらんとす。

〔分解法〕

Agreeable 及び attractive は名詞の次に來りたる形容詞なるを以て別行にして (*that are*) を補ふべし。又最後の on の賓語は what 内に含まれたる which なり。斯の如く前置詞が一見依據する語なきが如くなる點に此の問題の困難が存するなり。

〔註解〕

(a) **From the start.**—From the beginning の意なり。start (出發) は競争其他の遊戲に最も多く使用せらるゝ語なるを以て學生として忘るべからざるものに屬す。

類例：—

In anything you undertake it is necessary to make a good start.

何事を爲すにも出發が善くなければならぬ——始めが肝心だ。

He got the start of me in it.

其れには彼に先んじられた。

(b) **To insist on.**—此の語は in (=on)+sist (=stand) より成り persist, exist, consist 等皆同系の語とす。普通「主張す」「固執す」と譯す。本文に於ては「其の方にのみ執着す」との意なり。

( 281 )



No man of his day more clearly  
 foresaw the future dangers  
 to which | America would be exposed,  
 or  
 (no man of his day)  
 showed more distinctly  
 and  
 (showed) (more) forcibly  
how they were to be avoided,  
 than

Washington.

(foresaw)

or

(showed.)

略式分解法

No man            more clearly  
 foresaw the future dangers  
 to which | America would be exposed,  
 or  
 showed more distinctly and forcibly  
how they were to be avoided,  
 than

Washington.

交換法

Washington most clearly  
 foresaw the future dangers  
 to which | America would be exposed,  
 or  
 showed most distinctly and forcibly  
how they were to be avoided.

〔譯〕 當時の人にしてワシントンの如く明に、亞米利加が將來遭遇すべき危険を先見し、或は其の危険を避くる方法を明確顯著に示し、ものなかりき。

〔分解法〕

(a) Of his day の his は後出の Washington を指す。此の句は No man の形容詞句にして大體の意味に大なる影響なければ暫く除きて見よ。此の句は主語 man の修飾語長きを以て foresaw 以下を別行にせり。

(b) Showed は foresaw と等しく過去動詞なるを以て對立せしむれば No man of his day に連繫するを知ることを容易なり。又 showed は他動詞にして次に賓語を要求す more.....forcibly は明に副詞なるを以て how.....avoided の名詞句を賓語なりと斷定せざる可らず。此の成句は the future dangers と對應することに注意すべし。今之を圖表せば次の如し。

<u>          </u>	[more clearly]
foresaw	<u>the future dangers</u>
showed	[more.....forcibly]
	<u>how they.....avoided</u>



〔註解〕

**No man.....more.**—(No+比較級)は最上級の意を生ず。故に變換法に於ては no more than を除きて mostly と爲せり、此の問題は than が甚しく隔離したるを以て稍々難解なるべき點に着眼したるなり。

類例：—

**Nothing is better than kindness.**

親切に優るものなし。—親切が最も善し。

**Nobody is wiser than he,**

何人も彼より賢からず—最も賢し。

(22)

**His whole ambition<sup>o</sup> would have been satisfied**

with **nothing less than**

**the conquest of the whole habitable world**

as then known ; ||

and

**if his life had been prolonged,**

**he probably would have accomplished it.**

〔譯〕 彼の全野心は當時人の知れる苟も居住に適する世界の全部を征服せずんば満足することなかりしならん。而して天若し彼に命を借さば恐らく其の野心を遂げしならん。

〔分解法〕

**Nothing less than** は一種の強勢句にして大體の意味に影響すること少き

( 284 )

を以て之を除けば with は the conquest に連続することを知るべし。此問題は **nothing less than** の譯法と with と the conquest との連續を正當に解し得るや又 as then known を如何に解するやを試みんためなり。動詞の下に線を施したるは比較的長くして他語と混同の憂あればなり。

〔註解〕

(a) **Nothing less than.**—Nothing はマイナス less もマイナス故にプラスなりと見て此の句は殆んど only, just の如き力ありと知るべし。解釋には斯の如き簡便なる方法を用ふべし、徒らに精確を期して誤ること勿れ。

類例：—

Want of care will **not less** ruin the good man **than** the man of lax morals.—(42. 商船)

不注意は放蕩兒を亡ぼすと等しく又善良なる人を亡ぼす。

You are **no less** wise **than** he.

あなたは彼と同じく賢人。

He is **no other** man **than** Kondo.

彼は誰でもない近藤だ。

(b) **As then known.**—直譯すれば「其の時知られたる如く」なり。as は方法を示す副詞なれども、副詞として説明するは文法の範圍にして解釋には稍々手緩き感あるを以て例の便法を用ひて as を which was と見做せよ。known は known to the people なり。

( 285 )



## 省 略 法

	省 殘	省 略	
自 動 詞	補 語	自 動 詞	補 語
他 動 詞	賓 語	他 動 詞	賓 語
主 語	述 語 の 全 部	主 語	述 語 の 全 部
主 語	述 語 の 一 部	主 語	述 語 の 一 部
成 句	副 詞、副 詞 句	成 句	副 詞、副 詞 句
名 詞、代 名 詞	形 容 詞	名 詞、代 名 詞	形 容 詞

### (1)

To die as we should wish, (*to die*)

we must live as we ought, (*to live*)

【譯】 立派に死にたければ正しい生活をしなければならぬ。

#### 【分解法】

(a) To wish は次の如き一定の形式を伴ふことを知らざる可からず。

1. 成句を伴ふ。

I wish (that) you would go at once.

2. 賓語と不定詞を伴ふ。

I wish you to go at once.

3. 不定詞を伴ふ。

I wish to go at once.

(b) Ought は必ず不定詞を伴ふものとして as we should と as we ought は全然同一形式なるを以てが不定詞を伴へば wish も亦不定詞を伴ふならんと假定して可なり。如何となれば不定詞を補ふべきか、後文之に充つるに適當なる語なければ 逆に左行して動詞を尋ねよ。然らば to die, to live を得ん。分解法第九に依り他動詞は次に賓語を要求す。若し無ければ逆行して之を尋よとの規則と略ぼ一致したるを覺らん。然して省略を補ひ得たりと雖も未だ明瞭なる意味を捕捉するに困難ならん。そは as の性質に十分の理解なきに因す。斯の如き場合の as は (如くと譯す) in the way in which と註することを記憶すべし。即ち as は始の to die, live 及び補充したる to die, to live に対しても方法を示す語なることを知るべし。

#### 【註解】

(a) We should wish. — 茲の should は ought と對比せられたる點より適當 (propriety) を示すことを知らん。斯の如く形式及び意味に於て類似點若くは相異點を見出して推理法を用ふれば如何なる文章と雖も決して難解にあらざ。吾人の須らく (should) 希望すべき終焉とは立派なる終焉たるべきは論を俟たざるべし。

(b) As we ought. — Ought は道德上正しきを謂ふ。實に省略のみならず斯の如く單語の意味を取るに困難なる點より本文に類似したる文は従々試験問題となりたり。又讀者は譯文に依りて自然感得せらるべけれど、此の文を普通の直譯法に従ひて文末より文頭と廻りて譯さば極めて拙劣不自然なる和文を得ん。唯文章の意味を解釋するのみならず譯法に長ぜざれば多くの不利益あり。譯法に長ずるの一法として余の推薦せんとするは成る可く英文の順序を守ることなり。

#### 類例:—

He never does as he ought (to). (do)

あの男の仕方はいつも正當でない。

as he ought to do



She is not as she ought. (to be)

あの女は怪しからん女だ。

(2)

Many people have learned  
much of what they know from conversation.

He

that questioneth much

shall learn much

and

(shall) content much; ||

but especially

(he shall learn much)

(and)

(he shall content much)

[if he apply his questions to the skill of the persons]

whom | he asketh; ||

for

he shall give them occasion

to please themselves in speaking,

and

himself shall continually gather knowledge.

自ラ+ラ Study+ラ Learn+ラ  
【譯】人は多く己の知る事を談話より學ぶ。ペーコン曰く、「多く疑問を起す者は~~自ら~~學ぶこと多く亦對者を満足せしむること多し。然れども答ふる者の得意とする事に就きて問はゞ殊に「然らん」、蓋し問ふ者は答ふる者に愉快に談ずるの機會を與ふると同時に絶えず智識を集むればなり」。

【分解法】

(a) 第一の sentence を讀むに當り學生の大多數は known と from とを連結して「談話より知ると」譯すならん。是れ known は他動詞なるを以て賓語を要求すといふ一大原則を忘却する故なり。know, の賓語は what (=that which) 中に含まれたる which なり。故に of which they know は分離すべからざる一連の片句にして much (茲にては learned の賓語) を形容す。而して from conversation は learned に對する副詞なり。

(b) Content much の次に semicolon (;) あり故に文章は茲にて一小段落を告げたり。然るに but especially 以下は if を以て引出せる(獨立の資格なき) 附屬文なるを以て自然第一の Clause を省略したるものたるを知るべし。但し假に whom he asketh の次の句點が semicolon (;) にあらずして comma (,) ならば此の附屬文は或は以下の clause に附屬することもあらん、然れども semicolon を以て明に區劃し其の誤解を避けしめたり。殊に次の clause は for なる他の接續詞を有するに於てをや。Punctuation は斯くの如く重要なる職分を有するに拘はらず中學より大學に至るまで教師が此の點に關し學生の注意を惹くこと殆んど無きは教育上の一大欠陥なり。甚しきは教師にして全く其の智識なき者さへありと聞く奇怪ならずや。



〔註解〕

(a) **To know—from**と連用して辨別の意に用ふることあり。

類例：—

He cannot **know (see) white from black.**

彼には黑白の別が解からぬ。

It is not easy for vulgar people to **know (=distinguish) the good from the bad.**

俗人には善悪の差別はつかぬ。

(b) **Questioneth** は古き變化にて今の questions に同じ。**apply** は適用すの意なり。此の外申込むの意に用ゆること多きを記憶すべし。

類例：—

The rule does not **apply to foreigners.**

此の規則は外國人には適用せず。

The **applicant must apply to M. Kondo** in the Japan Times.

志願者はジャパントイムズ内エム、近藤に申込むべし。

He had **applied himself solely to** the investigation, and at last discovered a new fact.

彼はその調査に力を盡し遂に一新事實を發見せり。

(3)

There is no riches above a sound body,

and

(*there is*) no joy above the joy of the heart.

〔譯〕 健全なる身體に勝る財産なく、心の歡喜に及ぶ歡喜なし。

( 290 )

〔分解法〕

兩句は形式全く同一なり、一方に no.....above とありて又他方に no., .....above とあり、above の性質だに知りてあらば是以上容易なる問題を求むるも能はざらじ、長崎高等商業學校の問題は他と比較して非常に平易なり。

〔註解〕

**Above.**—上の意はやがて more than, superior to の意に轉ずることは少しく文法を知るものゝ忘れんとしても忘るゝ能はざる事なり、因に Above にて成り立つ稍々困難なる句の二三を下に掲げん。

類例：—

**Above** a hundred were present at that time.

百人以上出席しました。

He is **above** me in rank, but **below** me in years.

彼は位は私より上だが年齢は下だ。

He is **above** doing such a mean thing.

彼はそんな卑劣な事をする人間ぢやない。

He who **feels above** his work can not hope to gain confidence.

自分の業を輕蔑する人は信用を受けることは出来ない。

(4)

In England and America,

where the form of Government is questioned by

no one,

religion does not clash with progress

and

( 291 )



(religion does not clash with) liberty,

but

(religion) lives with democracy

in peace and harmony

as

becomes a faith,

whose grand precept is:

“Love ye one another.”

〔譯〕 英米に於ては何人も政體の善惡を論ずるものなければ宗教は進歩及自由と衝突することなく却つて共和主義と和合す、是ぞ「互に愛せよ」を以て大教訓となす信仰の正さに然らしむる所なる。

〔分解法〕

(a) Where, which, etc. の連結語を以て引出さるゝ成句にして Comma に打ち切られたるものは本題の如く括弧を有するものと見做して除くべし、然らば例の如く一行をおきて In England and America は religion 以下の成句に連繫することを知らべし。

(b) Lives は does not clash とは動詞なる點に於て同一形式に屬す、故に之を對立せしめ with democracy も亦 with progress と對立せしむれば lives は religion に連繫することを見ること容易なり。

(c) As は元來副詞にして接續詞として働くこと多し、此の場合は which と略ぼ力を同くし becomes の主語たり、「如く」と直譯し次に働詞の來る時は多く然りと記憶すべし、而して as (=which) は前文を先行詞となす。

〔註解〕

(a) Form. — 直譯すれば形なり、政治の形即ち政體なり。此の他 a

form of death を死に方と譯することあるは忘るべからざる一要件なり、電車に軋き殺さるゝも、病の爲めに死すも、戰場に於て殺さるゝも皆是を a form of death といふ。又 in the form (shape) of と連續して形を成して、成りて、形にて、形式にてと譯することあり。

類例：—

I do not fear death in whatever forms it may come.

私は如何なる死に方をしても恐ろしくない。

The book will be published in the form of an octavo.

其の本は八つ折本で出版される。

The flames went up to the heaven in the hope of a huge column.

火焰は巨柱の如く天に上ぼれり。

(b) Lives with democracy. — 直譯すれば平和に調和して共和主義と共に生活すなり、分解法によれば lives は反意的接續詞 (but) の下にありて clash と對立す、是に依つても lives は clash と對比せられたるものにして和合の意なることは自然に會得せらるべし、分解法の利益斯の如し、又 lives の譯語を知りて clash の譯語を知らざる場合にも此の對比に着眼すれば略ぼ其の意味を推察することを得べし。

(c) To become. — 似合ふ、相應すの意なり。

類例：—

Your manner does not become a gentleman.

君の作法は紳士には似合はない。

Everything was not left undone that seemed becoming and proper.

恰好にして適當なりと思はるゝ事は一も爲されざるものなかりき。



(5)

We are not intended entirely either for society  
or  
(we are not intended entirely) for solitude.

Both are good,

I might say

(both are) necessary.

〔譯〕 人間は全然社會生活の爲にも、又全然孤獨生活の爲にも作られたるものに非ず。兩つながら善し(否)必要なりとも言ひ得べけん。

〔分解法〕

For society と for solitude, good と necessary は皆同一形式なるを以て對立せしむれば自然此等の連繋する語句を明にするを得べし、分解法を知らざれば necessary を名詞として say の賓語の如く「必要を言ふかも知れぬ」と譯すこともあるべし、省略は一般學生の最も困難とする所なれども分解法に依れば易々たること斯の如し。

〔註解〕

(a) Society. — 學生は往々此の語に就て偏りたる觀念を懐くものあり、本來是れは群集生活の意より轉して群集生活をなす人々の意となれるなり、故に此の語は唯だ世間の人々の意にのみ用ひるものと思ふ勿れ、對語 solitude より推定するもの然るを知らん、斯の如き思想の對照に注意せざれば不覺を取ること多し。却説、此の語の意味を知りたらば次には social, sociable 等の系語に就て研究すべし。

類例：—

Man is a social being.

人間は社交的生物なり。

Generally speaking, the Japanese are not so sociable as Europeans.

概して言へば、日本人は歐洲人程交際上手でない。

We passed a sociable one hour.

我等は一時間も親しく話し合つた。

(b) I might say.— 斯の如き挿入句は必ず次の語句に關係し、論調を進むる場合に投入せらるゝ故に(否)の如き強意語を加へて譯すべし。

(6)

An apparent rise,

if (it is) obtained by evil means,

is really a fall.

〔譯〕 奸手段を用ひて昇りたるものは、昇れりと見ゆれども實は降れるなり。

〔分解法〕

此の文は單語の示す意味の範圍廣漠なるを以て實例を想起するに困難なり。

If, unless, when, though, etc. の後には主語と助動詞を略すこと多し、本文に就て言へば obtained は過去分詞なるに、過去として讀むもの多し、是れ it is が省略せされたるを知らざるに因る。

〔註解〕

Apparent. — 此語は皮相の、外見の、見せ掛けのと譯すれど動詞として見ゆると譯することを知らば十分なり、又 rise は本來抽象語なるが其の儘に譯するは不適當なることあり、然る時は具體物を隨伴せしむべし、即ち此の句は what appears to be a rise (昇りなりと見ゆる物)と譯さば意味を取るに左程困難ならず、抽象は時に具體に、具體は時に抽象に譯する工夫あるべし。



類例：—

He is **apparently** a dull boy, but his mental activity is astonishing.

彼は一見遅鈍なる小兒なれど、精神の活動力は驚くべし。

The **apparent** change in the aspect of the matter not a little confused me.

事件の局面が變つた様に見えたので私は少なからず狼狽した。

(7)

Much of the happiness (*of our lives*)

and

(*much of the*) purity of our lives

depends on our making wise choice of our

companions and friends.

If (*they<sup>o</sup> are*) badly chosen

they<sup>o</sup> will inevitably drag us down; ||

if (*they<sup>o</sup> are*) well, (*chosen*)

they<sup>o</sup> will raise us up.

[譯] 知己朋友の選擇宜しきを得れば得る程、我等は幸福且純潔なる生涯を送ることを得るなり、若し選擇を誤らば彼等は必ず我等を引き倒ぼさん、宜しければ彼等は我等を引上げん。

[分解法]

(a) Happiness と Purity とは抽象名詞たる點に於て共通なるを以て對立せしむれば of our lives は此等二語を制限する形容詞句なるを知るべし。

(b) On our making 以下は(前置詞+賓語)+(前置詞+賓語)なるのみな

らず choice は他動詞 choose の名詞形なるを以て of our companions and friends を其の賓語と見做すことを得るを以て此等二片句は引き離すこと能はざることを知るべし故に一括して underline すべし。

(c) **If badly chosen.**—If, when, while, though 等の次には主語と動詞との省略最も普通なるは屢々注意したる所なり、然れども如何なる主語を補充すべきかの疑問起らん、斯る時は次なる成句の主語を充つべし、well は badly と相對的なるを以て對立せしむれば自然 (*they are*) 及び (*chosen*) を補充すべきを知るべし。

[註解]

(a) **Purity of our lives.**—第一節の直譯は「我等の生涯の幸福と純潔の多くは我等が知己朋友を賢く選擇するかせぬかに因る」なり、「生涯の幸福」は邦語として異なる感を與へざるも「生涯の純潔」は歐文に親みなき者には了解し易からざる語法なり、晚近日本の小説其他一般文學には後者に屬する語法流行すると雖も余を以て言はしめば唯だ新規を衍ひて意味を犠牲に供せざる可らざるが如きもの多し、試験問題の答案の如きは意味の暢達を尊び譯法の新規や巧妙を重んぜざれば一見直譯と見ゆるを以て果して原意を十分に了解したるや否やを窺ふこと能はざるが如き譯法は勉めて避けざる可らず、故に日本語として奇異なる感じを與ふることもなく亦原意を餘り損傷せざらんには此等の抽象名詞を形容詞として譯するに如からざるなり。

(b) **Depends on.**—今回は depend on を譯するに全々意譯法を採れり、此の語は其の意味を捕捉すること困難なりと見え誤譯するもの多きを經驗せり、下に揚げたる Paraphrase 中 (3) は最も譯文に近し。

(1) Much of the happiness and purity of our lives depends on whether we make wise choice of our companions and friends.



(2) A happy and pure life greatly depends on one's wisdom in the choice of one's companions and friends.

(3) More wisely we chose our companions and friends, the happier and purer lives can we lead.

(8)

Much of what we suffer

we have brought on ourselves,

if

(we have not brought on ourselves)

by actual fault,

at least

(we have brought on ourselves)

by ignorance or thoughtlessness.

〔譯〕 我等の辛苦は多く、實際の過誤の爲めならずとするも少くも無智無思慮の爲めに自ら招きたるものなり。

〔分解法〕

If not は前文の省略なることは何人も知る所ならんも如何にして其の省略を補ふべきかを知らざる者十中八九なり、在來の何々公式、何々解釋法、さては何々秘訣の如き名前は實に嶄新にして大抱負を示すものも其の内容は一として、先人の糟粕を嘗むるに非ざるものなきは實に憐むべし、或る語句の前後若くは中間に斯々の省略文字ありと教ふれども、其れを見出す方法に至りては些の暗示も與ふるものなし、教師は物を教ふる機械なりと思はるゝも致し方なき事と謂つべし、if not の省略に就ては既に詳説したるを以て茲には其の大略を述べんとす。not は副詞にして動詞に従ふもの

なれば先づ have brought の直下に置いて上句全部を前後に補充すべし、而して始め not とある時には肯定文の従ふが通則なるを以て at least は恰も but at least の如く取扱ひて又 we have brought on ourselves を補充すべし。

〔註解〕

(a) What we suffer. — 是は畢竟 our suffering に等し、故に譯文には簡潔に「我等の辛苦」としたり、而して to suffer は病氣其他精神上凡ての苦痛に用ふる語なれども場合に依つては to permit の意に轉ずることあり。brought の賓語は倒置されたる Much (of what we suffer) なり

(b) If not. — 補遺として大正三年度熊本高等工業の試験問題を添へたれば自ら分解法を試みよ。

One who wishes to see the sights of London should be prepared to spend at least a week, if not a month. A week would give one time for but a brief glance at the many places of interest.

倫敦を見物しようと思ふ人は一ヶ月まで無くも一週間は費す覺悟が無ければならない、一週間では其の數多き名所を唯だ簡単に一瞥する時間しかない。

注意 For は glance を賓語とする前置詞にして目的を示す。but は only に等しき副詞なり

(9)

Education is the harmonious development of all our faculties.

It begins in the nursery,

and

(it) goes on at school.\*



but  
 (it) does not end there.<sup>o</sup>  
 It continues through life,  
 whether we will (*that it continues through life*)  
 or  
 (*whether we will not, (that it continues through life)*)  
 The only question is  
 whether what we learn in after life  
 is wisely chosen  
 or  
 (*whether what we learn in after life*)  
 (*is*) picked up haphazard.

略式分解法

Education is the harmonious development of all our  
faculties.

It begins in the nursery,  
 and  
 (*it*) goes on at school,<sup>o</sup>  
 but

(*it*) does not end there.<sup>o</sup>  
 It continues through life,  
 whether we will (*it*)  
 or

(*whether we*) will (*it*) not.

The only question is  
 whether what we learn in after life  
 is wisely chosen  
 or  
 (*whether it*)  
 (*is*) picked up haphazard.

〔譯〕 教育(の目的)は凡ての官能の調和的發達なり。  
 (教育は)先づ育児室に始まり、進みて學校に於て行はる、  
 然れども未だ是を以て終りとすべからず。教育は吾人の  
 一生を通じて繼續するものにして、檀に之を阻止すべか  
 らず。唯だ吾人か後に學ぶ所の者は選擇空しきを得る  
 か、將、偶然に拾得するか、問題なるのみ。

〔分解法〕

(a) Goes on 及び does not は begins の如く三人稱單數なることを以て  
 begins と對立せしむれば各々 It に連續するを見ん。

(b) Whether we will or not. — Will は wish の意を有し It continues  
 through life の句を賓語となすものなり故に正式分解法に於ては (*that it*  
*continues through life*) を其の後に補ひたり、然し此の補充法は稍々繁に過  
 ぐると思はゞ略式分解法に示したるごとく It continues through life の代  
 表たる it を其の賓語として補ふべし。 whether what we learn.....に於け  
 る補充法も同理なるを以て説明を略す。唯補充法を行ふに當りて or の次に  
 再び whether の來べきことは恐く學生の知らざることならん。



〔註解〕

(a) **The harmonious development.** — 此の場合の development は使役的にして「發達せしむること」の意なり、of にて連続したる名詞は二種の趣あることは第二一〇頁、註解 (b) に詳説したれど公式を以て之を示せば下の如し。

名詞 + of + 名詞 = 他動詞 + 賓語  
= 他動詞(使役的) + 賓語  
= 主語 + 自動詞

(b) **Nursery.** — 育兒室と譯すれど必ずしも特殊の設備方法を以て小兒を教育するに當てたる室の意には非ず大人の室に對して小兒の室と言はんが如き場合もあることを知らざるべからず、富裕の家にありては適當の監督者、教育者をしてその事に當らしむることあるは本邦に於けるが如し。因に小兒に教ふる唱歌、即ち幼稚園唱歌の類を nursery rhymes と稱しお伽噺を nursery tales と稱す、又此の語に關聯して記憶すべきは nurture (養ふ) 及び nutriment (滋養分)、nurse (乳母) 及び nourish (育つ) 等なり、關係語は斯の如くにして記憶するを便とす、學生は所要の一語を字書にて檢する時 derivatives (由來語) に注意すること妙きを以て語彙貧弱にして失敗を招くこと多し。

(c) **There.** — 代名詞は最近の名詞を代表することは既に卷頭なる分析法に説明したるが如し、それと同じ價値を有する there も亦然り、即ち此の場合には最近の at school を指したるものなり、故に兩語の右肩に圈點を付して目標とせよ。

(d) **Whether we will.....** Whether は必ずしも or not を伴はず、略すること多くあり、又 not には no を代用することもあり。下には will に關する必要なる句の用例を掲げたり。

類例：—

Will he, nil he, I will have it.

あの奴に否應言はせず、どうしても其れを取らなければならぬ。

He tries to have his **will** in everything.

彼は何にでも我を通さうとする。

My uncle did not **make his will**.

私の伯父は遺言狀を作らなかつた。

You can't do so **at will**.

君の勝手には出来ないよ。

(e) **In after life.** — 茲にては學校教育を修へて社會に出でたる時を謂ふ、場合に依つては「人の晩年」の意に用ふ。

類例：—

His **early life** was spent in idleness.

彼の幼時は懶怠の裏に過ぎた。

You will come to notice it **in after life**.

君は晩年に至つて其の事に氣が付くだろう。

(f) **Picked up.** — 此の語は is chosen に對し何等の考慮なく唯道路に物を拾ふが如く取るの意なり、haphazard は wisely に對す而して其の關係は交叉法なり。

wisely chosen  
picked haphazard

又 haphazard の hap は happen に似、hazard は危險と譯する語なりと解剖して記憶すれば決して忘るゝことなし、元來 hap は「幸運」の意にして hazard は語源不明なれども骰子 (dice) なりとの説有力なるが如し、hapless (幸+無=不幸) mishap (誤+出來事=災福) 等も忘るべからざる語なり。

類例：—

He was **picked up** from the street by my father.

彼は私の父が拾つて來たのです——乞食か或は捨兒なりとの意なり。

He has easily **picked up** a knowledge of English.



彼は容易に英語を拾ひ覺えにした——規則正しく學ばず折に觸れて見  
聞して習得したりとの意。

The road was bad, and I had to pick my way.

路が悪いので氣を付けて歩かなければならなかつた。

(10)

We often hear of bad weather,

but

in reality no weather is bad.

It is all delightful,

though

*(it is delightful)* in different ways.

〔譯〕我等は往々天氣悪しと言ふを聞く、然れども實  
際には悪しき天氣なし。天氣は皆愉快なり、只其の趣の  
異なるのみ。

〔分解法〕

In different ways は其の形の上より副詞句なること明なり、然れども其  
より前には對立し得べき副詞なきを以て何かの動詞に連繫すべきものと豫  
期して右方に隔離し置くべし、且 though, when, before の如き接續詞の後  
には主語と動詞とを省略する習慣あることを記憶せば自然此の句は it is all  
delightful に連繫すべきことを知るべし。

〔註解〕

To hear of.——第一行を直譯すれば悪しき天氣に就て聞くなり、恐ら  
く多數の學生は斯くの如く譯して、而かも其の何の意味なるか自ら十分に  
了解せざるべし、之を解し易き様言ひ換ふれば We often hear people  
speak of bad weather. 或は We often hear people complain of bad

weather. 即ち天氣が悪くて困るなどと人々の話し合ふを聞くの意なり。

of を伴ふ動詞の場合には注意を要す。

類例：—

Do you know of any good book for the study of Russian?

君、露西亞語研究に良い本を知りませんか。

I have heard of a burglary in this neighbourhood.

此の近所に強盜が入つたといふ話を聞きました。

(11)

The luxuries of Campania weakened Hannibal,

whom neither snows (*could vanquish*)

nor Alps could vanquish:

*(though he was)* victorious in arms,

he was conquered in pleasure.

〔譯〕雪にもアルプスにも敗北せざりしハンニバルは  
キヤムバニアの贅澤に勇氣衰へ、軍(いくさ)には勝てど  
も快樂には制服せられぬ。

〔分解法〕

(形容詞+修飾語+主語)及び(形容詞+主語)は讓歩 (concession) の意を  
示す場合と理由 (reason) を示す場合あり、此の例は前者に屬するを以て  
*(though he was)* を補ふ。

類例：—

Defeated, he did not lose the courage to try again.

敗北したれども再び試むる勇氣は失はざりき。

Defeated (= As he was defeated), he lost the courage to try again.

敗北したれば再び試むる勇氣を失ひき。



(12)

Even when (*he became*) totally blind

he kept (*himself*) constantly at work.

〔譯〕 兩眼全く盲(し)ひたりしも彼は絶えず仕事にいそしみき。

〔分解法〕

此の題は平易なるを以て分解法に依るにも及ばざれども第四頁分解法第四に依り各成句に分記すれば一層明瞭に解釋することを得べし。

〔註解〕

(a) **when.**—When, though の次には主語と動詞とを省略することは普通なり。

**Though** (*he was*) frightened at first, he soon recovered himself.

始めは驚いたが直ちに元氣を恢復した。

**When** (*I was*) a child, I used to go there with my father.

小兒の頃余は父と共に其處に行くを常とせり。

(b) **Kept.**—此の語は本來他動詞なれども自動詞として用ふことを得、初學者には解し易からざるを以て省略せられたる賓語 (*himself*) を補ひたり to keep himself は「或る状態に自己を置かしむ」の意なり。

(13)

When (*you are*) out of work,

take the first respectable job

that offers (*itself*),

heeding not the disproportion

between your faculties and your task.

( 306 )

If you put your manhood into your labor,

you will soon be given something (*which is*) better to do.

〔譯〕 職を失つた時は自分の能力と仕事の不釣合などには構はず何んでも第一に見當つた卑しくない業を取れ。一心に自分の業にいそしめば臆て其よりも善い物を與へらるゝものである。

〔分解法〕

(a) **When,** 此の語や while, though などの次には主語と動詞、助動詞を略すること多し、此の下文では下に your, you など二人稱の代名詞あれば (*you are*) を補ふべし。

(b) **That offers.**—To offer は元來他動詞なり、此の文にては賓語を略して自動詞として用ひたり、斯る場合には賓語として反射代名詞を補充すれば意味を取るに便利なることを記憶すべし。

〔註解〕

(a) **Out of work.**—仕事の外に出づるの義にして、即ち職を失ふことなり、この種の句は多くあり下の例を見よ。

類例：—

**Out of sight out of mind.**

遠ざかるものは日に疎し—目に見えぬ處に在れば自然心を離るゝ意。

He was **out of senses.**

彼は正氣を失つた。

He is now **out of employment.**

彼は今職に離れて居る—遊んでゐる。

He went **out of sight and hearing.**

彼は見えも聞こえもせぬ處へ行つてしまつた。

( 307 )



(b) **That offers.**—To offer は人に物を呈するなり、job は擬人せられて、「私をお取りになりませんか」と自らを呈供するとの意なり、the first, second 其他最上級の形容詞の次に来る関係代名詞は that なることも注意すべき事なり。

類例：—

A fair opportunity **presented itself.**

好機会が出て来た。

Vapour **forms itself** into rain.

蒸發氣は雨となる。

(c) **Manhood.**—成年期より轉して男らしきこと、大丈夫的精神、勇氣、剛毅の等の比喩的意味を生ず。

類例：—

I have not yet reached **manhood.**

私はまだ大人になりません。

It was his perfect **manhood** that had enabled Luther to oppose pope-hood.

ルーテルをして克く法王政治に反對せしめたるは彼の不撓心なりき。

(14)

The hardships or misfortunes (*which*)

we lie under

are easier to us

than

those of any other person, <sup>(which)</sup> would be, (*easy to us*)

in case (*that*)

we could change conditions with him.

( 308 )

〔譯〕 我等の經驗する艱難不幸は如何なる他人の艱難不幸よりも忍び易し、他人の艱難不幸は假りに境遇を交換し得たりとせば却て堪へ難からん。

〔分解法〕

(a) 名詞にして文頭に在るものは主語たる場合最も多きを以て The hardships or misfortunes を假りに主語と定め其れに對する Finite Verb の下に來るべきを豫期しつゝ讀めば we lie under の成句を隔て、are あり、而して under は前置詞にして次に賓語を要求すれども無きを以て misfortunes の次に其の賓語たるべき (*which*) を補ふ。

(b) Those は文頭の The hardships or misfortunes に、of any other person は we に照應し are と would be は共に to be 動詞の變體にして are は補語として easier to us を有するを以て would be にも補語として (*easy to us*) を充つべし。

(c) In case は次に that (in which とするも可) を省略す、其の效力に於ては if に似たり、此の問題は一見平易にして而かも平易ならず、語句相聯關して殆んど明確なる區切り無きが故なり、譯文と原文とを篤と對照して所謂譯法の呼吸を學ぶ可し、單だ文章の下部より上部へ廻りて例の直譯を試みたらんには殆んど何の意味なるかを知ること能はざる和文とならんのみ。

〔註解〕

**We lie under.**—under は權力 (power) を有する物の下になりて其の壓制、支配、影響等を受くるの意を示す hardships を重き荷物とせば其れを脊に負ひ其の下になりて苦痛を感じるの義なり、undergo といふ動詞の如きも go under の變體なることを記憶せば其の眞意を知るに易からん。

( 309 )



(15)

People always believe in a man (*who is*)

with a fixed purpose,

and

(*people*) will help him twice as quickly

as

(*people will help*) one

who is loosely (*attached to his occupation*)

or

(*who is*) indifferently attached to his occupation,

and

(*who is*) liable at any time to make a chance,

or

(*who is liable at any time*) to fail.

【譯】 世人は確固たる目的を有する人を信ずるを常とす、斯る者は進んで之を助け、業務に疎惰なるもの無頓着なるもの、僥倖失敗期して望む可らざるもの、如きは之を斥く。

【分解法】

(a) With a fixed purpose は意味上 believe の副詞と爲すこと能はず、故に a man より分離して (*who is*) を補ひ a man の形容詞とせば最も合理的なるを發見すべし。

(b) Will help は他動詞的に使用したる believe in と同一形式なるを以て對立せしむれば自然 People に連繫するを知るべし、是即ち同種連續なり。

(c) One と him とは代名詞たる點に於て同じ、故に兩者を對立せしむれば one は him の如くに will help に連繫せざる可らざるを教ふ。

(d) Who is to his occupation に於ける補充法は極めて明瞭なるべければ略きつ。却説 liable は如何なる語に連繫すべきか、此の問題は是に着眼したること明なり、liable to make a chance..... は occupation を制限する形容詞なるか、「職業が僥倖を得る」とは言ふ可らず、故に此の句は attached の如く亦 who is に連繫すべしと斷定せざる可らず、to fail は to make と全然同一形式なるのみ、最早説明の要なからん。

【註解】

(a) Twice as quickly as. — 此の句に就ては他の場合に詳説したれば、茲には簡単に述ぶべし、此の意は「確固たる目的を有する者は然らざる者よりも二倍の速さにて世人が救はんとす」となり、換言すれば「確固たる目的を有する者は大喜びにて進んで救へども、然らざる者は後廻しにす」との義なり、此の句に就きては「何々公式」の如き書にて十分知りたる筈なれば類例を略く。

(b) Liable. — 恰も subject, apt の如く tend to の意なり、直譯すれば「何時僥倖を得ぬとも(又何時)失敗せぬとも言ひ難き」なり。

類例:—

We are all liable to sudden death.

人間は何時急に死ぬかもしれない。

There is little liability of his having been taken as a prisoner.

彼はまさか捕虜になつたのではなからう。



(16)

In the ordinary business of life,  
 industry can do anything  
 which | genius can do,  
 and  
 (*industry can do very many things,*  
 which | it cannot (*do*))

〔譯〕 生活の普通の業務に於ては、勤勉は、天才の爲し得る事は何にても爲し得るものである。さうして、天才の爲し得ざる事を實に多く爲し得るものである。

〔分解法〕

Very many things に which の従ふ有様は anything に which の従ふに似たり、故に anything と共通の性質あるものとして對立せしめ空處に (*industry can do*) を補充すれば連繋の有様を明に知るべし、又 which it cannot と which genius can do, とは形式を同うするを以て can の次に do ある如く cannot の次にも (*do*) を補充せよ。語句平易にして註解を施すべき餘地なし、高等學校の試験は困難を以て有名なれど、斯の如く平易なり、此の試験に落第するものは餘程の低能ならざる可らず。

(17)

Books are often have been compared to friends.

But

among our living companions,  
inexorable Death often carries off  
 the best (*companions*)

( 312 )

and

(*the*) brightest. (*companions*)

交換法

Inexorable Death often carries off  
 the best (*companions*)  
 and  
 (*the*) brightest (*companions*)  
 among our living companions

In books, on the contrary,

time kills the bad, (*books*)

and

(*time*) purifies the good. (*books*)

〔譯〕 書籍は友人の如しとは古來人の屢々言ふ所。然れども無情なる死は我等の生ける伴侶の中より至善至賢なるを奪ふこと往々にしてあり。書籍にありては、之に反し。時は悪しきを葬り善しきを清む。

〔分解法〕

(a) The best 及び the brightest は同一形式に屬するを以て對立せしめ假りに (*companions*) を補へよ、又この文には倒置法を用ひたれば先づ文章組立ての定法に従ひ主なる成句を文頭に持ち來らば best, brightest が among.....companions に接近すべきを一層明瞭に知るを得べし(交換法)。

(b) The bad 及び the good は形容詞にして次に名詞を要求するを以て (a) に於けると同じく文頭にある (*books*) を補充すべし、余或時是を試験問

( 313 )



題とせしに bad, good は books に非ずして companions に關するものと誤解したるもの多かりき、是れ一旦 period にて終りたる前文中の companions を持ち來りて最近の books を忘却したるに因る、余の分解法に依りて練習すれば斯る誤解を生ぜんとし生ずる能はざるなり。参考の爲め答案の二三を示さん。

(1) 本は屢々友達と比較せらるゝものである、然し吾人の現在の友人間には死といふものは屢々其最も善き又最も光輝ある(名譽の如き)ものを吾人より奪ひ去るものである。本にあつては反對に時といふものが惡き點を葬つて其美點を明かにするものである。

〔評〕 The brightest を光輝、特に名譽と解したり、是 He is a bright boy, など云ふことあるを忘却したるに因る、單に「惡しき點」「その美點」とのみ言ひては果して書籍に關するや友人に關するや明瞭にあらず、又「點」と云へば the brightest の次に補充せらるべき語を points とせざる可らず、文章中何處より此思想を得たるか全く了解に苦む、大凡文章なるものは斯の如く勝手なる解釋を許すものに非ず、平素教師が語法の原則に注意を與へず文法は文法として單獨に教授し讀本解釋に之を應用することなき爲め學生は唯日本語を通じて原文の意味を盲目的に模索するの習慣を知らず識らず養生せらるゝ故に此の誤を生ずるなり。

(2) 吾人の現在生きて居る朋友に付いて考へて見るに其の友の死ぬと云ふことは吾人の最善、最良を奪ひ去るものなり、然るに書物に於ては之と正反對にして永久不滅のものであるから時と云ふのが即ち吾人の惡を去らしめ善を益々精良ならしむるものなり。

〔評〕「朋友に付いて考へて見るに」と譯すに至りたる原因を察するに苦む、compare は「比較」と譯すべきものなるを知らざると見ゆ。「其の友の死ぬと云ふこと」の意ならば their death とせざるべからず Death と頭文字にて書し擬人法に屬するを知らず。「永久不滅」は何處より得たる思想なるか、常識に訴へて見よ、書籍は永久不滅なりといふ論理は世界中尋ねるも見出すことを得ざるべけん、記憶せよ、單に「書籍」と言へば凡ての書籍を意味するものなるぞ凡ての書籍は永久不滅なるや!

(3) 〔前略〕けれども吾々の生きて居る友達の内には最善な而も光榮ある友達が死んで名が消へることが時々あります。これに反して書籍上に於ては、時の經つのと共に惡人の名は消へて善人の名がだんだんと聖なるのとなります。

〔評〕 假名遣や日本文の不具なるを見ても及第の資格なきものとせざる可らず、「光榮」は(1)の場合に似たり「名が消へ」と言ふを以て觀れば the best, brightest の次には names を省略したりと考へたるならん、余の分解法を知らば此の失敗なかりしに!

(4) 〔前略〕書物中ではこれに反して惡人は時によりて殺さん、さうして善良なる人は時によつてよくなる。

〔評〕 the bad, the good は人なりと誤解せり、常識に訴へよ、時の爲めに人が殺さるゝは書籍中にのみ起る現象なるや、書籍の中に之を求めずとも我等は平素親戚朋友間に於て否な大道を通行する際書籍などに上らざる平凡なる人々の葬儀を目撃するに非ずや。又生けるものゝ死ぬるは人間社會のみの現象にも非ざるにあらずや。

(5) 〔前略〕時の経過につれて讀書の修養が段々と積で來るから邪の事は擯て善良の事は益々善良となします。

〔評〕 是に至りて余は嘆じて曰く、嗚呼無責任なる教師の罪や大なり、憐むべきは赤子に等しき無邪氣なる受験者なるよ、尙ほ頗る振ひたるもの多けれど讀者を倦怠せしむる恐あれば省きつ。

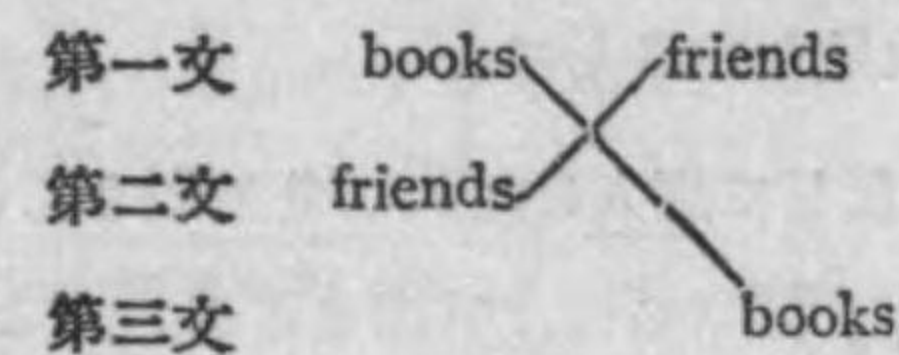
〔註解〕

(a) To compare to. — 是は to liken to の意なり、故に Books are compared to friends, を不正確なれども簡単に要領を得んには Books are like friends, に似たりと思へ、to compare with は甲乙の性質を比較して其の長短等を觀察するに用ふ、譯文を注意して讀め、原文は受働詞なるも和文は發働詞なり、且つ古來の語を添へたり、學生は原文が受身ならば譯文



も受身にすべきものと思惟するもの多し、Books.....friends の一文はこの論の冒頭に立つて introduction の用を爲す、記憶すべし、此の題は books と friends の対照なることを。

(b) **Inexorable.**—是れは In (=not)+ex (=out of)+or (=to entreat)+able (=can) にして如何に嘆願するも聴き容れざるを謂ふ、此の一文は冒頭の companions の示す如く第一文の friends を取つて説き、第三文は books に関して述ぶ、即ち交叉法なり、今下に圖解せん。



是を以て考ふるも the bad, the good が人に非ざるを知るべし。

(c) **Purifies.**—是は形容詞 pure に由来し汚物を去りて清浄にするを謂ふ、茲にては saves (救ふ)の意なり、假りに the bad を汚穢とせよ、之を除去すれば残りたるは清浄にして good なるものなり。又是を他の一面より觀察すれば the bad と the good は同一形式にして相対的なり、然らば kills と purifies とは又相対的なりとせざる可らず kill 即ち殺す、埋没すに對しては purifies を生かす、救ふとせざる可らず、「善なるものを愈々善ならしむ」の意に解したるものもあれど當らず。

(18)

Fresh air is as good for the mind  
as  
(fresh air is good) for the body.  
Nature always seems (to be) trying to talk to us  
as if she had some great secret to tell.  
And so she has (some great secret to tell.)

〔譯〕 新鮮なる空氣の精神に良しきは猶身體に好しきが如し。自然は常に、何等か大秘密の語るべきものあるが如く我等に語らんとしつゝあるが如し、然り自然は大秘密を有するなり。

〔分解法〕

(a) For the mind, for the body は形式全く同一なるを以て對立せしむれば (fresh air is good) の省略は明なり。

(b) She had, she has は時間に異る點あるのみにして又同一形式なるを以て對立せしむれば自然 (some great secret to tell) の補充せらるべきを知るべし。

〔註解〕

(a) **Secret to tell.**—是は secret to be told の意にして water to drink, something to eat, etc. と同種の形式なることは文法に於て既に學びたるべし。此の文は「自然は我等に語らんとしつゝあり、そは我等に語るべき秘密あればにやあらん」との意なり。seems trying は to be を中間に略したるものなり、近く余の著すべき文法書に就きて原理を知れ。

(b) **So she has.**—So は前文を承けて「自然は我等に語らんとしつゝあるが如く實際に」の意を示す。

類例：—

Are you a student? So I am.

君は學生ですか、さうです。

Are you a student? So am I.

君は學生ですか、私も亦さうです。

Have you done it yourself? So I have.

君が自身でさうしたのか、さうです。



To form a really exact idea of America,

one would need to live twenty years

in the country,

may

(one would need) to be an American ; ||

and

I may add that,

in my opinion,

the best books

that exist upon the different countries of the world

have been written by natives of those countries.

〔譯〕 亞米利加に就きて實際に精確なる觀念を得んには恐らく其の地に二十年の生活を必要とせん、否、亞米利加人たらんことを要せん。而して、余の考ふる所にては、世界諸國に存在する最良の書籍は其の國人の手に成りたりと附言するも敢て差支なからん。

〔分解法〕

(a) Semicolon に至るまでの一段には comma 多く文字相互の關係を知るに困難なり、to live は不定詞にして to be 亦不定詞なるを以て對立せしむれば直に如何なる部分に to be が連繫すべきやを知らん、Semicolon は一小段落なるを以て縦線にて區劃す。

(b) In my opinion は前後 comma にて打ち切りたる挿入句なれば之を除く。that exist.....the world は books に對して形容詞成句なるを以て之を除けば books と have been との連繫一目瞭然たり。

〔註解〕

(a) 不定詞。—To を有する動詞即ち Infinitives は條件を示すこと多し one will とせずして one would と條件法 (Conditional Mood) の動詞を用ひたるを以ても其を知るべし、解釋に必要な文法の智識は斯の如き點にあり、多數の學生は文字の形體には注意せず唯譯語にのみ依りて解釋せんとす、文法の根本原則は苟くも等閑にすべからず、遮莫、一方に條件法の動詞の存在する時のみ不定詞が條件を示すものなりと速量する勿れ、下に數例を擧げん。

類例：—

You are a bold fellow to say such a thing before company:

人の前でそんな事を言ふとは大膽だね。

To see him is to love him.

彼を見れば愛さざるを得ない。

(b) Semicolon 以下は (one would need) to be an American に對する説明なり、即ち最良の書籍は國人に非ずんば書くこと能はず、換言すれば外國人には出來ざる仕事なりとの意なり。Semicolon の後には此の方式を取るもの多きは既に他處に於ても述べたる所なり記憶せよ。

(20)

We all grow a little every day,

(we all grow) either (a little) better or (a little) worse.

It is well at night to ask oneself

Which (is it that I have grown?)



〔譯〕 人は皆、善かれ悪かれ、日々に僅かの變化(かはり)あるものぞ我は其の何れなりしと夜毎にこそ問へ。

〔註解〕

(a) **To grow** は生長すと譯する習慣あるを以て本文の如く關係語が他語に過ぎらるゝ時は誤り易し grow better (善くなる)、grow worse (悪くなる)と連續すべきものなり、譯文には變化の語を當てつ。

(b) **It is well.** --- 此は次に不定詞若くは成句を受けて現はるゝを常とす、何々すれば宜しの意なり。

類例 :-

**It would be well** for you to go at once (= You had better go at once.  
直ぐに行つた方が宜からう。

(c) **Which?** は嚴格に言へば? を要せず、若し疑問點を用ひんとならば w を頭文字に書するを正しとす、此の省略法は猶ほ how, when, etc. を單獨に用ひて成句の代表をなさしむるが如し。

(21)

When I hear it said

that | religion is the sworn enemy of progress,  
especially

(that | religion is the sworn enemy) of Republican  
institutions,

I turn to America

and

(I) say to myself "This is not true."

〔譯〕 宗教は進歩特に共和制には不倶戴天の敵なりと

言はるゝを聞く時余は亞米利加を顧みて私に謂へらく「是れ事實にあらず」と。

〔分解法〕

(a) Of progress 及び of (Republican) institutions は孰も(前置詞+名詞)にして同一形式なるを以て對立せしむ。

(b) Turn 及び say は共に(動詞)にして同一形式なるを以て對立せしむれば say は I に連繫すべきを知ること容易なり。

〔註解〕

(a) **I hear it said that.....** it は that religion.....institutions を代表す、此の形式の由て生じたる順序は下の如し :-

**Active:**—People say that religion is the enemy of progress.

**Passive:**—It is said that religion is the enemy of progress.

第二の形式に I hear を加ふるには it を hear の目的とす、然る時は is said は主語を失ふを以て其の形を保有する能はずして to be said に變じ、更に to be を省略するなり。

I hear it **to be said** that religion is the enemy of progress.

I hear it said that religion is the enemy of Progress.

(b) **Sworn enemy.** --- 直譯すれば「誓つたる敵」にして enemy determined not be reconciled の意なり、是と同様に a sworn friend (膠漆の交)とも言ふ、a fast friend; a bosom friend 等に似たり。

(22)

If he had lived wisely

he would have looked back with thankfulness,  
and

(he would have looked) forward with hope.



〔譯〕 若し彼が賢しき生活を爲せしならば過去を顧みては感謝し將來を望みては希望を懷きしならんに。

〔分解法〕

Forward は back (斯る場合には backward を聯想すべし) と對照し with hope は with thankfulness と同一形式なるを以て此等を對立せしむれば orward は back の如く looked に連繫することを知らるべし。

〔註解〕

Look back. — 過去は後にして未來は前なることは皆人の熟知する所ならんも、さて試験に臨みては文章その物に注意力を吸収せらるゝが故に常識は兎角に働かざることあり、類例に依りて其の活用を學べよ。

類例 :-

The incident dates far back in the sixteenth century.

其の出來事は遠く十六世紀の昔にあり。

I cannot look back upon my infancy without feeling of gratification for all that my parents did for my sake.

余が幼時を顧みれば兩親が余の爲めにせし親切の數々を感謝せざる可らず。

He has a fair prospect before him,

彼は前途有望なり。

I have been looking forwards for a better news.

今にもつと美しい報知が來るだらうと思つて待つてゐます。

He

[who is raised so much above his fellow-creatures

as

to be the object of their° terror,]

must suffer for it in losing all the comforts

of society.

He is a solitary being in the midst of crowds.

He keeps them at distance,

and

they keep him (at a distance)

Dread and affection cannot exist together.

〔譯〕 群庸の上に卓越して彼等が恐怖の目的と成りたる者は社會の凡ての愉快を失ふの不利を忍ばざるべからず。彼は草野の一喬木、彼衆生に親しまず衆生亦彼を敬遠す。畏怖と愛情とは並び立たざるなり。

〔分解法〕

(a) Who は關係代名詞なるを以て別行にし terror の次には comma ありて must と連續せざることを示すを以て must 以下を別行に移せば He は must suffer に連繫することを知らるべし。

(b) He keeps them,..... と they keep him とは全然同一の形式なるを以て對立せしむれば him には (at a distance) の從ふべきを全く機械的に知らしむ。



【注解】

(a) **So much.....as.**—As 以下は結果を示し that he has become the object.....と其の値を同じくす、自分の地位が他の同胞より上に成つて彼等に怖れらるに至りたる人はとの意。

(b) **Suffer.**—苦む、害を受く等と直譯す。it は高位に陸りて人々に怖れらるゝに至りたる事を指す。因に to suffer は恰も助動詞の如く「しむ」「許す」と譯すことを記憶すべし。此の場合には不定詞を伴ふものとす。

類例：—

We suffered the robber to run away.

賊を逃がしてしまつた。

I cannot suffer such a thing to pass without a protest.

私はかういふ事を黙つて通すことは出来ません。

(c) **A solitary being.**—直譯すれば「淋しき物」なり。多くの人々より除け物にさるゝを謂ふ。solitary は「唯一の」の意に取るべき事多し。

類例：—

I saw a solitary crow on the top of the church spire.

教會堂の尖塔の頂に一羽の鳥がゐた。

He is leading such a solitary life.

彼は實に淋しい生活をしてゐます。

(d) **He keeps them....** To keep something at a distance は常套の句にして「近づけず」の意なり。「遠方に相手を居らしむ」の意より爾く比喩的に使用するに至りたるものとす。是に似たるは keep something at arm's length なり。

類例：—

The Japanese in those days endeavored to keep all foreigners at a distance.

當時の日本人は凡て外國人を近づけざるやうに勉めた。

He has proved a hard-hearted man, and now I keep him at a respectful distance.

彼は無情な人間であるといふ事が判つたから今は敬遠してゐます。

He held me at arm's length.

彼は私を近づけなかつた—腕を伸した丈の距離以内に入れぬの意。

(24)

When in reading we meet with any maxim that may be of use

we should take it for our own,

and

(we should) make an immediate application of it,

as | we would (make an immediate application of)

the advice of a friend

whom | we have purposely consulted.

【譯】 書を読む時、有用なるべき何等かの言に遭遇せば、之を自己の所有物とし、直に之を應用すると猶ほ友人に乞ひて得たる忠告を直に應用せんと欲するが如くなるべし。

【分解法】

(a) In reading は in reading a book の省略にして副詞句なるを以て暫く之を除き主要部分に就て文字の關係を考察すべし。



(b) Make の主語は省略されたるを以て同一形式なる take の直下に置け。是と同様に would (助動詞)+of は (should) (make,.....) of it に類するを以て would を should に、二個の of を對立せしむれば自然 would の次には (make an immediate application) の省略あるを知り得べし。此の問題の難關は正に此の一點に存す。

〔註解〕

(a) For our own.—此の場合の for は as の如くに譯すべし、交換を示す前置詞なり。

類例：—

He was carried away for dead.

彼は死人として運はれてゐた。

We have engaged her for our children's nurse.

我等は彼女を小供等の乳母に傭ひました。

I was taken for a robber.

私は強盗と間違られた。

(b) Purpose.—普通「故意に」と譯す。此の場合には忠告を求めんとの目的にて求めたる忠告の意なる故「乞ひて得たる」と譯すべし。

類例：—

Though asked, I was purposely silent.

問はれたが、わざと私は黙つてゐた。

I did it on purpose to prevent the danger.

私は危険を避けやうと思つて、わざつとさうしました。

Faith and courage go together,

and

the higher the faith

the higher the courage.

Where there is courage<sup>o</sup> without a high faith,

as there often is, (*courage without a high faith*)

it<sup>o</sup> cannot survive disaster.

〔譯〕 信仰と勇氣とは並行す。信仰にして高ければ勇氣は準つて大なり。世に其の例乏しからざる如く勇氣ありて而かも高き信仰の伴ふなくんば災禍に遭ひ克く之を脱すること能はず。

〔分解法〕

as there often is は Where there is と形式を同ふするを以て對立せしむれば (*courage without a high faith*) の省略を機械的に知るべし。而して it は courage を代表するものとすべく、faith を代表するものとすべからず。是れ faith は議論上は客位にありて courage は主位にあればなり。

〔註解〕

Where は In case の意なり。初學者は where の次なる there ば不必要なりと思惟すべし。Where is courage は「何處に勇氣あるか」の疑問文を構成す。單に存在を示す場合には there の必要あることを記憶すべし。さて此の文は彼の精神一到何事不成 (Where there is a way there is a will.) を應用したるものなり。



(26)

One cannot correct one's faults  
without knowing them,  
and  
I always looked upon those  
who told me of mine as friends,  
instead of being displeased  
or  
(*instead of being*) angry,  
as people in general are too apt  
to be. (*displeased or angry*)

〔譯〕 己の過失を知らざれば其れを匡正すること能はず。而して余の過失を余に告ぐる者を余は常に朋友と思ひ、世人の動もすれば陥るが如く不快の念を懷き或は憤ることなかりき。

〔分解法〕

此の問題は比較的平凡なり。然れども、所謂公式なるものを崇拜する者の中には cannot—without を一見して直ちに「人は己の過失を訂正すれば彼等を知る」と譯するもの無きにしもあらず。是に亞ぎて多少の困難を認むるは最後の to be に對する省略ならん。文法の十分腹に無き者は friends 以下に類似的形式の存在するを容易に看取すること能はざるを以て捷徑として friends 以下を書き換ふれば下の如し。

I am not displeased or angry as people are.

( 328 )

斯の如く比較的重要ならざる in general や too apt to be の如きは之を除きて主要部分のみを對立せしむれば I am と people are とに形式の一致を認むると同時に are の次には displeased or angry の省略されたるを知るべきなり。然れども此の手数を要せずして此の省略を發見する方法あり。即ち being と to be との一致に着眼することなり。

〔註解〕

Apt の意味及譯法に就ては一三八頁、註解 (d) 及び五八九頁、註解 (a) を見よ。

(27)

To these gentlemen

I owe many a delightful hour (*that was*)  
passed in their<sup>o</sup> midst.

〔譯〕 余が幾度か共に過ぐし、愉快なる時間は此等紳士の賜物にてありき。

〔分解法〕

(a) 最も普通なれども眞意を覺るに難き語あり。名詞と動詞の接しより生じ易き誤解に付て試験す。さて to these gentlemen (前置詞+名詞)は一句をなす。故に是を I owe……より分離す。

(b) Hour の次に passed あり。故に hour を passed の主語なりと速量して「此等の紳士に私は多くを借りました。さうして彼等の真中に愉快なる一時間を過ごしました」の如くに譯するもの多し。此の譯に依れば many は名詞にして owe の賓語なり。假りに然りとすれば many にて語の中止するを覺えん。然るに其を示すべき何等の句點なし。而かも自分の便利にさうし

( 329 )



で (=and) を加へ且つ owe は現在なるに拘はらず借りましたと過去に譯するに至りては實に亂暴と言はざる可らざれども學生の多數は文法を文法として暗記するのみにして練習乏しきを以て斯る無法の譯を製造するに至る。實に氣の毒千萬なり。而かも茲に至らしむるは主として學校に於ける教授法宜しきを得ざるや論なし。to owe は二重賓語を取る動詞にして hour は直接賓語なり。

(c) Hour が賓語なるを知らば最早 passed に對する語に非ざるや言を俟たず。乃ち passed は主語を取らざる無制限動詞の一なる過去分詞にして實は前に (that was) を省略したる形容詞たるを知るべし。

【註解】

To owe. — 負債す、蒙る、歸す。

類例:—

How much do I owe you?

僕は君に何程借があるかね。

You owe me ten yen.

君は私に十圓の借がある。

I owe duty to my parents.

私は親の恩を蒙つてゐる、— 孝養の義務あり。

I owe my success to you.

私の成功は君のお蔭です。

Whether a public station be high or low,

it has its proper work,

which must be done,

most of it° (*being*) out of sight

and

(*most of it being*) little understood

by the private citizen,

but

none the less (*being*) vital to the public

【譯】 公職には、高低の論なく、必ず爲すべき固有の仕事の之に附帶するあり。而して大部分は人之を見ず。庶人之を了解すること少しと雖も而かも公益の爲に樞要なるは一なり。

【分解注】

Most of it と out of sight の間には何等の聯絡なし。故に少くも動詞が其の中間に来るべき豫想して兩者を離隔すべし。而して (little) understood を見れば by the private citizen の句に依りて understood は過去分詞にして受働詞を形成すべき動詞の一部分たること明なり。尙進んで but, none the less の如き比較的重要ならざる部分を除きて vital を見れば形容詞なるを以其れに形容せらるべき主語の存在を必要とす。今主要部分のみを順序に列記すれば



most of it

out of sight

understood (little)

vital

とならん。假りに vital を most of it に連繋せしむせしむれば most of it is vital とせざるべからず。而して此の連繋は合理的なり。換言すれば「意味をなす」なり。同様の方法を understood に應用すれば most of it is little understood となりて又合理的なり。又同様に out of sight に之を應用すれば most of it is out of sight にして又合理的なり。然れども茲に少多の疑問の生ずるなきを保せず。そは out of sight が「見えぬ所にて」と譯さるる場合多きを以て存在を示す is に連繋せんより寧ろ行爲を示す is done に連繋すべきものゝ如く見ゆる一事なり。今 the writer の心理状態を察するに out of sight は which must be done に近きを以て自然その影響を受け most of it is done out of sight の心ありたるや勿論なり。而して understood の vital に至りて漸次純然たる形容詞に變移せるものなり。然れども又一方よりはを考ふるに out of sight は見られぬことなれば unseen の一語を代用し得べし。unseen は understood の如く過去分詞なるを以て如上の感を起さしむることなからん。故に most of it is unseen と解釋するは強ち非論理的とすべからず。再び是を全體より觀察すれば most of it.....to the public interest は which must be done に依存するものなれば純粹なる成句の如く is を補充することは文法上許す可らず。故に being を代用すべし。most of it は云はゞ which の説明にして文法上同格なり。今類似の形式を示さん。

1. We have many things to do, most of us some hard work.

= We have many things to do, most of us *having* some hard work (to do).

= We have many things to do, and most of us (*have*) some hard work (to do).

2. Those things must be done, most of them soon.

= Those things must be done, most of them (*having to be done*) soon.

= Those things must be done, and most of them must be done soon.

〔註解〕

None the less——此の場合の the は so much の意にして公吏の爲す所は表に現はれずとも亦認められずとも、其れに依りて vital の程度が減 (less) する所更に無し (none) との意なり。詳細は三七八頁、註解 (c) を見よ。

(29)

Copper money exists in America ; ||

but

If | you were to offer a cent to a beggar,

he would fling it at you—

fortunately there are very few. (*beggars*)

〔譯〕 亞米利加には銅錢は無くはない。然し假りに一セントを乞食に遣つて御覧ん。(こんな物は入るもんかと)其を投げ付けるだらう、乞食は極めて少数だからいゝようなもんだが。

〔分解法〕

例に依り句點を標として各句を分離すれば few は殆んど a beggar と同じ位置に来る。a も few も同じく數を示すものなれば a beggar に對して few beggars は全然形式に於て一致す。のみならず形容詞は概して(代名詞の規則参照)最近の名詞を制限するものなれど he would fling it at you 中何れ



の代名詞にも関係せざることは few は複数なるを以て明ならん。斯くして few に次に (*beggars*) を補ふの當然なるを知るべし。

〔註解〕

(a) 本文は銅錢が亞米利加にあるといふ事實に重きを措かんため先づ平易なる is の代りに exists を用ひたり。故に譯文は二重の打消を用ゐつ。

(b) **To fling anything at.**—At は攻撃を示す動詞に伴ふこと最も普通なり。然れども此形式に依るものは An unsuccessful Attempt (不成功に終る計畫) を示すといふ説あれども必ずしも然らず成、不成は文章前後の關係に依りて生ずるものにして此の形式のみを以て其れを確定的に示すものとは爲すべからず。

類例：—

The burglar **cut at** me.

賊は私に切つて掛つて來た。

He **threw** a stone **at** me, but I was too far.

彼は私に石を投げたが、遠いので當らなかつた。

(30)

The weakest living creature,

**by concentrating his powers on a single object,**

can accomplish something ; ||

whereas

the strongest, (*living creature*)

**by dispersing his (*powers*) over many, (*objects*)**

may fail to accomplish anything.

〔譯〕 身體は如何に虛弱なりとも唯一の目的に全力を

傾注すれば多少の成功を收むることを得べし。之に反して如何に強健なりとも力を多くの物に消散すれば何事も成就すること能はざらん。

〔分解法〕

(a) By concentrating.....object は副詞的修飾語なるを以て之を除けば can accomplish の主語は creature なること明なり。

(b) Semicolon (;) にて一小段落を告ぐ、此の句點は對比を示す場合に多く用ふ。whereas (反之) は能く之を證明す。

(c) The strongest は the weakest と同一形式なるを以て對立せしむれば次に living creature を略したるを知るべし。

(d) By dispersing は by concentrating と同一形式なるを以て對立せしむれば single に對立する many の次に (*objects*) を省略したることを知るべし。

〔註解〕

(a) The weakest の前には自然強勢にて Even を生ず。the strongest 亦然り。

(b) By concentrating 及 by dispersing は殆んど if he concentrates ; if he disperses のと云ひたらんが如き力を有す。by には此の用法あることを忘るべからず。

類例：—

Do you fancy that you can succeed in your enterprise **by** merely laying out money?

君は唯金を費へば事業に成功すると思つてゐるか。

(c) **Fail.**—普通「失敗」と譯す。之を簡便に取扱ふには not と思へ即ち may fail to accomplish は may not accomplish に近し。受験者は譯語の精確を期するよりも先づ速に大意を取ること熟練せざる可らず。



If this age<sup>o</sup> be,  
 as in many respects | I think it<sup>o</sup> is,  
 the most wonderful, (*age which*)  
 (*the most*) interesting, (*age which*)  
 and  
 (*the most*) enlightened (*age which*)  
 the world has ever seen,  
 that is our good fortune,  
 (*that is*) not our own doing; |  
 it is something,  
 not to be proud of,  
 but  
 to be thankful for.

## 略式分解法

If this age be,  
 as it is,  
 the most, —, —, and — (*age which*)  
 the world has ever seen,  
 that is our good fortune,  
 (*that is*) not our own doing; |  
 it is something,

not to be proud of,

but

to be thankful for.

〔譯〕 若し現代にして——多くの點に於て余は然りと考ふ——未曾有の驚くべき、興味ある。文明の代ならば、そは天祐にして吾人自らの功に非ず、即ち誇る可きものに非ずして宜しく感謝すべきものなり。

## 〔分解法〕

(a) As.....it is.——前後 comma にて區切られたれば別行に分記す。be 及び is は不完全自動詞にして次に補足語を要す、今假りに as.....it is は括弧を有するものとして之を除けば be は直に the most wonderful, etc に連続せん。即ち後者は前者の補語たり、又略式分解法に於ては in many respects 及び I think の如き左程重要ならざる句を除きて同一形式に屬する this age be と as it is とを對立せしめたり。是に依れば此の兩者が the most wonderful etc. に連続すべきを一層明に知るを得べし。

(b) The most wonderful.....讀み來りて enlightened に至れば次は world has seen の成句なり。故に此の成句を別行に分記して seen の賓語を求むるに無し。故に關係代名詞 (*which*) の省略ありと斷定することを得。且つ、wonderful, interesting, enlightened 等は形容詞にして次に名詞を要求する性質なるを以て既出の名詞 age を次に補充す。

## 〔註解〕

(a) If.——此の接續詞を有する成句は then 及び that を以て照應すること往々あり。此の事實を記憶して兩語の右肩に×印を與ふれば混亂を豫防し得べし。斯の如き短き文章にありては此の事實を知らざるも十分明瞭



ならんも、若し文章長くして if と then, that の距離大なる時は誤解に陥り易きものなり、注意せよ。

類例：一

If they have done their work, then, it is our turn to begin.

彼等が仕事を終へたら、今度は自分等の始なる番だ。

(b) It is something. — 先づ大體より觀察すれば semicolon 以下は前句と交叉法を形づくりたるを見ん。今是を圖表せば下の如し

天祐	非人爲
勿誇	宜感謝

又文法の側より觀察すれば something to eat, nothing to do の形式に該當したり。今是を完全なる句に変更すれば下の如し。

It is something of which we ought not to be proud, but for which we ought to be thankful.

(32)

It is the reading of many books

which is necessary to make a man wise or good

but

(it is) the well-reading of a few (books)

(which is necessary to make a man wise or good)

could he be sure to have the best. (books)

And

what is twice read | is commonly better remembered

than

( 338 )

what is copied (*is well remembered*)

〔譯〕 人をして賢ならしめ善ならしむるに必要なものは多讀に非ず。若し最善なる書籍を確實に手に入るゝを得ば少數の書籍を熟讀するにあり。而して再讀したるものは書寫せるものより概して能く記憶に存す。

〔分解法〕

(a) The well-reading of a few は the reading of many books と同一形式なるを以て二者を對立せしむれば many に對する a few はあれども books の對語なきを以て a few の次に books の略されたるを知るべし。

(b) But は Coordinate Conjunction (同位接續詞)なるを以て本文外に立たしむ、而して初めに not と言ひて次に but の來る時は必ず肯定文を引き出すものなれば第三行 the well-reading の前なる空間を充たすには it is not に非ずして It is なることも容易に理解し得べし。

(c) Could he be..... は接續法に屬す。助動詞 (could) を主語 (he) の前に倒置したるものにして if he could be..... と殆んど價值を同ふす。又 the best は a few と同じく Adjective なるに其れに制限せらるべき名詞なきは省略なること明なるを以て a few の場合に於ける如く books を補充すれば意味明瞭ならん。

(d) 二個の動詞 (read is) 相連りたるを以て中間に縦線を施して區別す。試験の眼目は主して此の點にあり。

〔註解〕

It は which と相對して Emphatic Construction を成す。which の Antecedent は reading なるを以て動詞は單數 (is) なることに注意すべし。文法書には which の強勢的用法を論ずるもの少し。故に強勢法とし云へば凡て.....that なりと確信する者あり。

( 339 )



類例:—

It is not he who said so.

さう言つたのは彼ではない。

Probably nine people out of ten eat more than they need, more than is good for them. An occasional feast matters little; it is the continual daily overloading ourselves with food which is so injurious, depressing. It is easy to eat too much; there is no fear of eating too little.

—Lord Avebury: Health.

多分十中九人までが必要以上、適當以上に食物を取る、たまのお馳走は左程關はない。絶えず毎日食物を詰込み過ぎるのが害になり元氣を銷沈させるのだ。(誰でも)食ひ過ぎは容易にするものだ。食ひ不足になる心配は無いものだ。

(33)

The Egyptian reverence for the body was wiser than

the mediaeval contempt, (for the body)

and

there is no inherent virtue,

but

really the reverse, (is the case)

in rags and dirt.

〔譯〕 埃及人が身體を尊敬せしは中世紀人が之を輕蔑せしに優る、而して襤褸や垢には何等本來の美質あるなし。否事實は正に之に反す。

( 340 )

〔分属法〕 (a) The mediaeval contempt は冠詞+形容詞+各詞にして全く the Egyptian reverence と同一形式なるを以て直下に對立せしむれば contempt の次に (for the body) の來るべきを知らん。斯の如く機械的に文字相互の關係を知らしむるが分属法の特長なり。

(b) In rags and dirt が virtue に連繋するは virtue の次と reverse の次に comma ありて but.....reverse が挿入句なるを示すを以て明なれども分属法を用ひずして單に通讀ずる時は此の事實を看取すること困難なり。試に but.....reverse を dirt の次に置けば there is no inherent virtue in rags and dirt, but really the reverse. を得べし、but.....reverse は倒置法に依れるものなり。又邦語にて「然れども其の反對なり」と直譯するを以て reverse は形容詞の如く見ゆれども英文としては冠詞を取りて名詞化したるを以て之を主語となし (is the case) を補充せざれば完全なる句を成す能はず。

〔註解〕

(a) The Egyptian reverence. —是を直譯して「埃及の尊敬」とせば埃及國を尊敬するの義なるか埃及人が何物かを尊敬するの義なるか明瞭ならず for the body の一片句より推して埃及人が身體を尊敬するの義なること明けし。學生が斯る例に遭遇ふる時的確にその教れを意味するかを意識することなきもの多し。地名の形容詞は國を意味する場合と國人を意味する場合とあることを忘るべからず。mediaeval は中世紀の人々の義なり單に「中世の輕蔑」と直譯したらんには決して當れる譯とすべからず。

類例:—

The American intervention for the restoration of the world's peace proved of little service.

米國が世界の平和克復の爲めにした調停は餘り役に立たなかつた。

That is an instance of foreign contempt for the Japanese.

それは外國人が本日本人を輕蔑することの一例である。

( 341 )



(b) **Inherent.**—固有、生來、本來の意なり、形容詞として直譯するより副詞として譯するを宜しとす元より襟袂や垢に美德、美質の存することなし。否事實は之に反して害惡を有すとの義なり。因に此の語の發音はいんへれんとに非ずいんひあれんとなり。

(34)

He used to say (*that*)  
work was as much of a necessity  
as  
eating or sleeping. (*was of a necessity*)

〔譯〕 彼は言ふことを常とせり。「仕事の必要なることは猶ほ飲食睡眠の必要なるが如し」と。

〔分解法〕

(a) As much as は常用の phrase なるを以て見易からん爲め暫く無きものと假定せよ。

(b) Eating or sleeping は work と同じく名詞なり。即ち同一形式に屬するを以て其の直下に置けば次に (*was of a necessity*) を省略したるを知るべし。大凡文章は簡潔を尊ぶを以て Predicate (述語) を省略すること多し。

〔註解〕

**Of a necessity.**—猶ほ necessary と言ふが如し。of+名詞にて成る Adjective Phrase は最も普通なり。

類例：—

As regards the proposal, Mr. Kondo and I are **of a mind**.

其の提議に就ては近藤君と私とは意見が同じです。

( 342 )

(35)

He is the first to admit  
that | their° love for diamonds is as absurd  
          |  
          (*that love for diamonds is*) as costly  
He is good humoured  
and  
(*he*) says,  
“Since they° like them,  
why should they° not have them?”

〔譯〕 自分の妻子がダイヤモンドを好むのは散財でもあるし愚な事でもあると彼は認むるに躊躇しないが、然し彼は善い人間なので「妻子が好むものなら買つて遣つたつて宜いぢやないか」と言ふのである。

〔分解法〕

相關語 as—as を對立せしめ absurd, costly 共に形容詞たる點に於て同じければ亦二つを對立せしむれば省略を知ること容易なり、而して第二行の that that は異種連続に屬す。

〔註解〕

(a) **The first to admit.**—(順序數+不定詞) は成句の變形にして用途極めて廣し。the first to admit は first man that admits の略なり。

類例：—

He was the **first man to speak**.

彼が始なめに口を開いた。

He is the **last man to speak** ill of you.

彼はなかなか君の悪口を言ふやうな人ではない。

( 343 )



(b) *As absurd as Costly.*—*As.... as* は凡て甲と乙と同程度なるを示す。故に此の文に於ては金の要るといふ事と馬鹿々々しいといふ事とは同じの義にして結局金が要るから馬鹿々々しいの意となる。*costly* は *expensive* の意。

類例：—

*He is as rich as (he is) miserly.*

彼は吝嗇であるだけ金持だ。

*She is as good as beautiful.*

彼女は容貌の美しい程心が善い。

(c) *Why should.....?*—是は *Is there any reason why....should....?* の變體なり。而して *should* は *must* の如くねばならぬの意を表はす。本文を直譯すれば「何故に妻子がダイヤモンドを所有してはならぬといふ理由があるか」となる。

類例：—

*Why should I not take it home?*

其れを家宅へ持つて行つてもいちやないか。

*Why should he not do so?*

何故彼がさうして不可ないといふのですか。

(36)

We are as responsible for what we read

as

(*we are responsible*) for what we do.

[譯] 書籍の選擇は友人の選擇の如くにして重大なる義務なり。讀む物に責任あるは猶ほ行ふ事に責任あるが如し。

【分解法】

類似の形式を對立せしむれば直に省略を發見すべし。一讀直に此の省略を發見することは初學者には最難事なり。分解法に依れば是を爲すに容易且つ正確なり。

【註解】

(a) *To be responsible for.*—甲を與へて乙を取ること即ち交換の意を示す *for* が責任を示す語に伴ふは自然の道理なり。

類例：—

*You must pay for your foolery.*

君が馬鹿な事をした酬は免れない。

*He is answerable for his conduct.*

彼は自分の行爲に對して責任がある。

(b) *'as.... as.*—甲乙程度の同じきを示す。

類例：—

*I cannot run as fast as you.*

君と同じ様に早くは走れない。

(37)

The Duke of Wellington owed his victories

almost as much to his being a good man of business

as

(*the Duke of Wellington owed his victories*)

(*much to his being*) a great General

[譯] ウェリントン公の獲たる捷利は公が名將たりしに因ると殆と等しく亦公が老巧なる實務家たりしに因る。



〔分解法〕

As.....as の相關語を對立せしめ a good man と a great General の類似形式を對立せしむれば自然省略せられたる部分を知らん。

〔註解〕

(a) **To owe.**—此の語は本來負債すの義にして轉じては本文の如く to attribute の意に用ひらる。の爲めなりとすと譯さば多くの場合に適當なり。

I do not owe a sen to him.

私は彼に一錢の借財もない。

I owe him a grudge.

私は彼に怨がある。

(b) **His being.....**名動詞の前に意味に於て其の主語たるべきものを資格にして冠することは學生の知らざるべからざる規則なり。to his being a good man of business は to the fact that he was a good man of business の意なり。又劣等なる學生は a man of business にて一句を作すことに氣付かず「商賣に就て善良なる人」となどと譯すものあり。good を good-natured (善良なる)の意に譯しては道德問題なり。此の文は公の勝利の原因を述ぶること明瞭にして且つ good は great と對比してその偉大なる點に説き及びたるものなれば道德上善良なるの意に解するは常識の許さざる所なり。一般學生は斯る推理の方法に疎し、是平素下調べの際原語に譯語を當て拵むるに汲々として他に何等の思考をも用ふることなく一時の間に合はせを爲さんとする習慣の生ずる災なり。

(38)

Work is as necessary for peace of mind

as

(work is necessary) for health of body

〔譯〕 仕事か安心に必要なるは猶ほ健康に必要なるが如し。

〔分解法〕

As.....as は同等の程度を示す相關語にして第二の as 以下に来るべき主語及述語は省略せらるゝこと多し。先づ分解法第五に依り as と as とを對立せしめ for peace of mind と for health of body は全く同一形式に屬するを以て亦之を對立せしむれば自然 (work is necessary) の省略を知るべし。

〔註解〕

名詞+of+名詞にて成る句には解釋の困難なるもの或は其の意味を十分明瞭に捕捉し得ざるものあり。斯る時は of を除きて第一の名詞を第二の名詞の形容詞として考へよ。極めて明瞭に大意を捕捉することを得べし。此の例を取れば peace は恰も peaceful の始く平和なる心換言すれば安心と爲し得べし health は healthy の如く健康なる身體換言すれば健康と爲すを得べし。勿論此の方法は原文の意味と徹頭徹尾一致せる譯語を生ずるものには非ざれども簡易に大意を知るには極めて便利なり。試験に應ずる者は短時間に答案を認めざる可らざれば精密、正確を期せんより速に大意を捕捉することを心懸くべし。是れ成功の一大秘訣なり。



He (Jonathan) admires talent,  
because it is a paying commodity.  
A literary or artistic success is only a success,

in his eyes,

on condition that

it is a monetary one as well.

(as)

(it is a literary or artistic one.)

〔譯〕 米國人が才能を賞讃するは是を以て利益ある物品となすが故なり。文學的若くは藝術的成功は彼の觀る所を以てすれば、又金錢上の成功てふ條件を以て唯だ之を成功とするなり。

〔分解法〕

分解法第五に依り as well は一方に又 as ありて照應するものなるを以て (as) を補ふと同時に a monetary one の對句なる (a literary or artistic one) と (it is) とを補へば省略句なる as well の性質を極めて明瞭に知ることを得。

〔註解〕

(a) Paying.—此の語は本來「仕拂ふ」の意なるが轉じて「仕拂が出来る」即ち「儲かる」の意に用ふること多し。而して此の後半の成句「才能は利益ある物貨なり」は一見一般の真理の如く聞こゆれども、茲には米國人には爾く考へらるゝなりとの意なり。假りに commodity の次に for him を補充して見よ。斯の如く一見一般の場合を説くが如くにして

而かも個人、個物的なる叙事法の存することを記憶すべし。又 to pay off と連用して「給料を拂つて解雇す」の意に用ふることあるを記憶すべし。

類例：—

Does your business pay well?

君の商賣は利益があるか。

It will never pay, if I sell this at less than ten yen.

是を十圓以下で賣つては引き合はない。

As soon as the ship reached her destination, all the foreign hands were paid off.

船が目的地に達すると直ぐ外國人の船員は給料を貰つて解雇された。

(b) In his eyes.—直譯すれば「彼の眼に於ては」なり、眼中の意と思ふなかれ。この外 to keep eyes on (に注意する、眼を付ける) も宜しく記憶すべき句なり。又 to set eyes on は略ぼ to see に同じ。

類例：—

I have found favour in his eyes.

私は彼に好かれた。

The king was, in the eyes of the nation, but a puppet.

王は國民より之を觀れば、傀儡に過ぎなかつた。

The police keep eyes on him as a dangerous anarchist.

警察では彼を危険なる無政府主義者として目を付けてゐる。

I have never set eyes on him.

私はあの人を見たことはありません。

(c) On condition that.—是は略ぼ if に同じく provided (that) に似たり。



類例：—

I promised him the service **on condition that** he would pay me a hundred yen,

私は百圓貰ふといふ條件で彼にその仕事をしてやると約束した。

The first thing for a boy to learn after obedience and morality, is a habit of observation—a habit of using his eyes. **It matters little** what you use them on, **provided** you do use them.—[43. 熊、工、]

柔順と徳行に次ぎて少年の第一に學ぶべきは觀察の習慣、即ち、眼を使用する習慣なり。(而して)唯、之を使用すれば其の何物に使用するかは多く關する所に非ず。

(d) **A momentary one.**—one が代名詞なるは a を冠したるにても知り得べし、逆に左行して誤當する名詞を求めば第一の成句中に a success なる單數名詞を見出さん。即ち one は success の重用を避くるために使用したるものなるを知る。

(e) **As well.**—此の句は分解法にて既に述べたる如く次には省略の句あれども往々此のまゝにて用ひらる、然る時は解釋に困難を感じる者多からん。余が補充法を知らば如何なる場合に於ても決して其の意味を取り違ふことなしと余は斷言す。簡短に譯すれば亦或は又なり。場合に依りては單にもと譯して可なり。全文を直譯すれば「其れ(成功)が文學的若くは藝術的成功であると等しく (as well as) 金錢上の成功であるならば (on condition that) 彼の觀る所にては (in his eyes) 云々」なり。又是に類せるは **as much** (同じ程)なり。例に就て研究せよ。

類例：—

He is an excellent soldier, but he is a great politician **as well.**

彼は立派な軍人であるが又大政事家だ。

I like you, but him **as well.**

君も好きだが又彼も好きだ。

You might go **as well.**

行つても好い、—行かなくても好い。

I know **as much.**

その位な事なら知つてゐら。

He intended to keep it secret from me, but I perceived **as much.**

彼は其れを私に秘せんとしたが私はそれと感付いた。

(40)

Death<sup>o</sup> is **at all times** solemn,

but

(*death is*) never **so much** (*solemn*)

as

(*death is*) (*solemn*) at sea ; ||

and

the effects of it<sup>o</sup> remains upon the crew

for some time.

〔譯〕 死は常に嚴かなり。殊に海に於て然りとす。其の印象は良久しく船員の腦裡に残存す。

〔分解法〕

So much as は相關語なるを以て對立せしめ as は成句の前に立つ接續副詞なるを以て at sea を云はば本文の埒外に置き空處に上なる語を充つれば自然省略の存する處を知るべし。此の問題は此の一點に着眼したり。it は最近の名詞 sea を代表するか或は Death を代表するか? at sea の次に



は semicolon ありて大なる区切を示すのみならず副詞句にして文章の主語となるべき資格なし。故に it は Death を代表するものと斷定せざる可らず。

〔註解〕

**Effect.**—是は原因 (cause) に対する結果なり。故に場合に依りては影響、效驗、力、印象、感動と譯すべし殊に最後の一つは普通字書になき譯語なれども其の意味を取るに便利なることを保證す。動詞の場合には成就、起す、生ず、等と譯すべし。

類例：—

The music had a great **effect** upon the audience.

其の音楽は聴衆に大なる感動を與へた。

A great change has been **effected**.

大變化が生じた。

The medicine **took effect** and the patient rocovered much of his former spirits.

薬が利いて患者は大分元氣を恢復した。

(41)

A light stomach,

moreover,

makes a light heart,

High feeding means low spirits,

and

many people suffer as much from

dyspepsia

( 352 )

as

(many people suffer much) from  
all other ailments (that have been)  
put together.

〔譯〕 胃輕ければ氣輕し。膏粱は元氣を沮喪す。胃病に苦むこと總ての他の病氣に苦むが如く屢々なる人多し。

〔分解法〕

(a) Moreover は前後 comma にて区切りたれば挿入語なり。故に別行に分記せば A light stomach は makes に連続すべきを一目して知るを得。

(b) As much from.—As much は dyspepsia の次なる as と相關的に程度を示す接續副詞なるを以て as を as much の直下に置き、二個の from を對立せしむれば第二の from は suffer に連繫すべきを知ること容易なり。

(c) All other ailments.—Ailments は前置詞 from の賓語なるを以て put の主語とすべからず。故に行を改めて、それに対する主語の何處にか存在すべきを示すべし。而して徐ろに第二の句たる many people 以下を觀察するに people は suffer の主語 dyspepsia は from の賓語 ailment も亦第二の from の賓語たれば、一も put の主語とすべき語なし。是に於て ailments と put との中間に省略の存するを確知するを得。即ち put は受働詞を形づくる過去分詞にして補充したる (that have been) と共に ailments の形容詞句を構成することを知るなり。

〔註解〕

(a) **Makes.**—此の文は總て平行法に依れり。

stomach	heart
feeding	spirits
	———
dyspepsia	ailments

( 353 )



名詞が平行的に排列せられ、第一文は總論的にして第二文は其の説明なり。論文は概して此の形式を探ることを記憶せよ。却説、斯の如く名詞が平行的に排列されたる如く動詞にも亦類似の點を認むべし。即ち makes は means に對するものにして二者殆んど同意義たるべきは名詞の類似點より類推すること容易ならん。受験者は唯一にても知らざる單語に逢へばそれに屈托して精神の平靜を失ひ終に失敗を招くもの多し。一方に於て不明なる思想は他方に於て説明せらるゝこと多きを記憶せば普通の試験問題に對して失錯すること萬々なかるべしと信ず。次に此の語には become に似たる意味あることを忘るべからず、下の例に見よ。

類例：—

Long meals **make** short lives—*Lord Avebury.*

過食は壽命を縮む。

Two and two **make** (or makes) four.

二と二とは四となる。

He will **make** a good scholar.

彼は良い學者になる。

(b) **High feeding.**—A light stomach の light に對し high には heavy の意あることを想像すべし。然れども不味き物は多く食すること能はざるのみならず high には elaborate の義ありて濃厚にして滋養に富めるの意も自然含蓄することを考へざるべからず。此の兩意を表す邦語を求むるは困難なるを以て假令 膏粱を以てせり。下には to feed の類例を掲げたり。

類例：—

Those servants of his are not well **fed**.

あの家では召使に疎な物は食はせない。

The lamp is **fed** with kerosene oil.

そのランプは石油を用ふるのだ。

I came across a group of wild elephants **feeding** peacefully.

私は一群の象が靜に餌を食つてゐる處に出會ひました。

(c) **Low spirits.**—Spirits は「元氣」の意なる時は必ず複數にす。此の語には普通 high, low, good 等の形容詞を用ふるなり。又此等形容詞が名詞と分離する場合にも應用し得るやう注意を要す。

類例：—

Our troops were **in high spirits**.

我軍は士氣旺盛であつた。

The **spirits** of our troops were despairingly **low**.—分離の例。

我軍の士氣は失望する程衰へてゐた。

I had never been **in better spirits**.

私は其れ程元氣なことは前になかつた。

You were **in the best of spirits** then.—分離の例。

君は其時は非常に元氣であつた。

(d) **Allment.**—此の語は讀本中に見出さること少き故記憶し易からざれども最も必要なり。而して動詞 ail は自他共に用ひらる。To put together は「共に置く」より「集む」の意に轉ず。

類例：—

What **ails** you?

君どこか不快か。

I wonder what **ails** the machine. It does not work well.

この機械は何處が悪いのかしら、よく動かない。



America is not the only country  
 where man is devoted to woman  
 and  
 (where man is) ready to satisfy all her caprices.  
 The Frenchman is as keenly alive to her influences  
 |  
 as  
 the American (is keenly alive to her influences)  
 if  
 (the Frenchman is) not more (keenly alive to her in-  
 fluences) |  
 than  
 (the American is keenly alive to her influences.)

〔譯〕 男子が女子を愛し、驕肆なる女子の意を迎ふるに汲々たるは、獨り亞米利加に止まらず。佛蘭西人の女子の勢力に對する敏感は縦ひ米國人以上に非ずとするも等しとは謂ふべし。

## 〔分解法〕

(a) Devoted は過去分詞にして形容詞として働くものなれば次に來る形容詞 ready を同一形式として其の直下に對立せしめ (where man is) を空所に補へば ready は is に連繫して man を制限する形容詞なることを明に知るべし。

(b) 第二文は第一に the Frenchman 第二に the American なるを以て if の次に補充するものも同様の順序を以て第二 (the Frenchman) 第二に (the American) とし as.....as は比較を示す相關語にして keenly の前に

在るを以て、同様に比較を示す more の次に (is keenly alive to her influences) を補充すると同時に more の相關語 (than) をその直下に立たしめて既に補充したる (the American) には再び (is keenly alive to her influences) を補充すれば if not more を解するに些の困難を見ることなかるべし。

## 〔分解法〕

(a) To be devoted to. — 此の語は de+votum に由來し votum は to vow (誓ふ) の意なり。投票を vote と言ふも是より起りたるものなり。故に廣く或る物に心を寄す、専用す、奉事す、の意に用ひらる。

## 類例：—

I cannot devote much time to my study.

私は勉強に多くの時間を用ふることが出来ません。

(b) Ready. — 用意す、吝ならず、進んでなす、躊躇せずと譯すべし。用意したるものは直に間に合ふの義より如上の意を生ずるなり。此の他の例は五五四頁、註解 (c) を見よ。caprices は我儘勝手なり。此の文は左程難解に非ざるを以て自由なる意譯を試みたり。讀者之を諒せよ。

(c) Alive to. — Alive は生きて居るの意より鋭敏に物を感じの意に轉ぜり。

## 類例：—

He is alive to his own interests.

彼は自分の利害には敏い人間だ。

He avoided her company, well alive to the danger of being thus tempted into the abyss of ruin.

その男が彼女との交際を避けたのはさうして終に滅亡の淵に引き込まれる危険を能く知つてゐたからだ。

(d) If not more. — 斯る省略文に用せられたる 並は往々にして此の場合の如く略ぼ though に等しき意を有することを記憶すべし。



類例：—

He is learned, **if not good.**

彼は善人ではないにしても學問はある。

(43)

As a mere question of getting on in the world

character (*will do more for a man*)

and

steadiness will do more for a man

|  
than

cleverness (*will do much for a man*)

〔譯〕 唯に人生に於ける成功の問題とするも人格と堅忍とは才智よりも其の効大なり。

〔分解法〕

(a) Character と steadiness とは別々に will do に關係すると見んより寧ろ一個のものとするが此の場合に適當なるが如けれども will do..... の連繋する順序を明にせんため對立せしめたり。

(b) Cleverness の補充を見て愈々分解法の效力を知りぬべし。

〔註解〕

(a) **To get on in the world.**—To get on は「漸々地歩を得る」の意なるを以て「成功」の意を生ずることは四五七頁、註解(a)に詳説したり。

(b) **To do.**—爲すは働く、辨ず、用立つと轉ず類例に依りて用法を覺れよ。

類例：—

My fountain-pen, though cheap, **does very well.**

( 358 )

私の萬年筆は安いが上等に使へます。

A cup of soda and brandy will **do** wonderfully for thirst.

渴いた時はソーダ水にブランデーを飲むと非常によく利く。

(44)

The vast majority of men

are required to discharge the homely duties of life ; ||

and

they have less need of genius

|  
than

(*they have much need*) of industry

and

(*they have much need of*) enterprise.

〔譯〕 大多數の人は生活の平凡なる義務を盡せば足る、故に天才は左程必要にあらざる勤勉と企業心とを多く要するなり。

〔分解法〕

此の文は極めて平易なり、唯 than 以下の省略を能く解し得るやを驗せんとするなり、斯るものは余が分解法に遣へば何等の考慮を要せずして明なり、實に朝飯前の仕事なるのみ、即ち less と than とは比較なるを以て對立せしめ of genius と of industry and enterprise を對立せしむれば後句の前部空なるを以て直に (*They have much need*) の省略を見ることを得るなり。註解の必要なし。

( 359 )



What it is  
 that constitutes the look of a gentleman  
 is more easily felt  
 than  
 (it is) described.

We all know it  
 when we see it ; ||  
 but  
 we do not know

how to account for it,  
 or  
 (how) to explain  
in what it consists.

〔譯〕 紳士の容姿たるものは何なるかは感ずるに易く述ぶるに難し、我等は皆一見其の何たるかを知ると雖も其の理由を述べ或は其の何物に存するかを説明することは能くせざるなり。

## 〔分解法〕

(a) That constitutes より a gentleman まで一成句を成すこと明なり、故に其の全部を別行に移せば it と that と相對して it は that 以下の成句を豫め代表するものなること明ならん。

(b) Described は過去分詞にして felt と同一形なるを以て對立せしめ

What it is.....a gentleman を代表する it と felt に附屬したる is とを空所に補ふべし。

(c) We all know it 以下は第一文の説明に過ぎず、即ち平行法を以て第一文の意義を敷衍したり、今是を圖にて示せば下の如し

felt	described
see	{ account
	{ explain

## 〔註解〕

(a) Account for. — 此の語は必ず for を取る、此の場合の for は方向を示すものなるが交換を示すものとするもよし、count (計算)は物品を購ひて代金を計算するの意より起れるものなればなり、故に「説明」の外に「責任」の意に用ふることあるなり。

## 類例：—

You ought to **account for** the loss you have incurred.

君は自分の招いた損失に對して賠償の義務がある。

You are **responsible for** your conduct.

君は自分の行爲に對して責任がある。

You see me sixteen years older,

at the least,

than

(you saw me old)

when | I saw you last ; ||

but



the effects of time seem to have taken place  
rather on the outside of my head\*  
|  
than

(the effects of time seem to have taken place)

within it.

What was black is become white,

but

what was foolish remains foolish still.

〔譯〕 今御覽になると御別れ申した時より少くとも十六位は年を取つて見えませう、然し時の影響は寧ろ私の頭の外に及んで内には左程及ばなかつたやうです。前に黒かつたものが白く成つてゐますが、前に馬鹿だつたものは依然として馬鹿です。

〔分解法〕

第一句は事實と時間との比較なるを以て than の次に (you saw me old) を補へば完全なる比較を形成す、然し文意明瞭なる時は斯の如き補充法を行ふに及ばず、第二句の rather than の次なる補充に於ても同理なり。

〔註解〕

(a) I saw you last. — 是は最も普通の文句にして直譯すれば「私が貴下に最後に面會した」なり、是に似たる句にて to see the last of あり混同すべからず。

類例：—

He was very pale when I saw him last. (=the last time)

此の前會つた時は彼の人は大變蒼かつた。

I thought that I saw the last of him, but two years later I met him again.

私は其れが見納めだと思ひましたが二年の後に又あの男に會ひました。

I had then an interview with him, and it was my last.

私は其の時彼と會見しました、其れが最後の會見でした。

(b) To have taken place. — To take place は to happen, occur と同義に用ふること多し、此の一行を直譯すれば「時の働きは寧ろ私の頭の外部に起りたり」なり、effects は普通効果と譯すれど此の場合は働き、影響とすべし、再び to take place と to take (the) place of とを混同する勿れ。

類例：—

Inform where the auction takes place, and oblige.

競賣は何處にて行はれ候哉何卒御知らせ下され度候。

I have taken his place during his absence.

あの人の留守中私が代理をした。

(c) What was black. — What は that which に等しきことは知れるなるべし、此の場合その that は何を指すか？ 前句に暗示したる頭の外部にある黒き物即ち毛髪なり、屢々注意せし如く一方に不明なる點ある時は他方に其の説明を與ふること多し、若し within it の意味は一時は不明なりしとするも what was foolish..... の一句を讀むに當りては釋然了解すべきなり、此場合の照應は平行法なり、問題の主眼は全く此の一點に在り。



# 説 明 法

## 同 格 法

□ = □ = □

總稱的叙述

決論的叙述

□

特稱的叙述

例稱的叙述

□

□

□

特稱的叙述

例稱的叙述

□

□

□

總稱的叙述

決論的叙述

□

( 1 )

The greatest conquerors,

Alexander and Napoleon for instance,

were never contented.

(A) Victims of misplaced ambition,

they could not rest

and

(they could not) be thankful.

(B) They,

victims of misplaced ambition,

could not rest

and

(could not) be thankful.

〔譯〕 例へばアレキサンダー及びナポレオンの如き最大勝利者は決して満足することなかりき。彼等は誤れる野心の犠牲となりて(所謂)「安心し感謝する」こと能はざりしなり。

〔分解法〕 此の問題は Victims と they との同格的用法に困難あり。

(a) Alexander.....instance は comma を以て打ち切りたれば挿入句なるを以て除けば were の主語が conquerors なるを知ると同時に Alexander, Napoleon は conquerors と同格にして間接に were の主語なるを知らん。

(b) Be thankful は rest と同じく could not に連繫すべきものなるは



分解法に依らずとも明けし、唯、Victims of misplaced ambitionとtheyとが如何なる文法的關係を有するかを知らざる可からず、實は此の句は Victims の前に Being を略したるものにして they に對する形容詞句なるも、斯る形式に遭遇したる時は (B) の如く次の主語と此の種の句との位置を轉換せよ。然らば此の句は主語と同格的位置にありて主語の説明語たるを容易に知るべし。たとへ Being の省略には心付かざるとも此の轉換法をだに知らば十分解釋し得るものなり。

〔註解〕

(a) (Being) victims of..... 既に分解法の部に於て述べたる如く此の句は they に對する説明なるを以て直譯は「誤りたる野心の犠牲たりしかば」とすべし、是を以て知る、分詞句は往々理由、原因を示すことを、尙下の例に依りて其の應用と譯法とを學ぶべし。

解例：—

Being an experienced man of business, he was shrewd enough to know where his advantage was.

彼は經驗ある實業家なりしかば抜目なく自己の利益の存する所を感知せり。

Defeated, he did not know what to do.

彼は失敗して途方に暮れた。

参照。

(Being) defeated, he did not know what to do.

As he was defeated, he did not know what to do.

He was defeated, and did not know what to do.

(b) "Rest and be thankful." 此の句に Quotation Marks あるは世人の屢々言ふ所なるを以てなり、「徒に煩悶せず心を安んじて神に感謝せよ」の意なり、斯の如く引用點を有するものには所謂なる邦語を充つる時は能く其の精神を發揮することあるを記憶すべし。又著者の經驗に依れば

學生中には斯の如き引用點間の句は凡ての名詞なりと想像するものあり、下の譯文は此種に屬すること明なり。

「彼等は休息と感謝である」事が出来なかつた

此の譯文を以て觀れば譯者は could は助動詞にして次には本動詞を必ず要求することを忘却したるなり、rest を休息と名詞に譯することは到底不可能なるなり、余が文法の根本原則を知らざる可らずと主張するは是を謂ふなり。

(2)

The American authors,

most of them,

only take up the pen at odd hours.

Business first.

Mark Twain is a publisher;

O. W. Holmes is a doctor;

E. C. Stedman is a stockbroker;

R. Ingersoll, (*is*) an advocate;

G. Cable, (*is*) a public lecturer;

and

J. R. Lowell is a diplomatist.

The rest are journalists,

There are few, indeed,

who live by book-writing.

〔譯〕 亞米利加の著者は大概餘暇に筆を執るばかりで



ある。商賣が肝心だからね。トエインは出版業者である、ホームズは御醫者サンである、ステッドマンは株式仲買人である、インガソウルは辯護士、ケーブルは公演者、ロウエルは外交家、其の他は新聞雑誌記者である、實際著述で生活してゐる者は少ない。

〔分解法〕

構文平易なれども句點多くして讀み難し、殊に數多の人名を列擧したるを以て「Ingersoll 及 Cable に対する動詞の省略に心付かず Ingersoll や advocate や Cable や a public lecturer やがある」と一種新發明の譯法を爲すもの無きにしもあらず、苟も句讀法を知る者は決して斯の如き誤譯に陥ることなし、然れども中學に於ける今日の英語教授法は不完全なるを以て句點の名稱すら知らざる者多し、假令、句讀法を知らざるも余が分解法に知らば斯る場合に決して誤るの憂なきを保證す。

〔註解〕

(a) **Most of them.**——亞米利加の著者と云へば總てを含むべし故に括弧的に大概と加へたるまでなり、故に殆んど Most of the American authors に等し、是に類せるは主語と同格的に用ふる all, both, each の如き代名詞なり、今その例を下に擧げん。

The boys had **each** a gun.

小供は各々一挺の鐵砲を持つてゐた。

The travellers were **most of them** killed by the savages.

旅人は多く蠻人の手に懸つて殺された。

(b) **To take up.**——下に在るものを取る意を源として仕事などを始むの意にも用ふ。

類例：—

We are ready to **take up arms** against tyranny.

吾人は惡政に對して干戈を取るに躊躇せず。

When did you **take up** the study of English?

君何時英語の勉強を始めたか。

(c) **At odd hours.**——Odd は奇偶の奇にして割り切れぬ意より端(はした)の意を生ぜり、此の他奇異なるの意に用ふること普通なり、下には odd より成る最も必要なる句を例示せり。

類例：—

The poor boy used every **odd hour** in learning Greek.

憐むべきこの小兒は凡ての端の時間を利用して希臘語を習ひき。

The rogues were **at odds** about their share of the spoil.

惡漢は分捕品の分配で争つた。

How can we fight **at such odds**?

こんな不利益の地位にあつて何うして戦争が出来るものか。

There is no hope of winning **against such odds**.

敵は斯くの如く多勢なれば勝つ望なし。

**The odds and ends** of the vegetables are given to the pigs.

野菜物の切れ端は豚にやる。

He made a success out of the **odds and ends** of opportunity.

僅かばかりの機會を利用して彼は成切した。

(d) **Business first.**——此の句は歐米人が殆んど俚諺の如くに普通用ふる言葉にして、簡潔なる此の記法に千鈞の重みあり、詳言すれば "Do your business first" is, you know, their motto. なり、斯る省略法は多くの經驗なき者には解釋するに困難なり。



(3)

We are more cheerful,  
 (we are) younger,  
 and  
 (we are) better tempered; ||  
 most of us,  
 the more  
 we live out of doors,  
 (we) eat, (without thinking of it)  
 and  
 (we) drink without thinking of it,  
 and  
 (we) give the brain° no more than its' fair  
 share of work to do.

This is the attitude of the English man toward life.

[譯] 我等の多くは戶外生活をする程、無頓着に飲食する程、さうして又頭腦には適量以上の仕事を課することなければ益々快活に若々し、濃厚になるものである。

[分解法] 此が英國人々一生に於ける仕方である。

(a) Younger, better tempered は more cheerful と全く同一形式に屬するを以て對立せしむれば三個の形容詞が We are に連繫すること自然明らる。即ち同種連続なり。

(b) Without thinking of it は eat and drink に關するものなれば常識に訴へて明なるのみならず out of doors が live に對する副詞なると同じく此

(370)

句が eat and drink に對する副詞なるは兩句對立上の位置よりも察することを得べし。

[註解]

(a) More cheerful.—是と相關的なるは the more なり。此の形式は兩方に the を冠するが普通なるが此の例の如く一方には冠せざることあり。

類例：—

The more we learn, the more we want to know.

我等は學べば學ぶ程智識を求む。

(b) Most of us.—此の句は殆んど註釋的に挿入したるものにして We と同格とすべし。試験の目的の半以上は此の句に存す。semicolon の後でありて上句とは何等の關係なきが如くに見ゆる處に困難あり。semicolon を使用したる理由は cheerful, younger を comma にて區分したれば better tempered にはより大なる區劃を與へざる可らざる故なり。假りに younger, better tempered を除きて見よ相互の關係を知ること易からん。即ち

We are more cheerful, most of us,  
 |  
 the more

we live out of doors,

類例：—

We, most of us, do nothing but eat and sleep.

我等は大概元の食つて寝るより外に何もしない。

Let us, you and me, do so at once.

二人で—君と僕とで—直ぐにさうしよう。

(c) Without thinking of it.—It は分解法に詳説したる如く eating + drinking を指す。無頓着に飲食すとは物に氣を懸けず無神經的に飲食することの謂なり。其の物は毒になるか藥になるかと一々考へて飲食する如きは有害なりとの意なり。

(371)







so many books as we have, but what they had they made a grand use of. (= but they made a grand use of what they had.)

[大正三、東、農、大、]

十六、十七世紀の大學者は今日の如くに多くの書籍を有することは無かつた。然し彼等の所有せる書籍は皆立派に利用した。

(5)

Enthusiasm no doubt is one of the levers

which move the world,

but

it is sad to reflect

how much time and money have been

wasted on vain experiments—

(wasted) on experiments

which have failed over and over again

before,

and

which have been worse

than

useless,

because | they have done harm instead of good

to those for whose benefit | they were intended.

(374)

### 略式分解法

Enthusiasm is one of the levers which.....,

but

it is sad to reflect

how much.....on vain experiments—

on experiments which .....,

and

which .....,

because

they have done harm instead of good .....,

[譯] 熱心は世界を動かす桿(てこ)の一なるは疑ふべからず。然れども無益なる實驗——既に幾度か失敗し。益せんとしたる人々に益を與ふることなく却つて害を與へたるを以て觀れば無用と言はんより尙惡しき結果を生じたる實驗に——浪費したる時間と害との如何ばかり大なるかを考ふれば悲し。

[分解法]

(a) 略式分解は正式分解に馴れたる後行ふべし。又此の法に習熟すれば一々原文を書き換へずとも語句の關係を一目して看取するに至るべし。或は少くも問題に直接括弧、直線、圈點を施して解釋に便すべし。今其一例を示さん。

Enthusiasm no doubt is one of the levers which

(375)



moves the world, but it is sad to reflect how much time  
 and money | have been wasted | on vain experiments  
 —on experiments° which have failed | over and over  
 again before, | and which have been worse than use-  
 less, || because they° have done harm | instead of  
 good | to those for whose benefit | they° were intended

(b) On experiments.—Dash は斯の如く同じ語句を繰返して説明を興  
 ふる時に用ひらる。既に無益 (vain) と云へば第二の experiments も其の意  
 なるや明けし。又 which.....before は experiments の形容詞たると同じく  
 同一形式有をする which.....useless も亦 experiments の形容詞たることを  
 知るべし。because 以下の文は worse than useless に對する理由を興ふ。

〔註解〕

(a) Wasted on.—費用を示す語は前置詞 on, upon を取る。

類例：—

I have spent a large sum of money upon my son.

私は子息に大金を掛けた。

(b) Instead of.—普通の代りにと譯す、場合に依りて without, but not  
 如く譯するを便利とす。

Public business—

Committees,  
 Elections,  
 Meetings,  
 Speeches,  
 Vestries,  
 Coutry Councils—

these are not very romantic ; ||  
 they do not dazzle the imagination,

(or)

(they do not) stir the blood,

and yet

a vote in peace is like a stroke in battle,

and

(a vote in <sup>peace</sup> ~~face~~ is) none the less effective

because

it is peaceful and bloodless.

〔譯〕 委員會、選舉、會合、演舌、教區會、郡會の如  
 き公務は極めて浪漫的に非ず。此等は想像力を眩惑るこ  
 ともなく熱血を攪亂することもなし。然れども平時の一

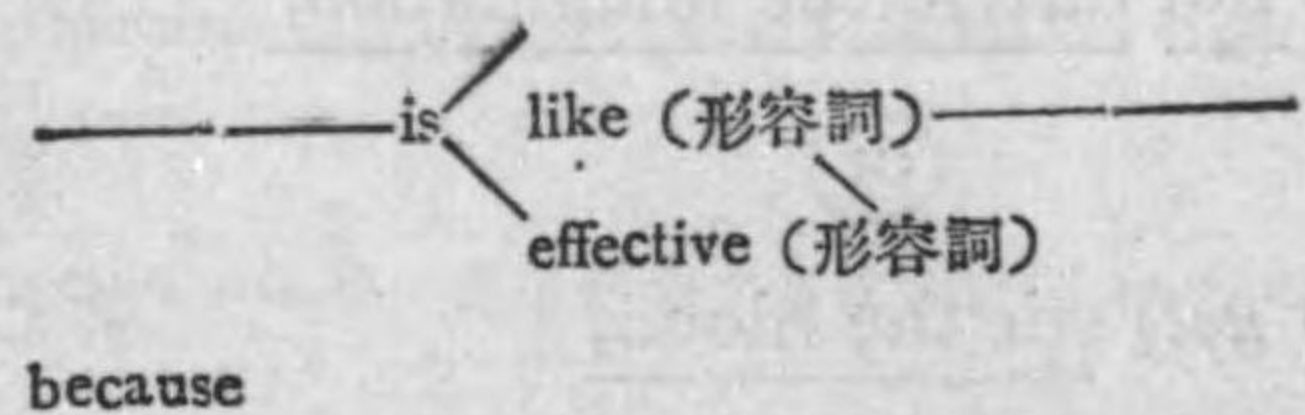


投票は戦争の一撃の如くなり、世は平和にして、血を見ることなしとて其の効果僅少なりと謂ふべからず。

〔類例〕

(a) Committees 以下 Councils に至るまでは二個の dash 間にあり。Public business の数例を挙げたるに過ぎず。度々注意したるが如く二個の dash は括弧と同じ価値あるものとす。

(b) None the less.....是に對する主語も動詞もなき故 like の直下に置き て a vote in peace is に連繋すべきものと假定して解釋を試みよ。自然その誤なきを發見せん。a vote.....battle も it is.....bloodless も成句なり。此の兩成句間にありて主語も動詞もなき effective は like と同じく is に連繋せざるべからず。圖を以て之を示せば下の如し。



〔註解〕

(a) Vestries. — 今説明に代ふるに二十世紀字書の vestry の解を擧げん。

Vestry—a meeting of the ratepayers to elect parish officers, to assess church-rates, and to manage the property of the parish, the incumbent acting as chairman.

(b) Romantic. — 傳奇的と譯すれど近頃は原語を用ふるもの多し。小説的、空想的にして快感を起すを謂ふ。semicolon 以下は they are not romantic を敷衍説明したるものなり。semicolon の用法に注意すべし。dazzle the imagination, stir the blood は romantic の特色を示す。

(c) None the less. — Nevertheless と同様に強き肯定を示す句なり。

the は because 以下の成句に對して程度を示し to that extent 若くは一層平易に言へば so much の力あり。平和にして血を流さずといふ理由を以てそれだけ effectiveness が減ずる (less) かと言はざらず (none) の義なり。

類例:—

He is a little too loose in his habit, but we cannot esteem him the less in other respects.

彼は少しく放縱に過ぎるが、それでも他の點に於て尊敬せざるを得ない。

He is not the better for all the medicines he has taken during these months.

彼はこの數ヶ月間に飲んだ藥で、それだけ快復するかと言ふとさうでない。

( 7 )

I spent but a short time in Stockholm,

but

quite sufficient to enable me to see much that was grandly beautiful in its neighbourhood.

Lakes, (*peeped out though the woods,*)

rocks, (*peeped out though the woods,*)

and

exquisite residences peeped out through the woods,

giving evidences of high civilization.

〔譯〕 余はストックホルムに唯だ少時を費し、其の附近に於ける壯麗なるもの、多くを見るには全く十分な